

道東自動車道
下トマム地区下部工工事
滝の沢川橋（下り線）
下部工設計図

令和 8 年 5 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1.	数量総括表	1
2.	全体一般図（その１～４）	2 ～ 5
3.	下部工座標図	6
4.	P 1 橋脚構造一般図	7
5.	P 1 橋脚配筋図（その１～４）	8 ～ 11
6.	P 1 橋脚大口径深礎杭配筋図（その１～２）	12 ～ 13
7.	P 1 橋脚ガイドウォール詳細図	14
8.	P 1 橋脚土留工詳細図	15
9.	P 1 橋脚深礎土留め工詳細図	16
10.	P 2 橋脚構造一般図	17
11.	P 2 橋脚配筋図（その１～７）	18 ～ 24
12.	P 2 橋脚土留工詳細図	25
13.	P 3 橋脚構造一般図	26
14.	P 3 橋脚配筋図（その１～７）	27 ～ 33
15.	P 3 橋脚土留工詳細図（その１～２）	34 ～ 35

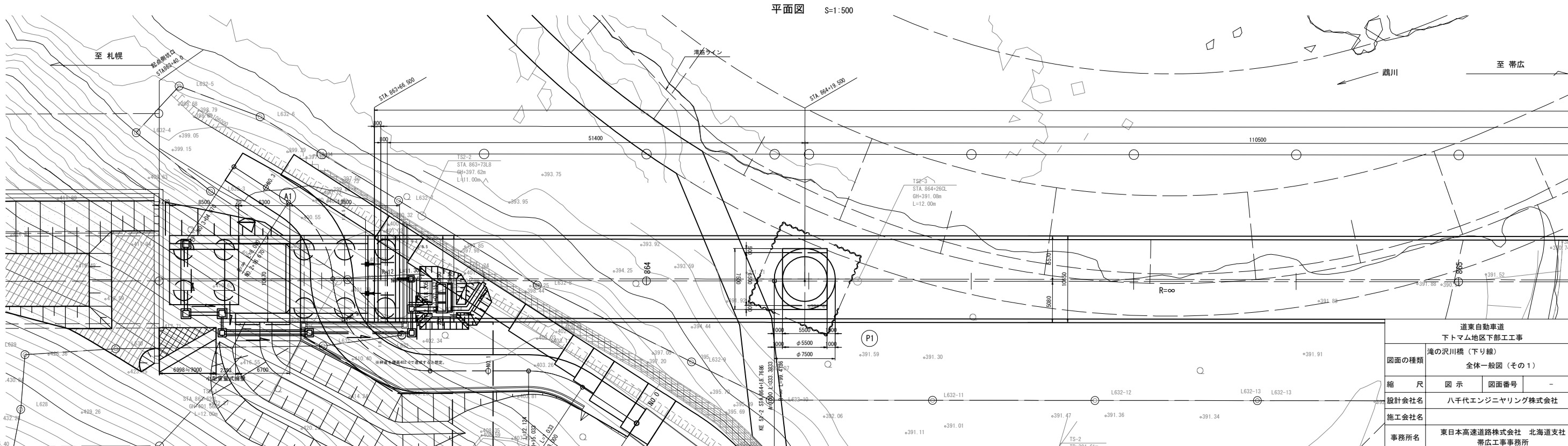
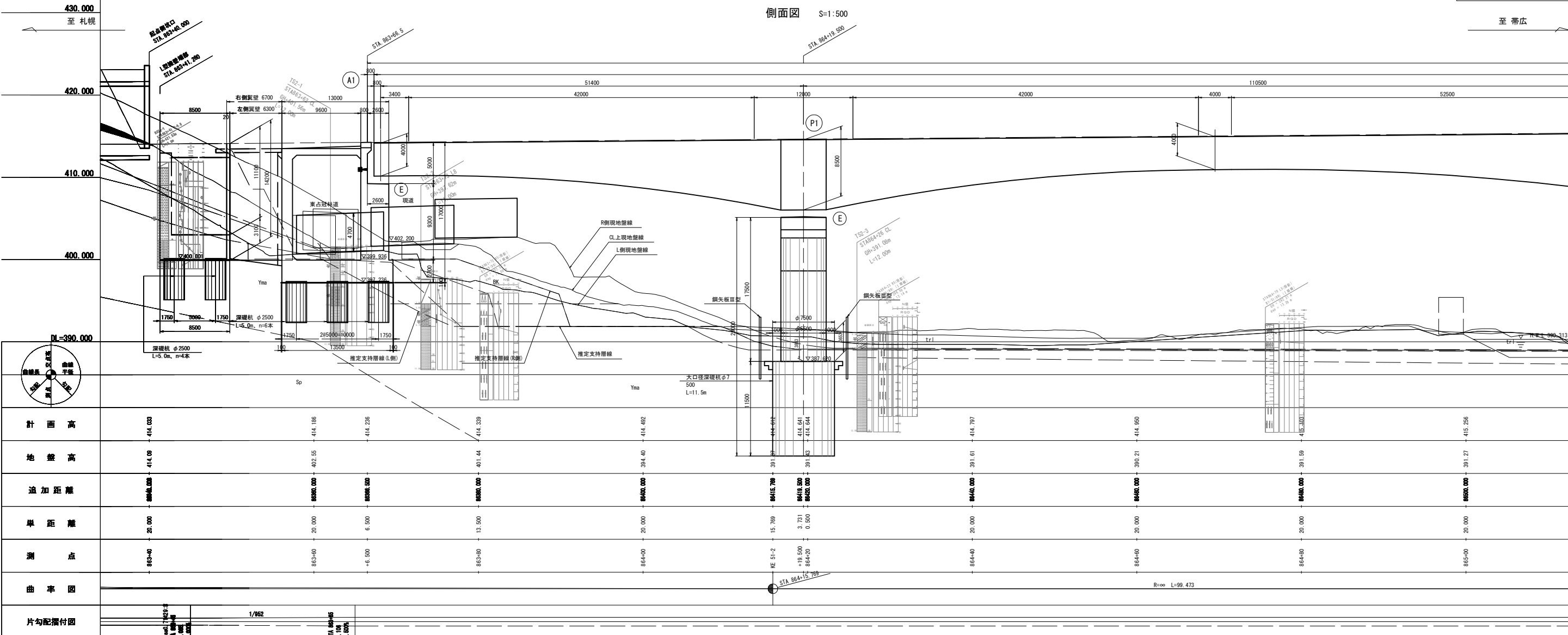
下部工施工

項 目	種 別			単位	P 1 橋脚	P 2 橋脚	P 3 橋脚	合 計	摘 要
客土掘削	土砂 A 1			m3	324. 8	1, 363. 1	972. 2	2, 660. 1	
構造物掘削	特殊部			m3	417. 0	2, 271. 4	1, 643. 8	4, 332. 2	
基礎杭	場所打ちコンクリート杭（人力掘削, φ 7500）			m	11. 5	－	－	11. 5	
	埋設ライナープレート（φ 7500, t 2. 7）			m	10. 0	－	－	10. 0	
	裏込めグラウト			m3	21. 5	－	－	21. 5	
コンクリート	A 1－3			m3	261. 4	331. 8	242. 1	835. 3	躯体 σ ck=30N/mm2
	B 2－1			m3	508. 1	787. 5	588. 0	1, 883. 6	σ ck=24N/mm2 フーチング・深礎杭 (P1橋脚)
	D 1－1			m3	－	23. 1	20. 2	43. 3	σ ck=18N/mm2 均しコンクリート
型わく	C			m2	190. 1	361. 7	344. 0	895. 8	
	D			m2	－	6. 1	5. 7	11. 8	
	R			m2	－	52. 5	－	52. 5	
鉄 筋	躯体	A	D16～D25	t	12. 286	22. 938	5. 908	41. 132	SD345（重ね継手）
			D29～D32	t	－	0. 630	－	0. 630	
			小 計	t	12. 286	23. 568	5. 908	41. 762	
		B	D29～D32	t	－	17. 160 [176]	－	17. 160 [176]	SD345（機械継手）
			D35	t	－	－	23. 247 [183]	23. 247 [183]	
			D38	t	－	62. 534 [380]	27. 611 [183]	90. 145 [563]	
			小 計	t	－	79. 694 [556]	50. 858 [366]	130. 552 [922]	
		C	D16～D25	t	－	1. 507 (272)	7. 725 (750)	9. 232 (1022)	SD345（機械式鉄筋定着）
			小 計	t	－	1. 507 (272)	7. 725 (750)	9. 232 (1022)	
		B（H）	D51	t	33. 975	34. 352	16. 536	84. 863	SD490（機械継手）
			小 計	t	33. 975	34. 352	16. 536	84. 863	
		B（H）（E）	D51	t	19. 976 [240]	29. 472 [224]	12. 345 [104]	61. 793 [568]	SD490（機械継手） エポキシ樹脂鉄筋
			小 計	t	19. 976 [240]	29. 472 [224]	12. 345 [104]	61. 793 [568]	
		合 計		t	66. 237	168. 593	93. 372	328. 202	
	基礎杭	A	D16～D25	t	3. 142	－	－	3. 142	SD345（重ね継手）
			D29～D32	t	22. 695	－	－	22. 695	
			D51	t	21. 600	－	－	21. 600	
			小計	t	47. 437	－	－	47. 437	

注1) [] 内は鉄筋の機械継手箇所数を示す。
注2) ()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

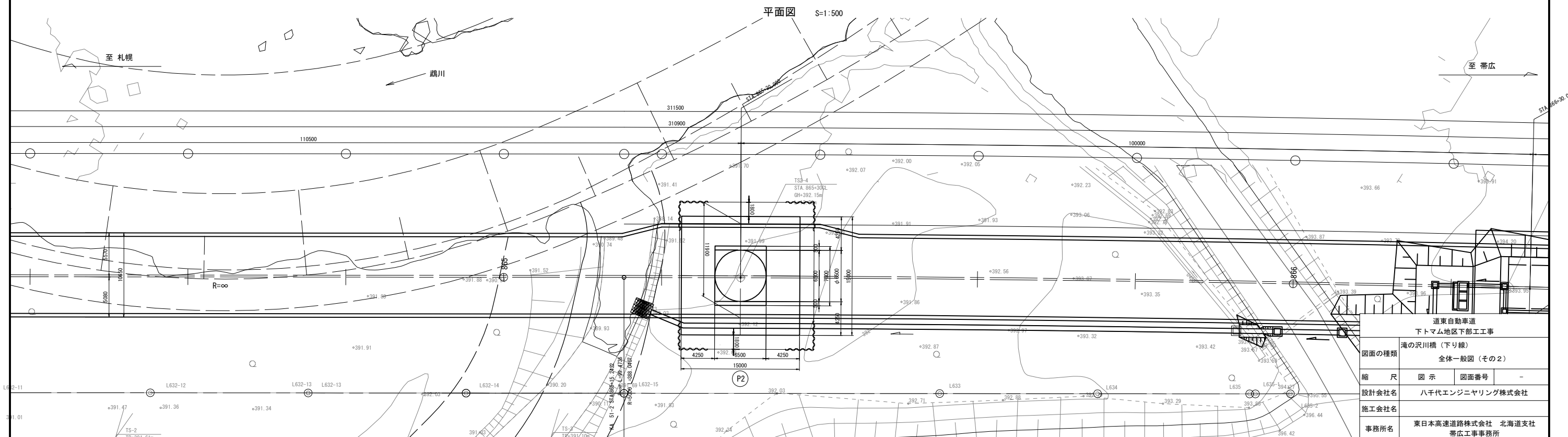
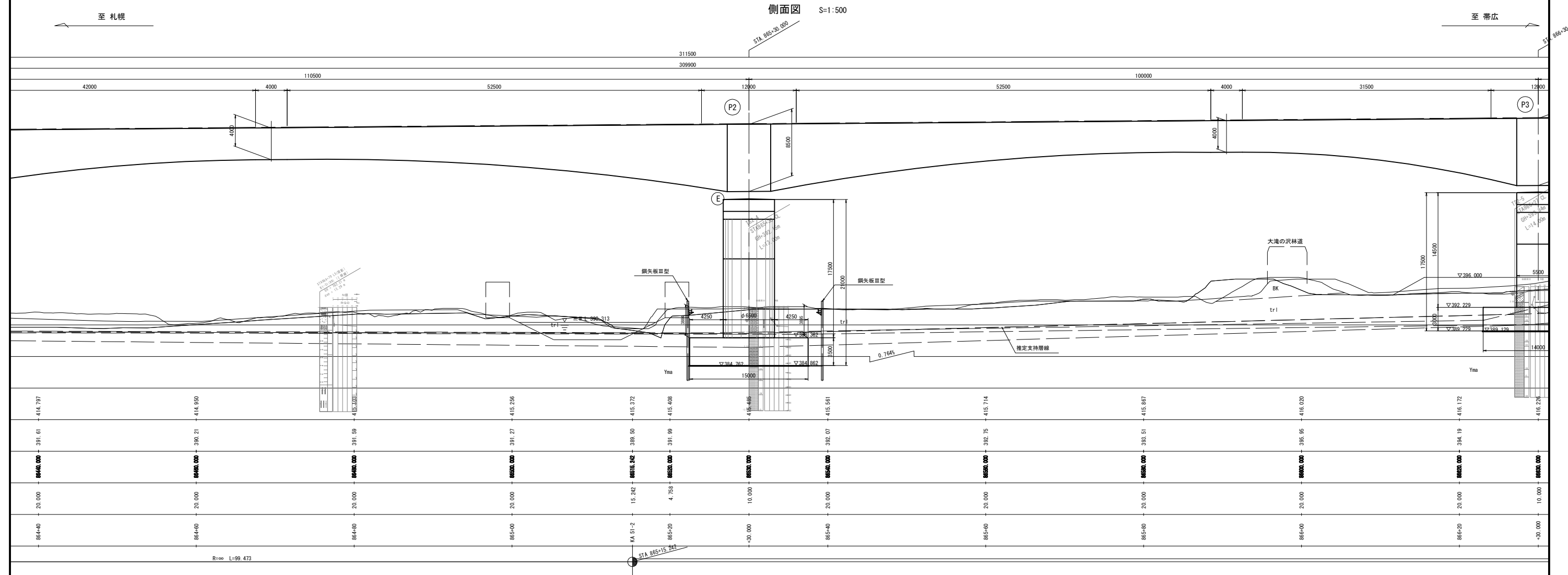
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	－
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

滝の沢川橋（下り線）全体一般図（その1）



	道東自動車道 下トマム地区下部土工事		
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） 全体一般図（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

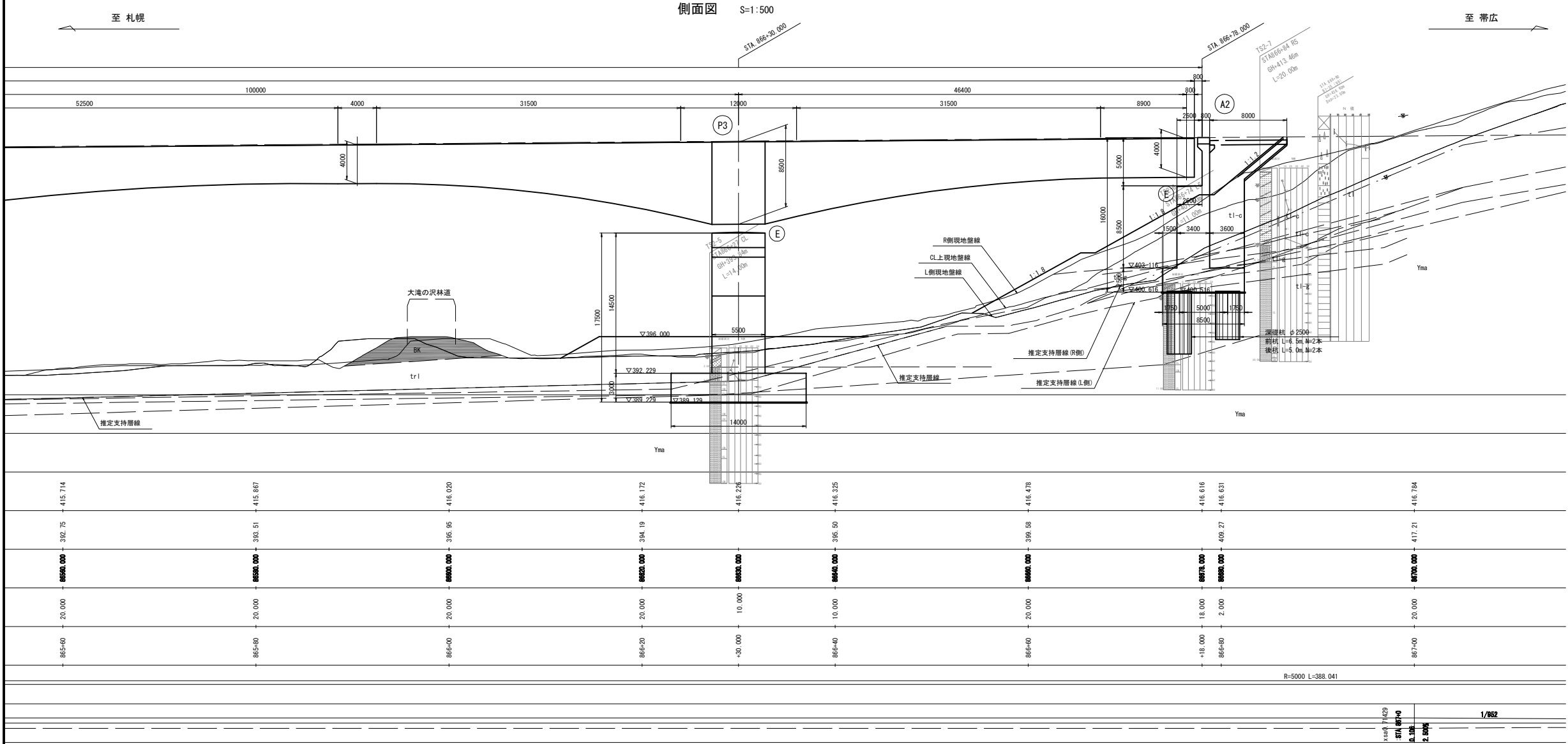
滝の沢川橋（下り線）全体一般図（その2）



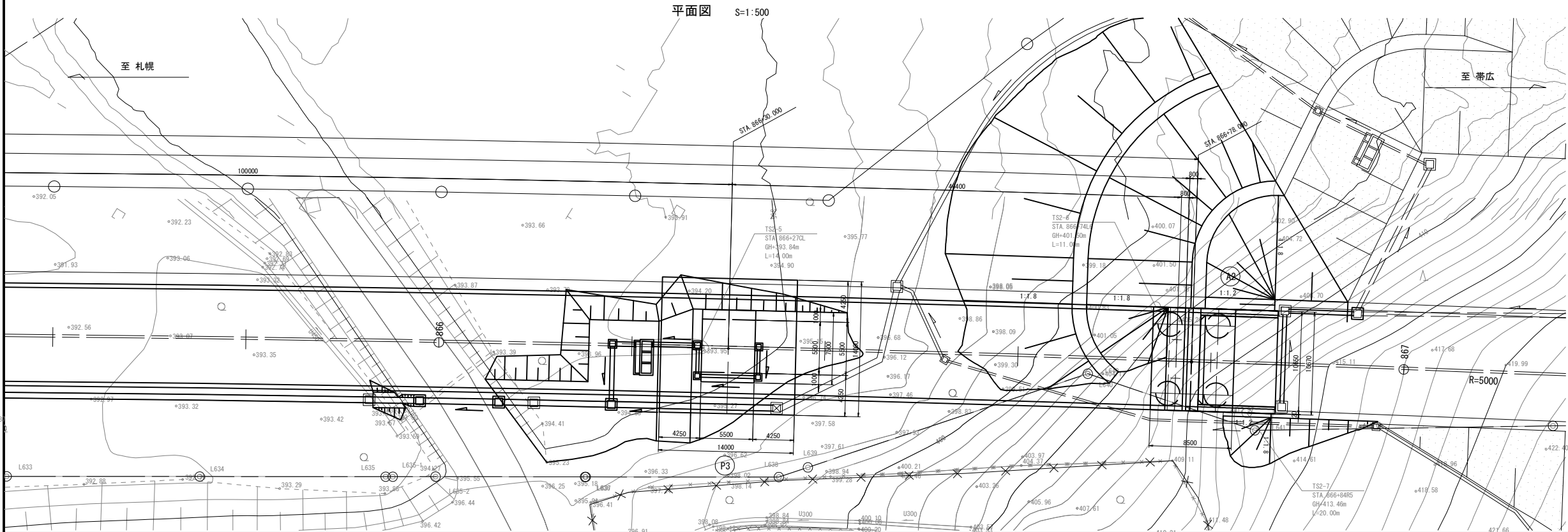
道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） 全体一般図（その２）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

滝の沢川橋（下り線）全体一般図（その3）

側面図 S=1:500



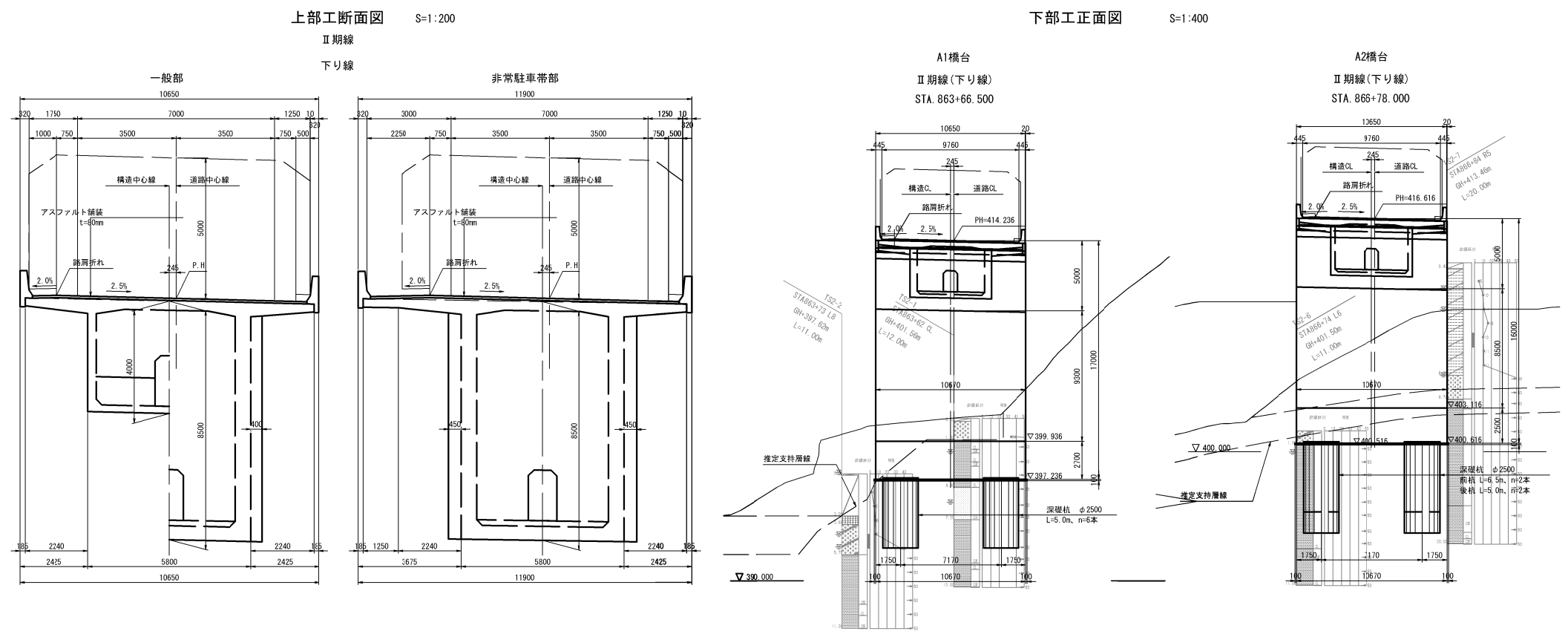
平面図 S=1:500



地質凡例

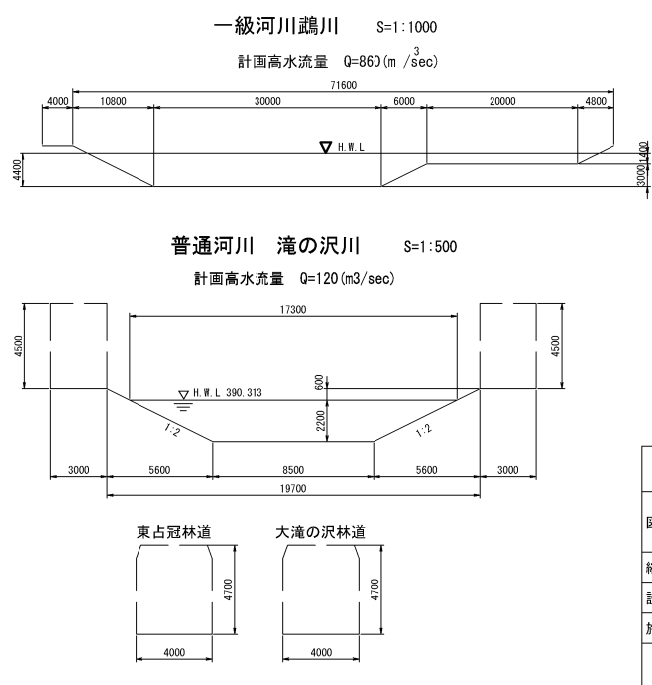
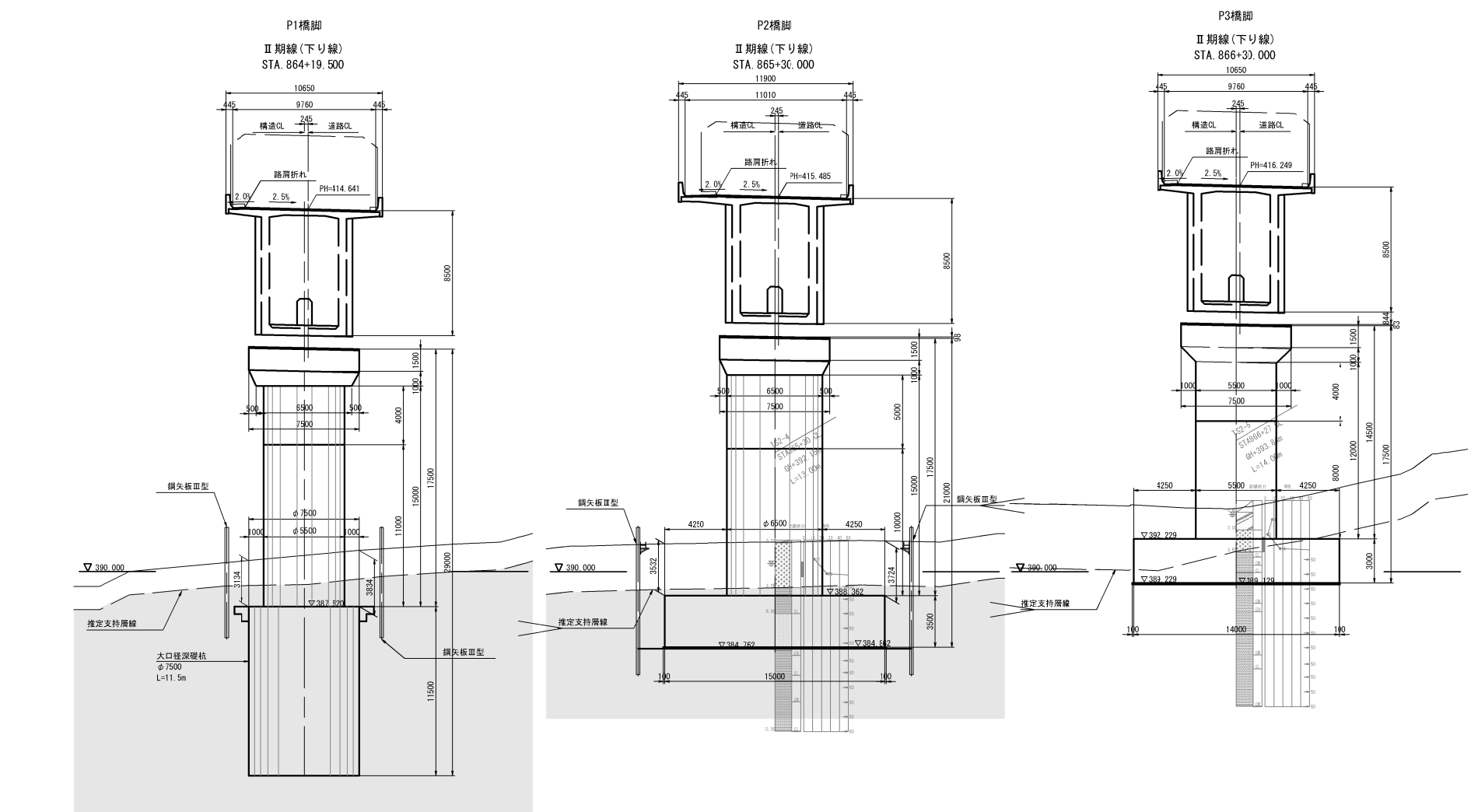
地質時代	地質名	記号
第四紀	盛土	bk
	崖線堆積物	tl
	低位段丘堆積物	trl
白亜紀	中部組夷層群	Yma

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） 全体一般図（その3）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

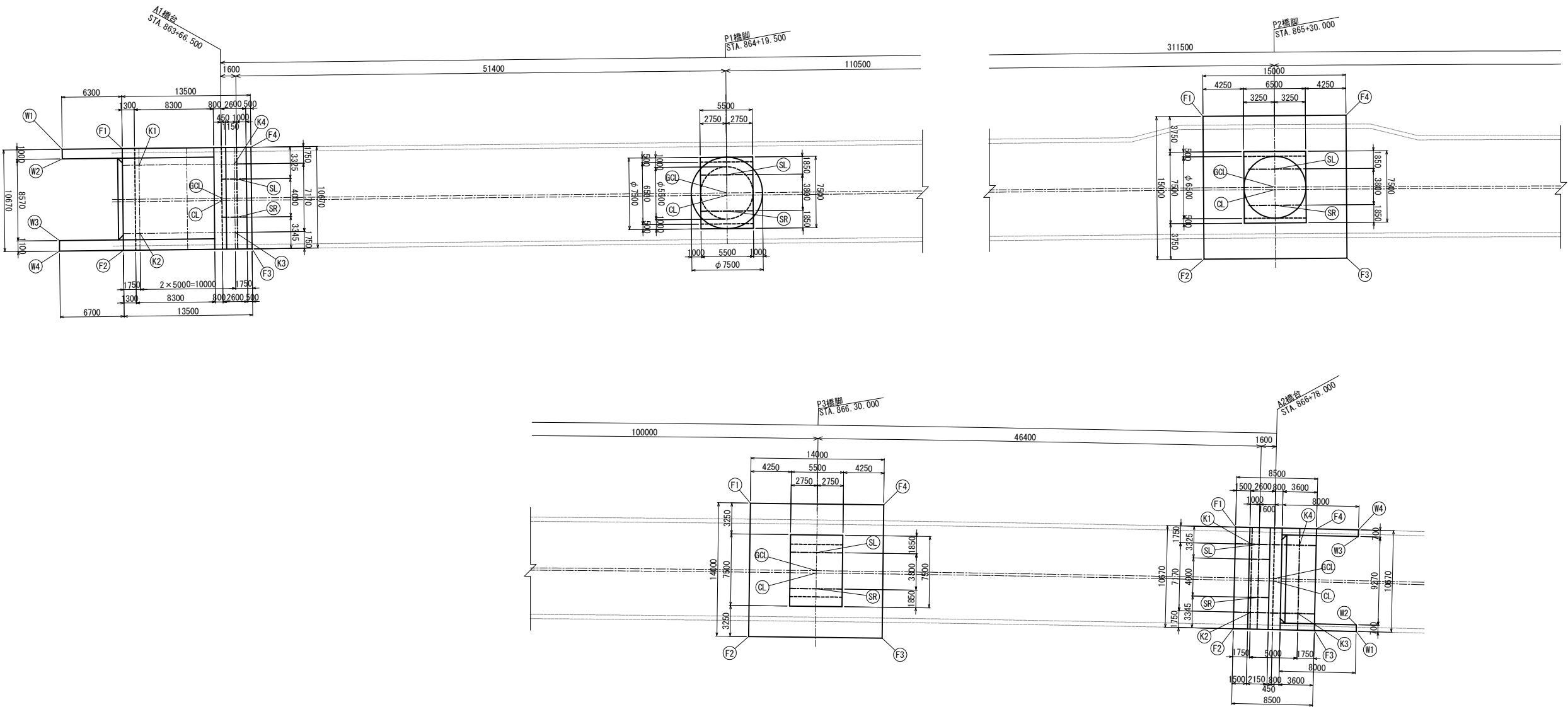


設計条件

橋 長	311.500 m		桁 長	309.600 m
道路規格	第 1 種第 2 級 B 規格		設計速度	V = 100 km/h
設計活荷重	B 活 荷 重			
形 式	上 部 工	4径間連続PC箱桁（張出架設）		
	下 部 工	橋台：逆 T 式橋台（A 1 ・ A 2） 橋脚：張出式橋脚（P 1 ・ P 2 ・ P 3）		
	基 礎 工	橋台：組杭深礎杭（φ2500） 橋脚：大口径深礎杭（φ7500）、直接基礎		
支 間 割	51.400 m + 110.500 m + 100.000 m + 46.400 m			
有 効 幅 員	10.010 m			
斜 角	右 90° 00' 00"			
平面線形	A = 1000 ~ R = ∞ ~ R = 5000			
横断勾配	車道部：片勾配 2.500%			
縦断勾配	0.764%			
使用材料	上 部 工	コンクリート	σ _{ck} = 40N/mm ² σ _{ck} = 30N/mm ² （地面）	
		鉄 筋	SD345	
	下 部 工	P C 鋼 材	SNPR7BL13S15.2、12S15.2、SNPR19L1S28.6	
		コンクリート	橋台：σ _{ck} = 30N/mm ² （躯体） σ _{ck} = 24N/mm ² （フーチング） 橋脚：σ _{ck} = 30N/mm ² （柱） σ _{ck} = 24N/mm ² （フーチング）	
		鉄 筋	橋台：SD345（躯体、フーチング） 橋脚：SD490（柱）、SD345（フーチング）	
	基 礎 工	コンクリート	σ _{ck} = 24N/mm ²	
設計水平震度	鉄 筋	SD345		
	レベル 1	レベル 2（タイプⅠ）	レベル 2（タイプⅡ）	
	橋軸方法	0.15	0.66	0.54
直角方法	0.14	0.63	0.48	
	適用基準			
道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ（平成29年11月） 設計要領第二集（平成28年8月） 設計要領第四集（令和5年7月）				



道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋(下り線) 全体一般図(その4)		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



下部工座標値

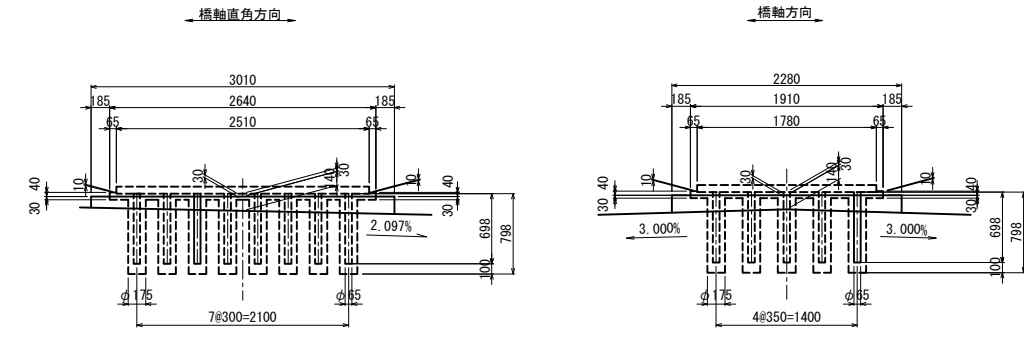
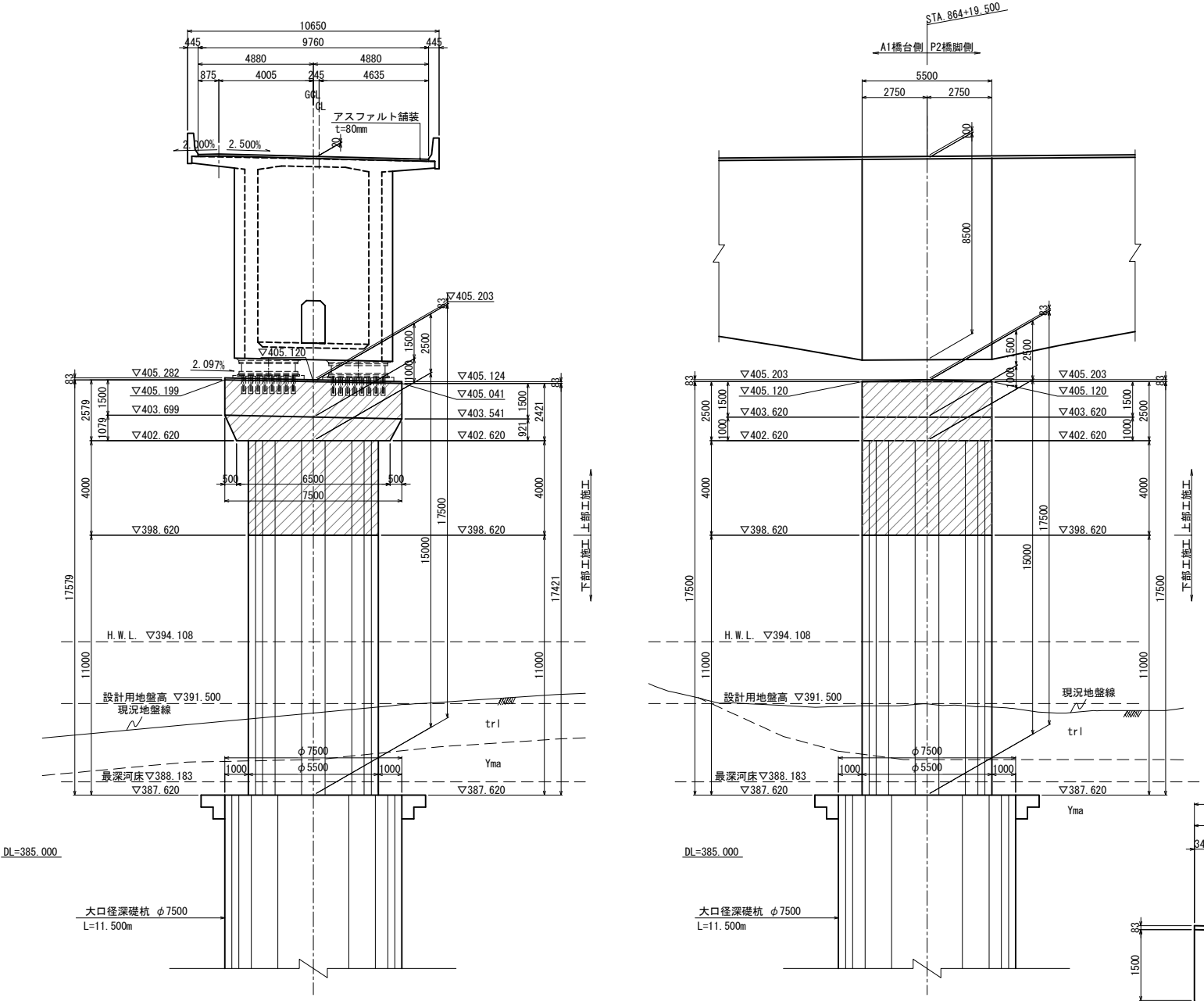
位置	番号	A1		P1		P2		P3		A2	
		X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y
道路中心	CL	-106006.4355	18778.5259	-105978.4092	18823.5095	-105920.0309	18917.3297	-105868.2879	19002.9003	-105844.0615	19044.3377
構造物中心	GCL	-106006.2276	18778.3961	-105978.2012	18823.3800	-105919.8225	18917.2008	-105868.0770	19002.7756	-105843.8494	19044.2151
支承中心	SL	-106003.6839	18778.6944	-105976.5882	18822.3759	-105918.2066	18916.2015	-105866.4414	19001.8088	-105842.9192	19041.8290
	SR	-106007.0771	18780.8125	-105979.8142	18824.3842	-105921.4385	18918.2001	-105869.7126	19003.7424	-105846.3819	19043.8313
フーチング	F1	-106007.2173	18766.7541	-	-	-105917.3885	18906.8772	-105865.6130	18993.1876	-105841.2919	19038.0002
	F2	-106016.2687	18772.4040	-	-	-105930.1461	18914.7668	-105877.6649	19000.3116	-105850.5289	19043.3413
	F3	-106009.1203	18783.8561	-	-	-105922.2565	18927.5243	-105870.5409	19012.3635	-105846.2741	19050.6997
	F4	-106000.0689	18778.2063	-	-	-105909.4990	18919.6348	-105858.4890	19005.2396	-105837.0371	19045.3586
ウイング	W1	-106010.5532	18761.4098	-	-	-	-	-	-	-105844.0716	19054.5088
	W2	-106011.4015	18761.9393	-	-	-	-	-	-	-105843.4656	19054.1584
	W3	-106018.8833	18766.1379	-	-	-	-	-	-	-105835.4406	19049.5181
	W4	-106019.8164	18766.7203	-	-	-	-	-	-	-105834.8346	19049.1677
杭中心	K1	-106007.7752	18769.1653	-	-	-	-	-	-	-105841.9309	19040.3912
	K2	-106013.8575	18772.9619	-	-	-	-	-	-	-105848.1379	19043.9803
	K3	-106008.5624	18781.4449	-	-	-	-	-	-	-105845.6351	19048.3087
	K4	-106002.4801	18777.6484	-	-	-	-	-	-	-105839.4280	19044.7197

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線）		
	下部工座標図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

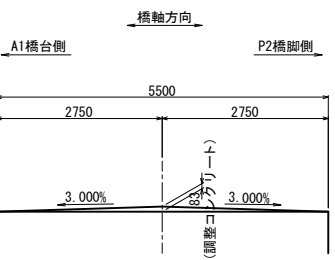
正面図

側面図

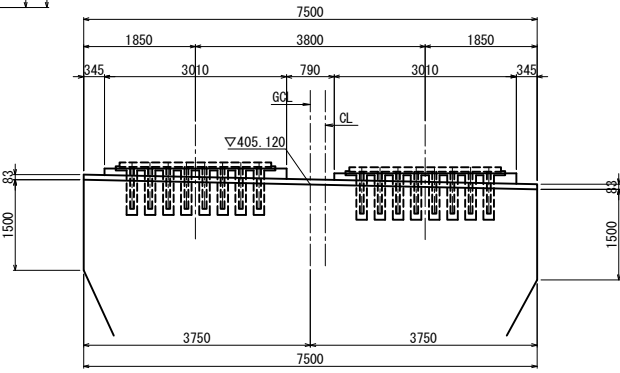
支承詳細図 S=1:75



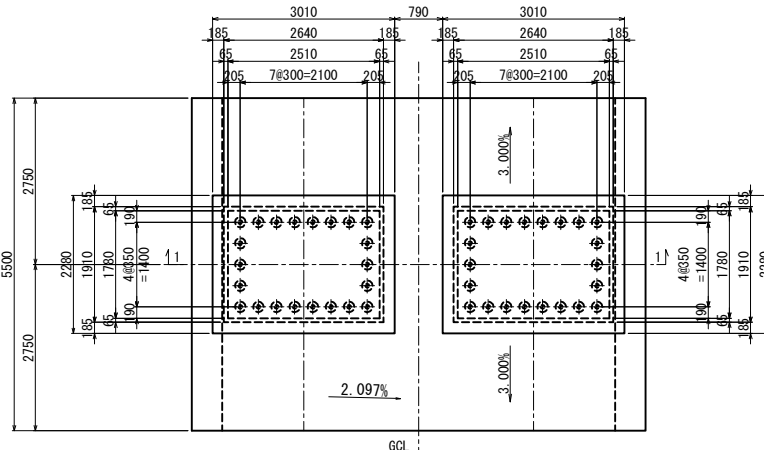
橋脚天端詳細図 S=1:125



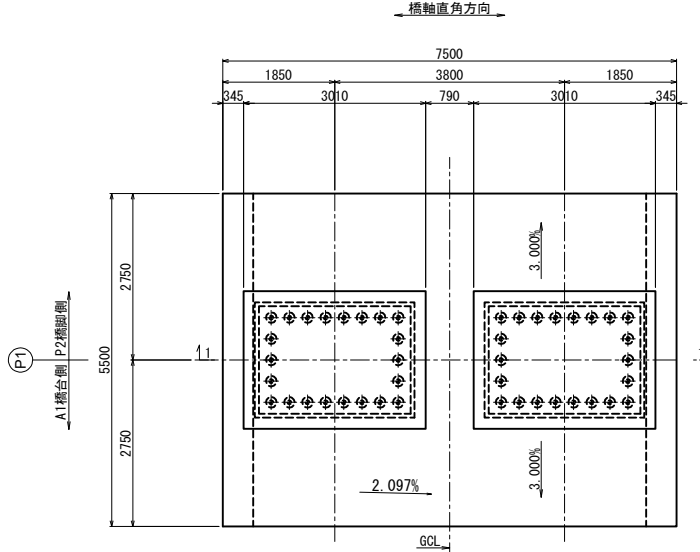
橋座面断面図 S=1:125



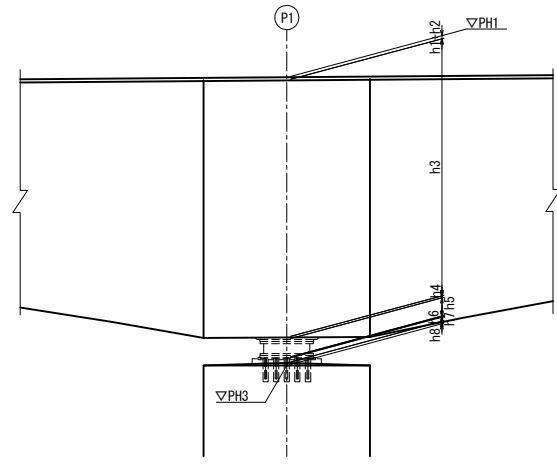
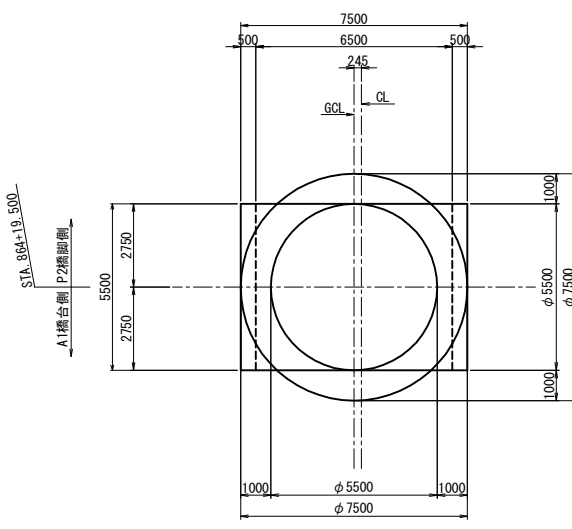
支承詳細平面図 S=1:125



橋座面平面図 S=1:125



平面図



構造高表（支承ライン）

		P1			
		SL	GCL	CL	SR
計 画 高	PH1	414.695	414.647	414.641	414.600
舗 装 厚	h1	0.080	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.027	0.020		0.012
桁 高	h3	8.500			8.500
レ ア ー 厚	h4	0.070			0.070
支 承 高	h5	0.604			0.604
小 計	Σ h1	9.281			9.266
モルタル天端高	PH2	405.413			405.334
寄座モルタル高	h6	0.030			0.030
台 座 高	h7	0.140			0.140
調整コンクリート	h8	0.083			0.083
橋 座 高	PH3	405.160	405.120	405.115	405.081
横 断 勾 配 (%)	i	-2.097%			
構 造 高 合 計	Σ h	9.535	9.527	9.526	9.519

※調整コンクリートは主桁コンクリートと同時に打設する。

上部工施工材料基準強度

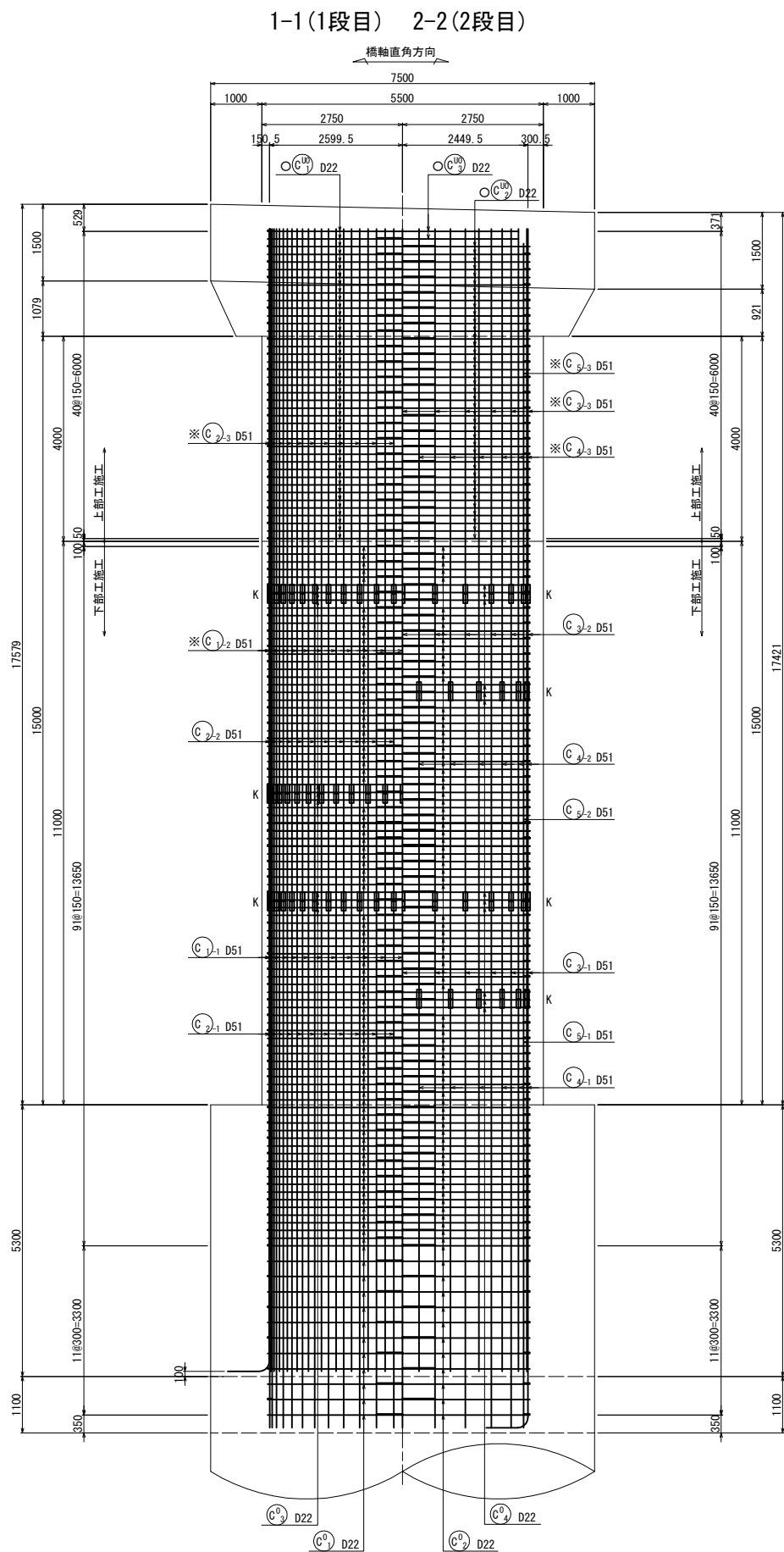
	コンクリート	鉄 筋
梁	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD345
柱	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490

下部工施工材料基準強度

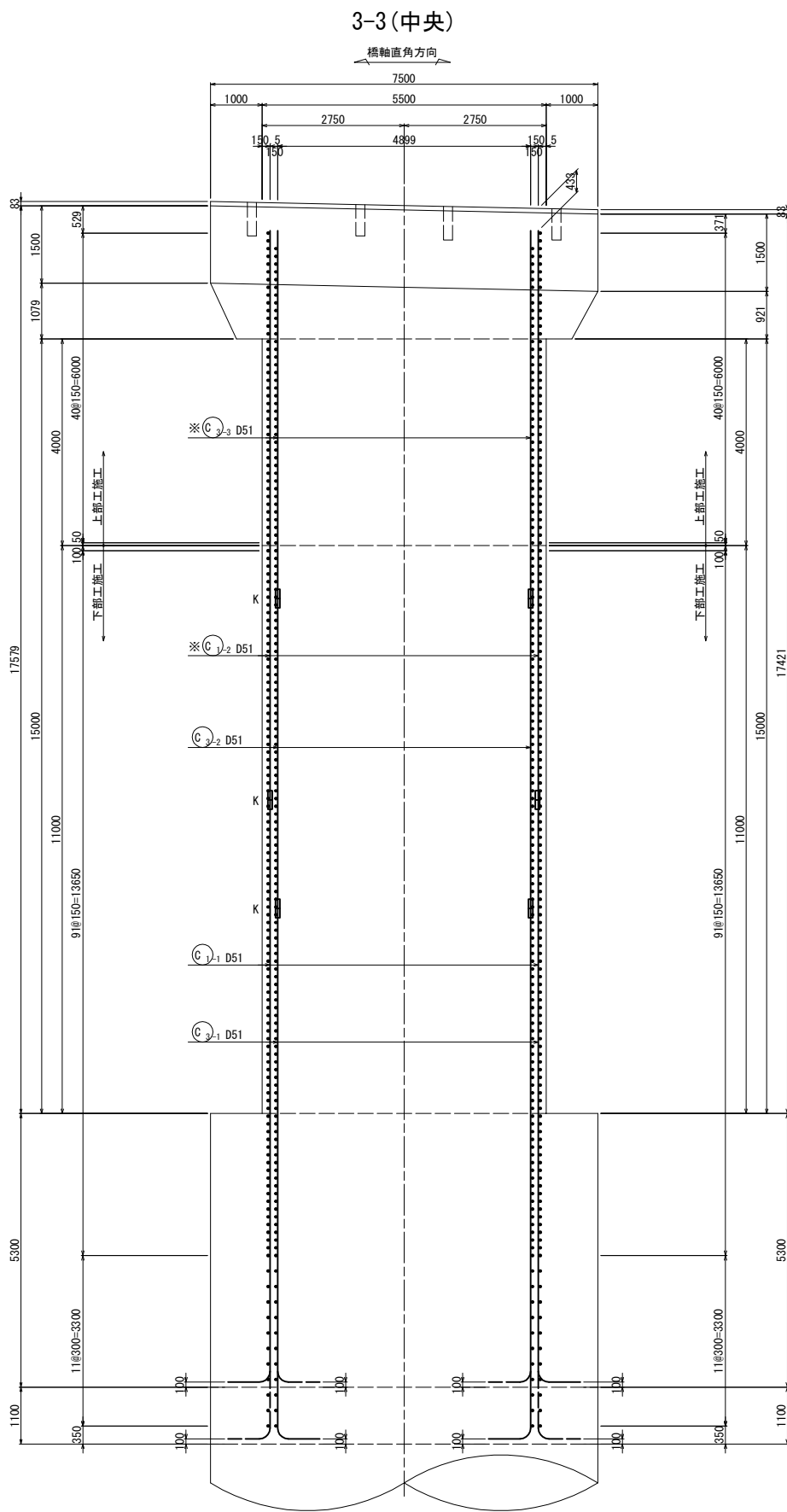
	コンクリート	鉄 筋
柱	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490
深礎杭	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	SD345

※ ハッチング部 は上部工施工を示す。

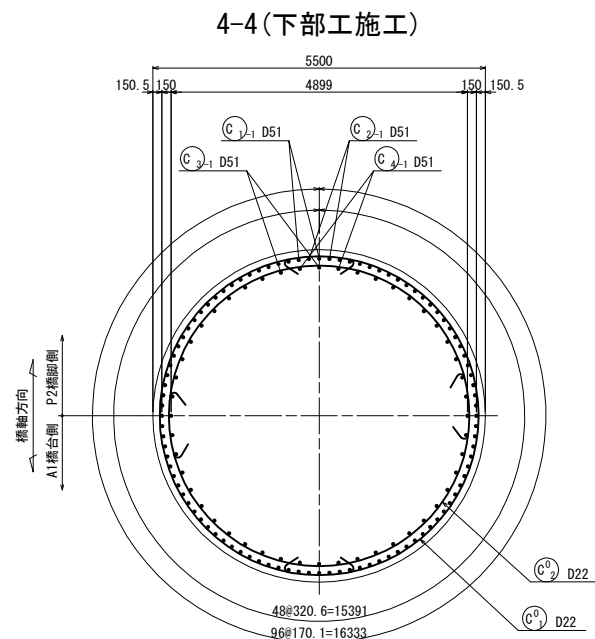
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



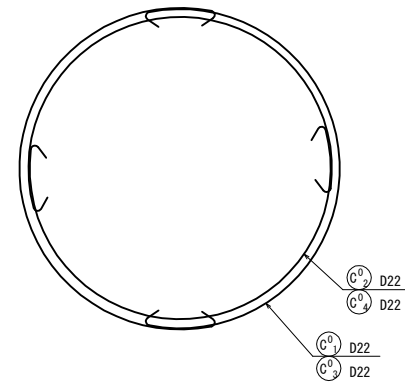
- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書・同解説 (R7. 10 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。



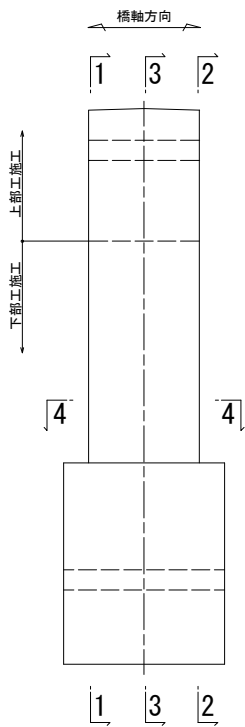
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注7) $\frac{K}{\square}$ 印は機械継手位置を表す。
- 注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
- 尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
- 注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。



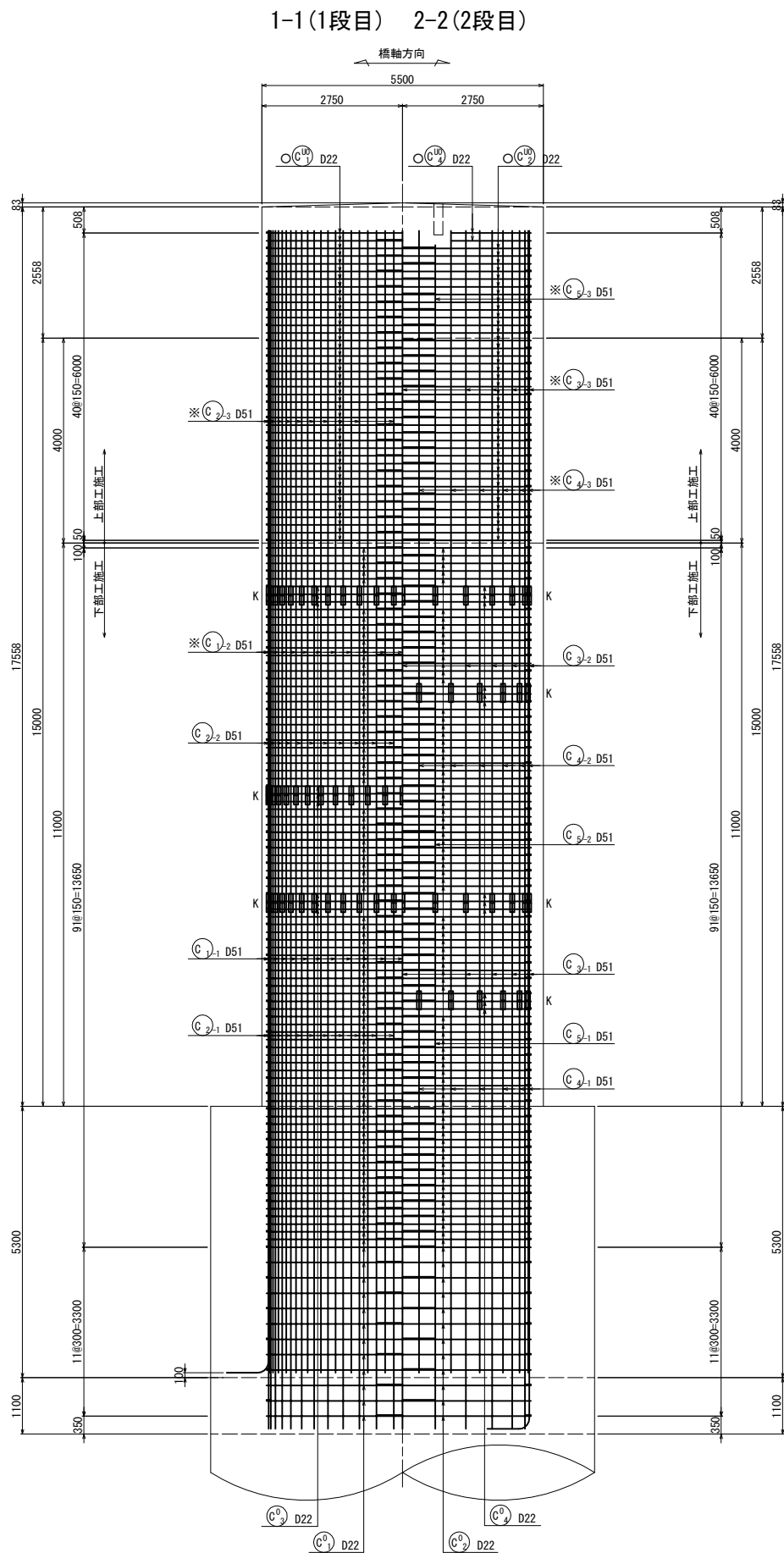
帯鉄筋及び中間帯鉄筋組立図



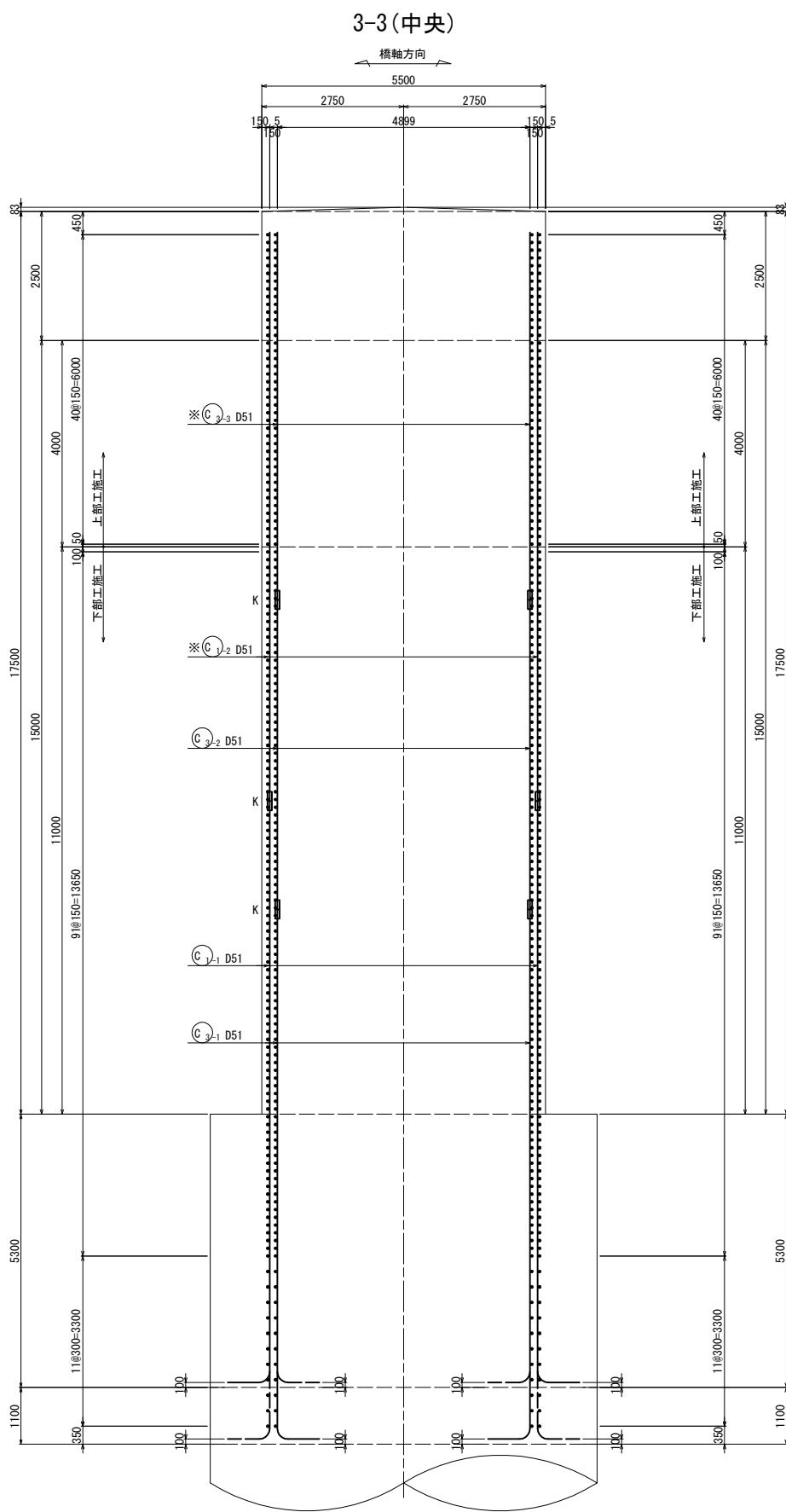
位置図



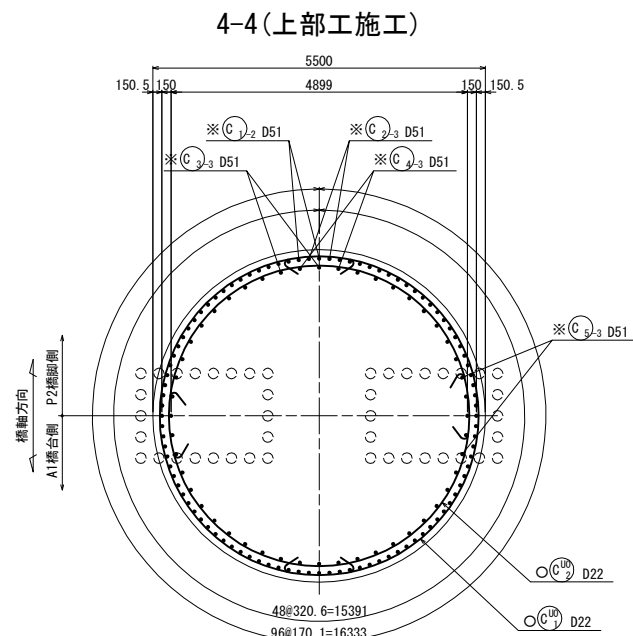
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



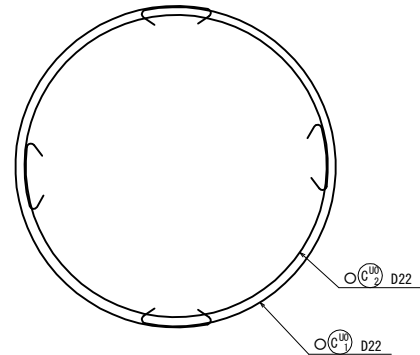
注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。



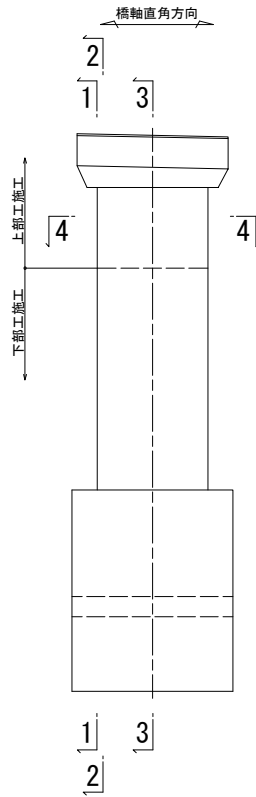
注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
注7) $\frac{K}{\text{---}}$ 印は機械継手位置を表す。
注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。



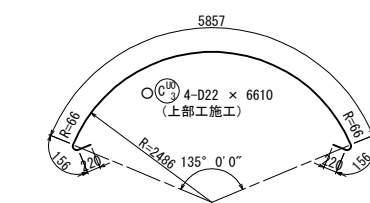
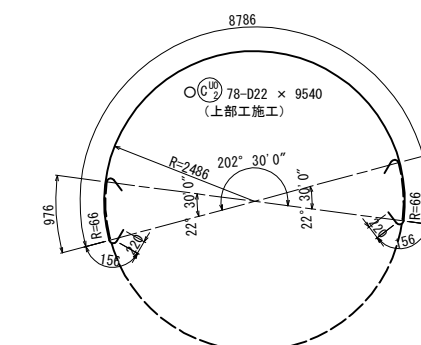
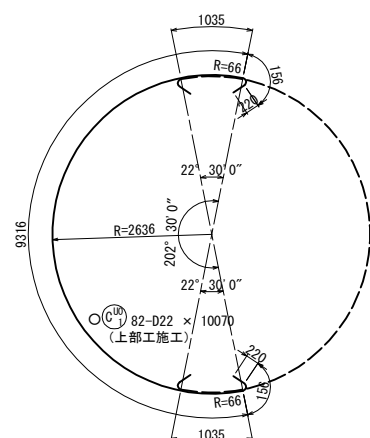
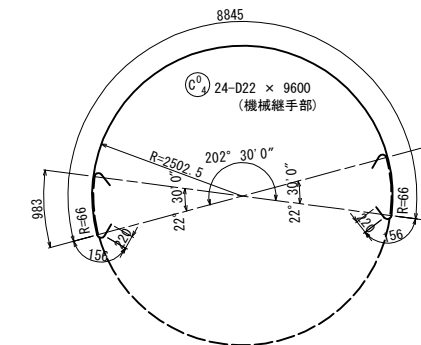
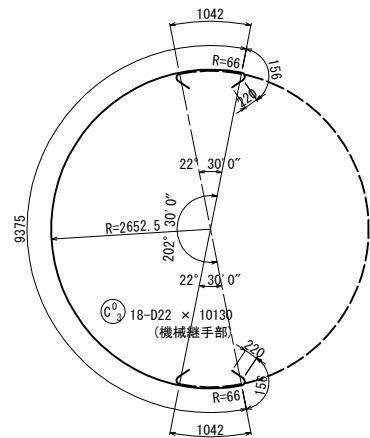
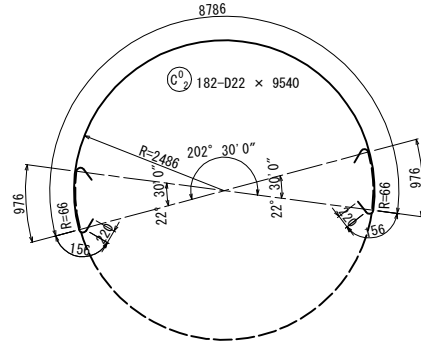
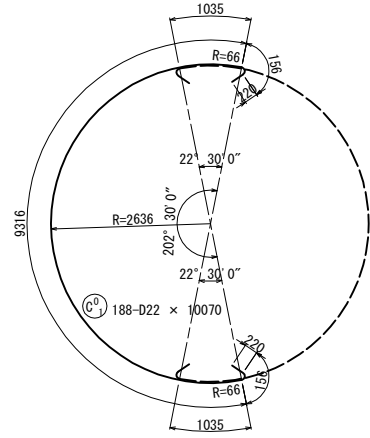
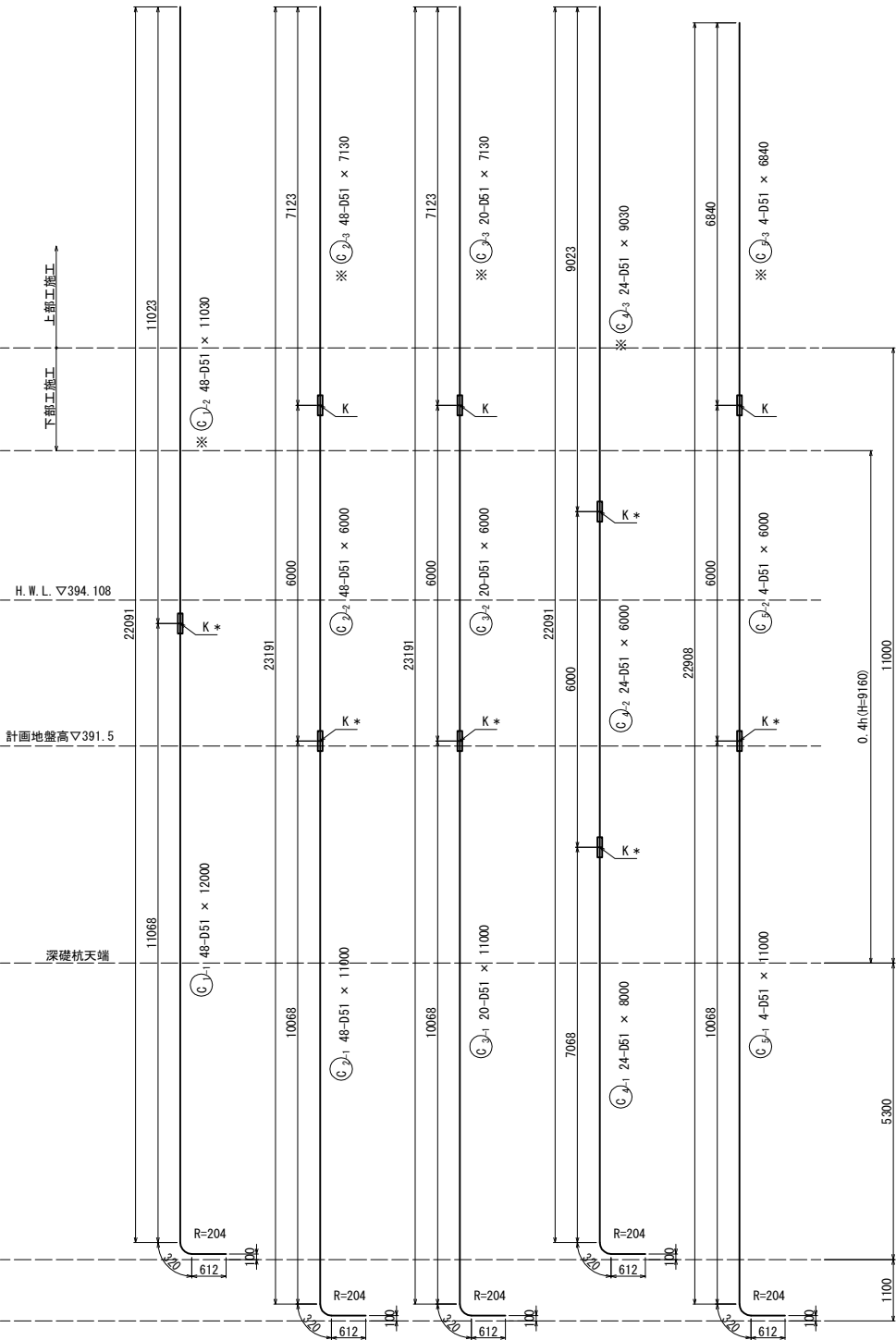
帯鉄筋及び中間帯鉄筋組立図



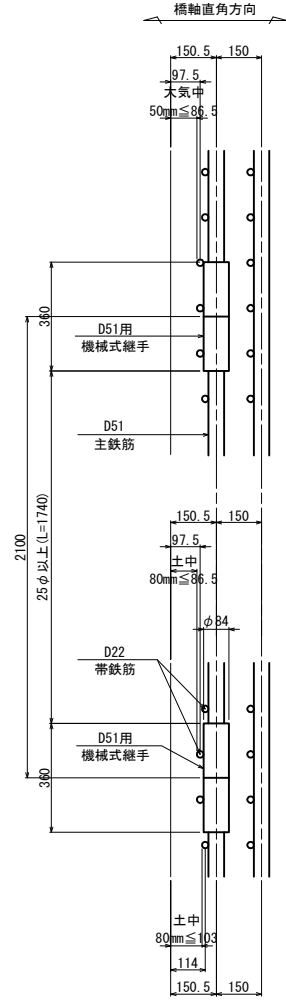
位置図



道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		





















かぶり詳細図 S=1:25

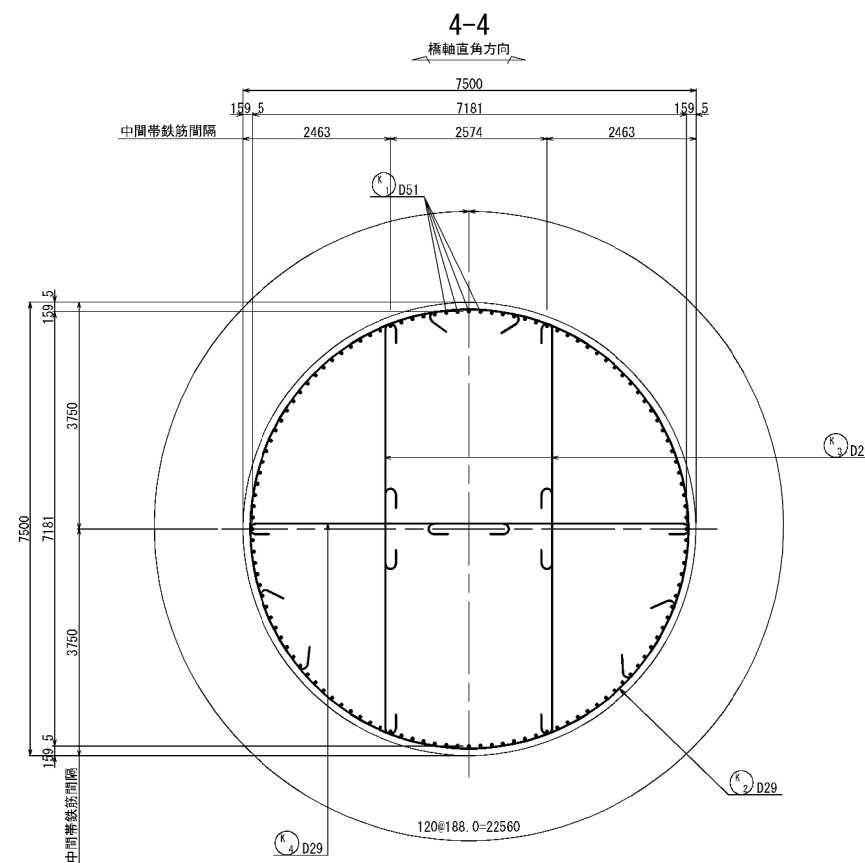
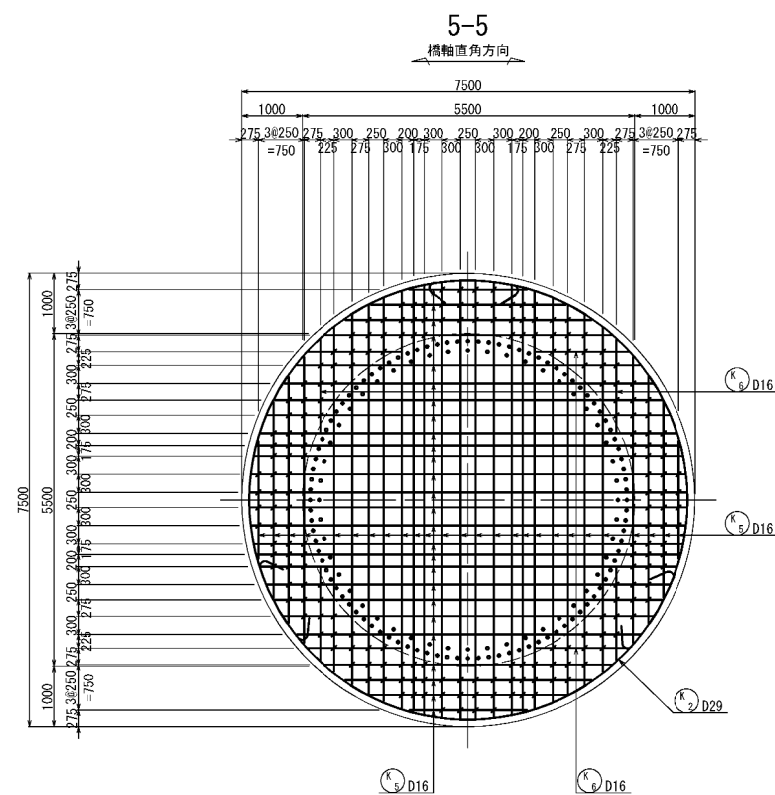
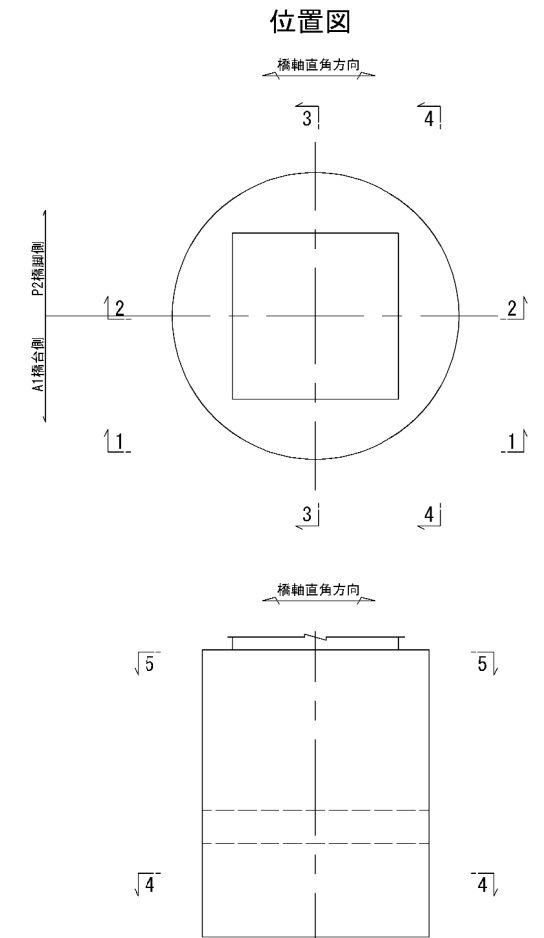
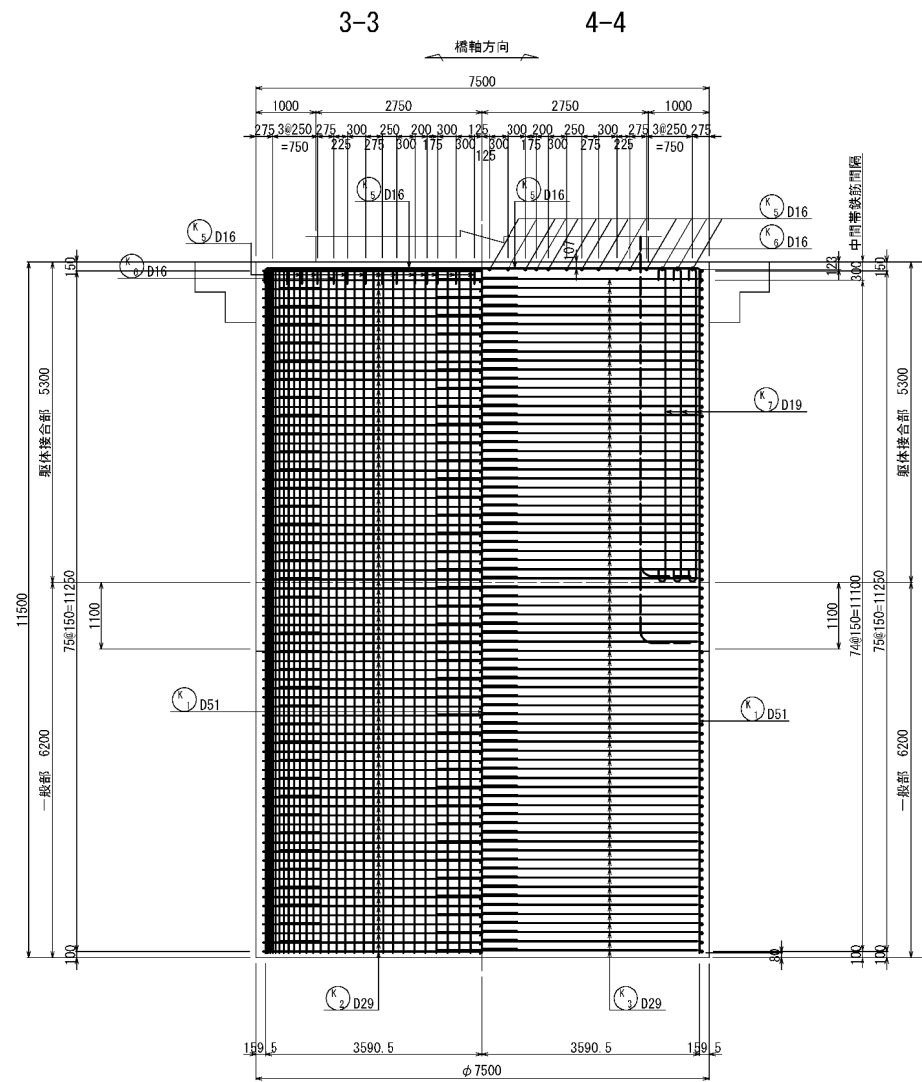
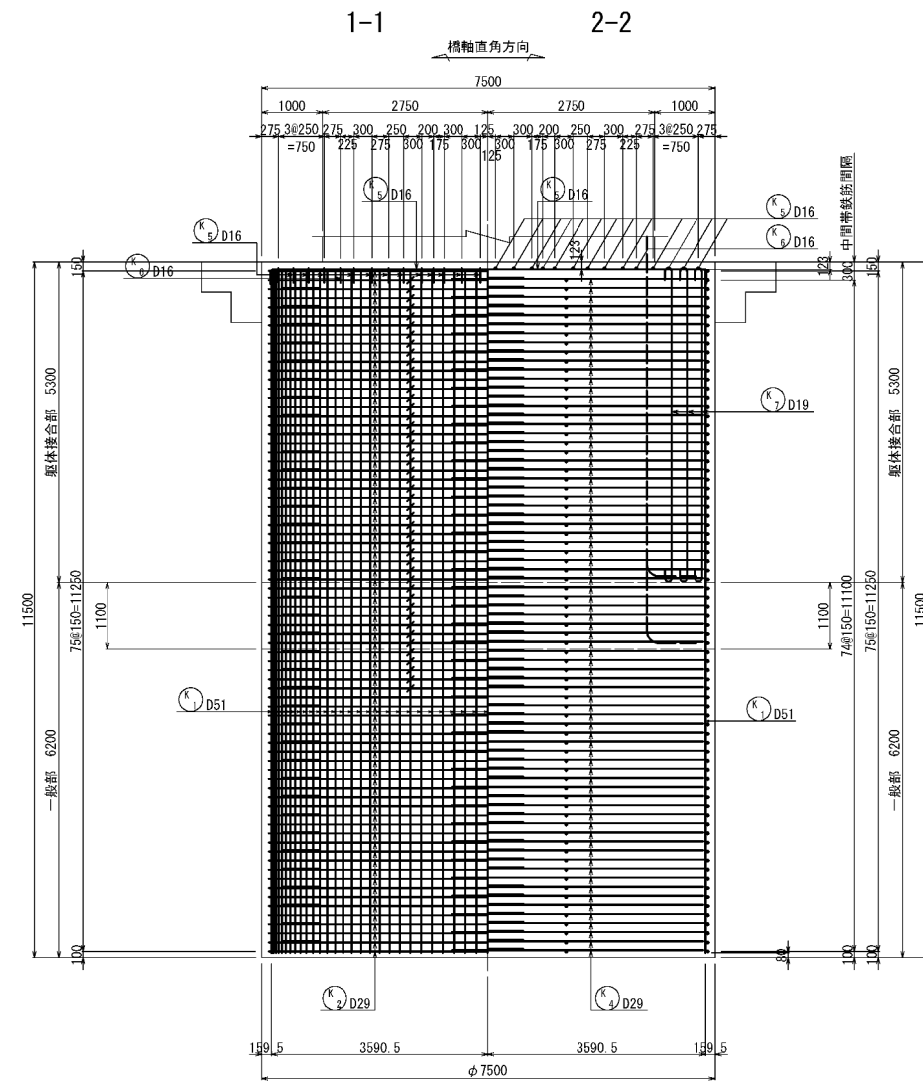


注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
注7) K印は機械継手位置を表す。
注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トムム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表(下部工施工)

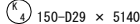
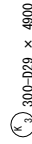
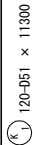
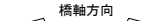
種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要	材 質
※	C 1-1	D51	12000	48	15.9	191	 (48)	SD490
	1-2	D51	11030	48	15.9	175	 (48)	SD490
	2-1	D51	11000	48	15.9	175	 (48)	SD490
※	2-2	D51	6000	48	15.9	95.4	 (48)	SD490
	2-3	D51	7130	48	15.9	113	 (48)	SD490
	3-1	D51	11000	20	15.9	175	 (48)	SD490
※	3-2	D51	6000	20	15.9	95.4	 (20)	SD490
	3-3	D51	7130	20	15.9	113	 (20)	SD490
	4-1	D51	8000	24	15.9	127	 (24)	SD490
※	4-2	D51	6000	24	15.9	95.4	 (24)	SD490
	4-3	D51	9030	24	15.9	144	 (24)	SD490
	5-1	D51	11000	4	15.9	175	 (4)	SD490
※	5-2	D51	6000	4	15.9	95.4	 (4)	SD490
	5-3	D51	6840	4	15.9	109	 (4)	SD490
	小計						53951 kg	
C ⁰	1	D22	10070	188	3.04	30.6		SD345
	2	D22	9540	182	3.04	29.0		SD345
	3	D22	10130	18	3.04	30.8		SD345
	4	D22	9600	24	3.04	29.2		SD345
小計						12286 kg		
鉄筋総質量 (SD490) (防錆処理鉄筋)								
径	A	B	C	総質量	機械継手箇所数	機械式鉄筋定着体箇所数		
D51	-	kg	19976kg	-	kg	19976kg	(144)	
合計	-	kg	19976kg	-	kg	19976kg	(144)	
鉄筋総質量 (SD490)								
径	A	B	C	総質量	機械継手箇所数	機械式鉄筋定着体箇所数		
D51	-	kg	33975kg	-	kg	33975kg	(96)	
合計	-	kg	33975kg	-	kg	33975kg	(96)	
鉄筋総質量 (SD345)								
径	A	B	C	総質量	機械継手箇所数	機械式鉄筋定着体箇所数		
D22	12286kg	-	kg	-	kg	12286kg		
合計	12286kg	-	kg	-	kg	12286kg		



注) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 下トマム地区下部土工			
図面の種類	滝の沢川橋（下り橋） P 1 橋脚大口径深礎杭配筋図（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

S=1 : 25



鉄筋曲げ加工表



注) 曲げ半径 ($R=3\phi$ 、 5.5ϕ) は鉄筋中心までの長さとする。

徑	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.5		$\theta > 90^\circ$ R=5.5		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56			
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69			
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82			
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95			
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108			
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125			
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138			
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151			
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164			
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177			
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220			

鉄筋表

杭1本当り

種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
K 1	D51	11300	120	15.9	180	21600	┌
2	D29	9930	228	5.04	50.0	11400	└
3	D29	4900	300	5.04	24.7	7410	└
4	D29	5140	150	5.04	25.9	3885	└
5	D16	6150	52	1.56	9.59	499	└ (平均長)
6	D16	1770	4	1.56	2.76	11	└
7	D19	5750	204	2.25	12.9	2632	└

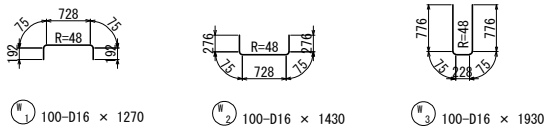
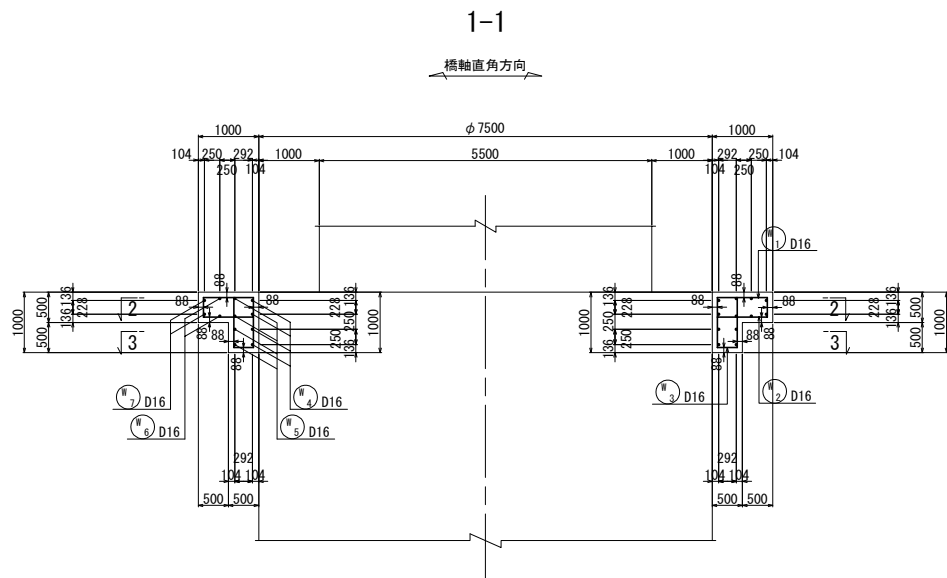
鉄筋集計表

單位：kg

単価項目	径	一般用鉄筋	
		SD345	
		H≦25mm	
A 鉄筋	D16 ～ D25	D13	—
		D16	510
		D19	2632
		D22	—
		D25	—
		計	3142
	D29 ～ D32	D29	22695
		D32	—
		計	22695
	D35		—
	D38		—
	D41		—
B 鉄筋	D51		21600
	合 計		47437
	D16 ～ D25	D16	—
		D19	—
		D22	—
		D25	—
		計	—
	D29 ～ D32	D29	—
		D32	—
		計	—
	D35		—
	D38		—
	D41		—
	D51		—
C 鉄筋	合 計		—
	D16 ～ D25	D16	—
		D19	—
		D22	—
		D25	—
		計	—
	D29 ～ D32	D29	—
		D32	—
		計	—
	合 計		—
			—

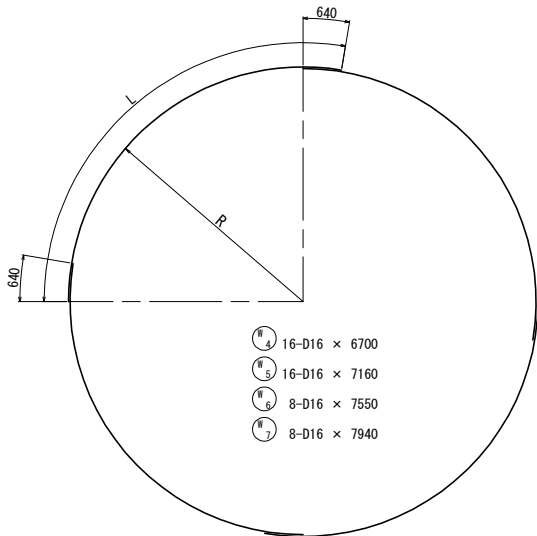
道東自動車道		
下トマム地区下部工工事		
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚大口径深礎杭配筋図（その２）	
縮 尺	図 示	図面番号 -
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 帯広工事事務所	北海道支社

注) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。



鉄筋表						
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
W 1	D16	1270	100	1.56	1.98	198
2	D16	1430	100	1.56	2.23	223
3	D16	1930	100	1.56	3.01	301
4	D16	6700	16	1.56	10.5	168
5	D16	7160	16	1.56	11.2	179
6	D16	7550	8	1.56	11.8	94
7	D16	7940	8	1.56	12.4	99
小計						1262 kg

鉄筋集計表			単位 : kg
単備項目	径	一般用鉄筋	
		SD345	H≦25m
A鉄筋	D13	—	
	D16	1262	
	D19	—	
	D22	—	
	D25	—	
	計	1262	
	D29	—	
	D32	—	
	計	—	
	D35	—	
	D38	—	
合 計		1262	
鉄 筋 総 質 量		1262	

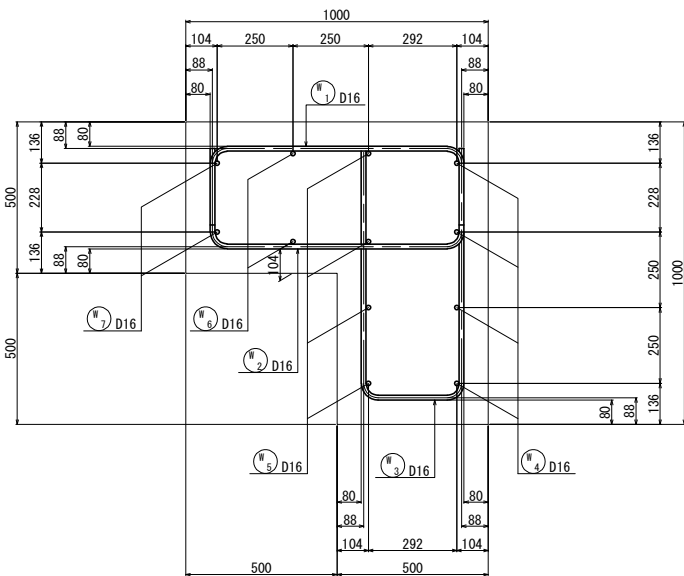


注) 帯鉄筋の継手位置は、1段毎に45° 程度ずらすこと。

寸法表

記号	L	R
W 4	6694	3854
W 5	7153	4146
W 6	7545	4396
W 7	7938	4646

かぶり詳細図 S=1:25



鉄筋曲げ加工表

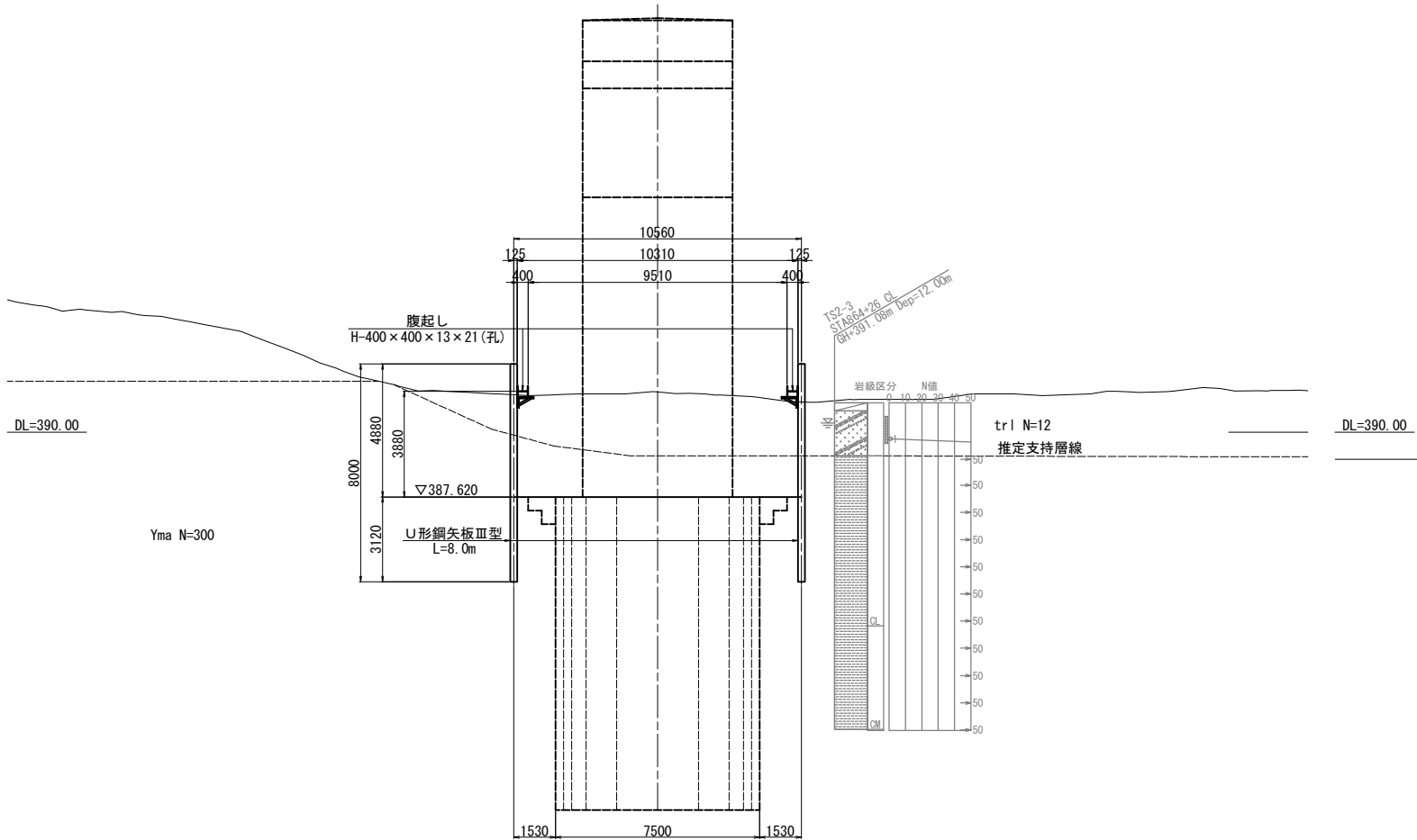
注) 曲げ半径 (R=3φ、5.5φ) は鉄筋中心までの長さとする。

径	θ ≤ 90° R=3φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 45°		θ = 60°		θ = 90°		θ = 135°	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8

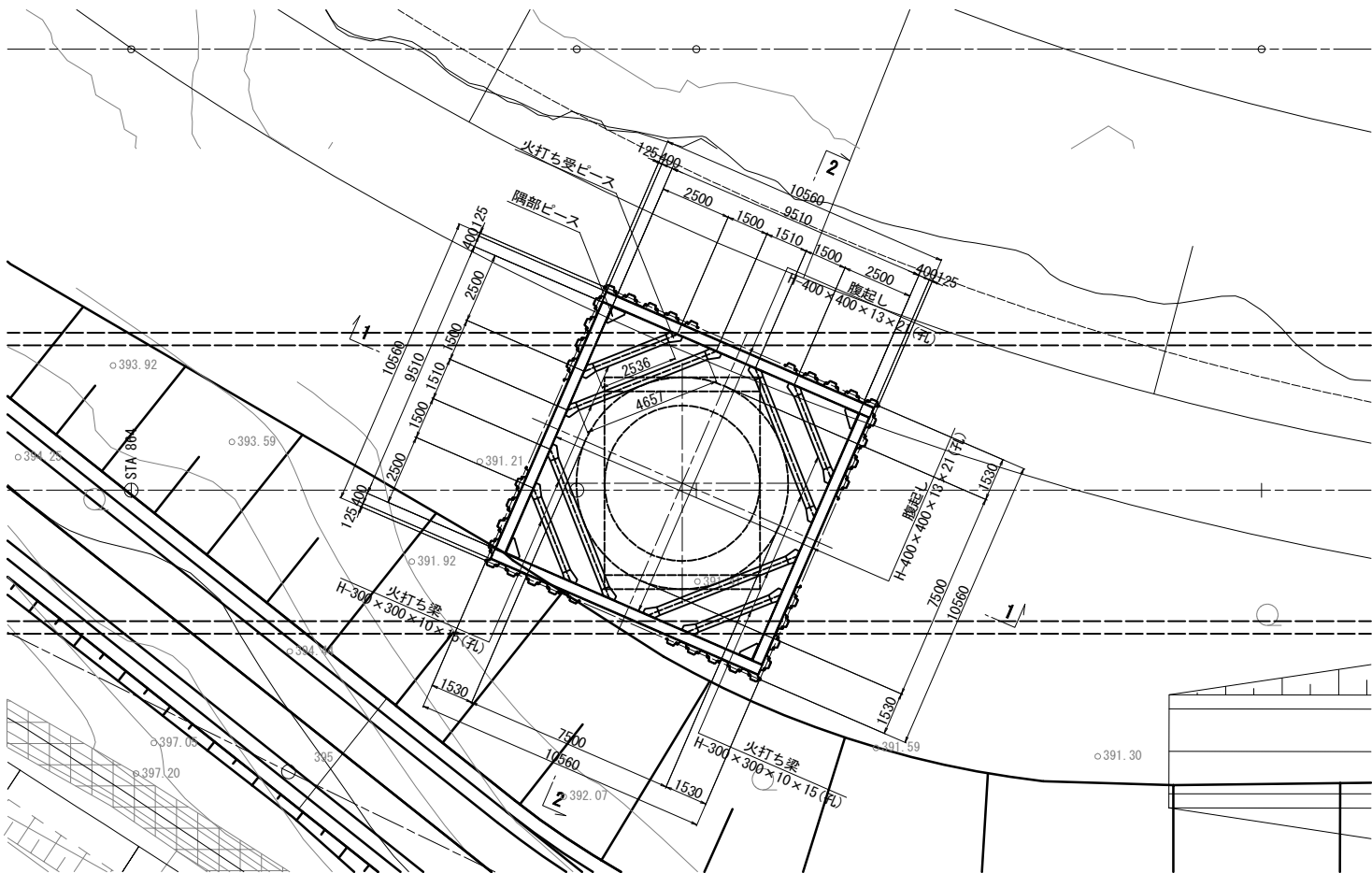
注) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚ガイドウォール詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

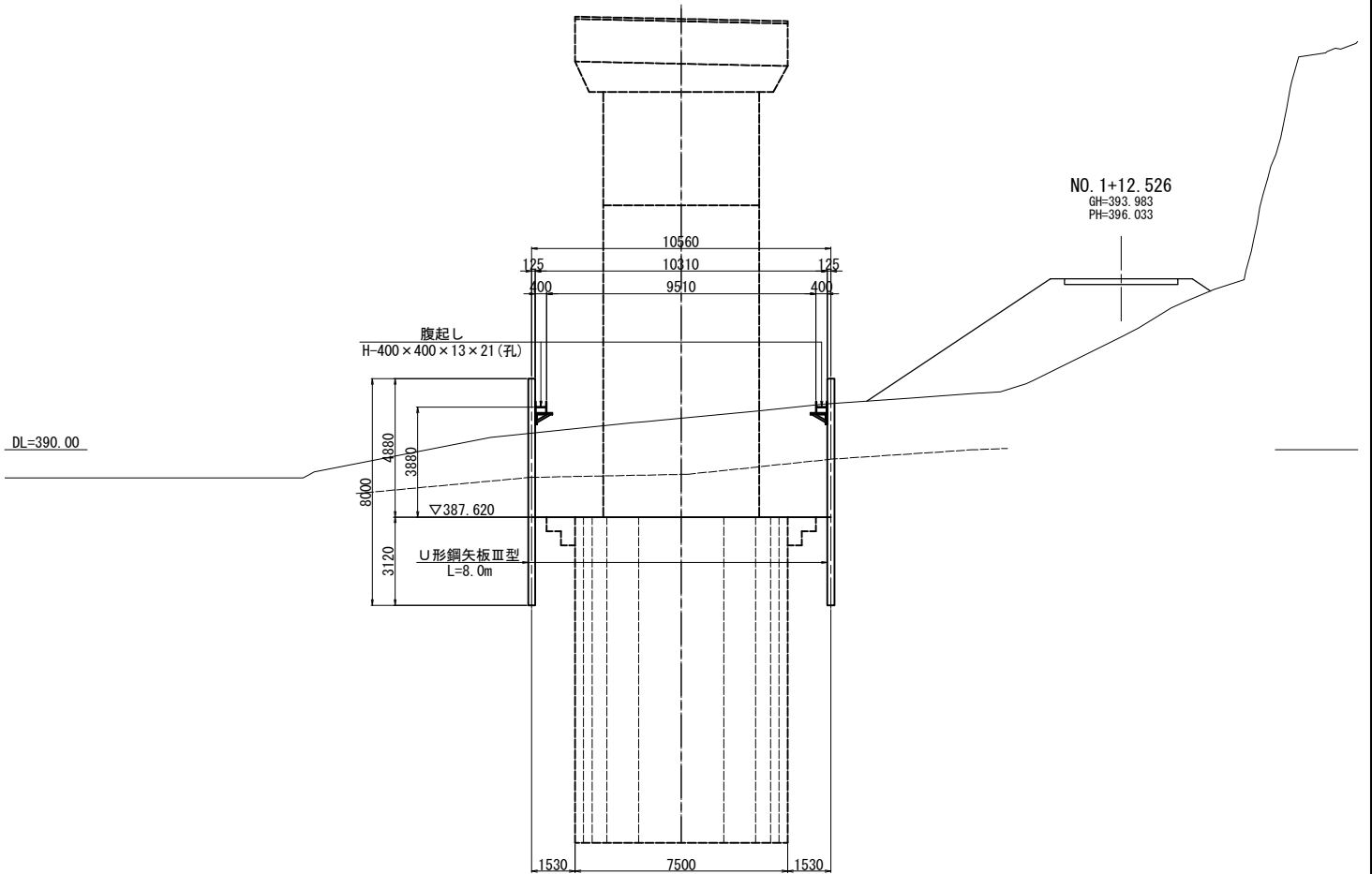
断面図(1-1)



平面図



断面図(2-2)



材料表

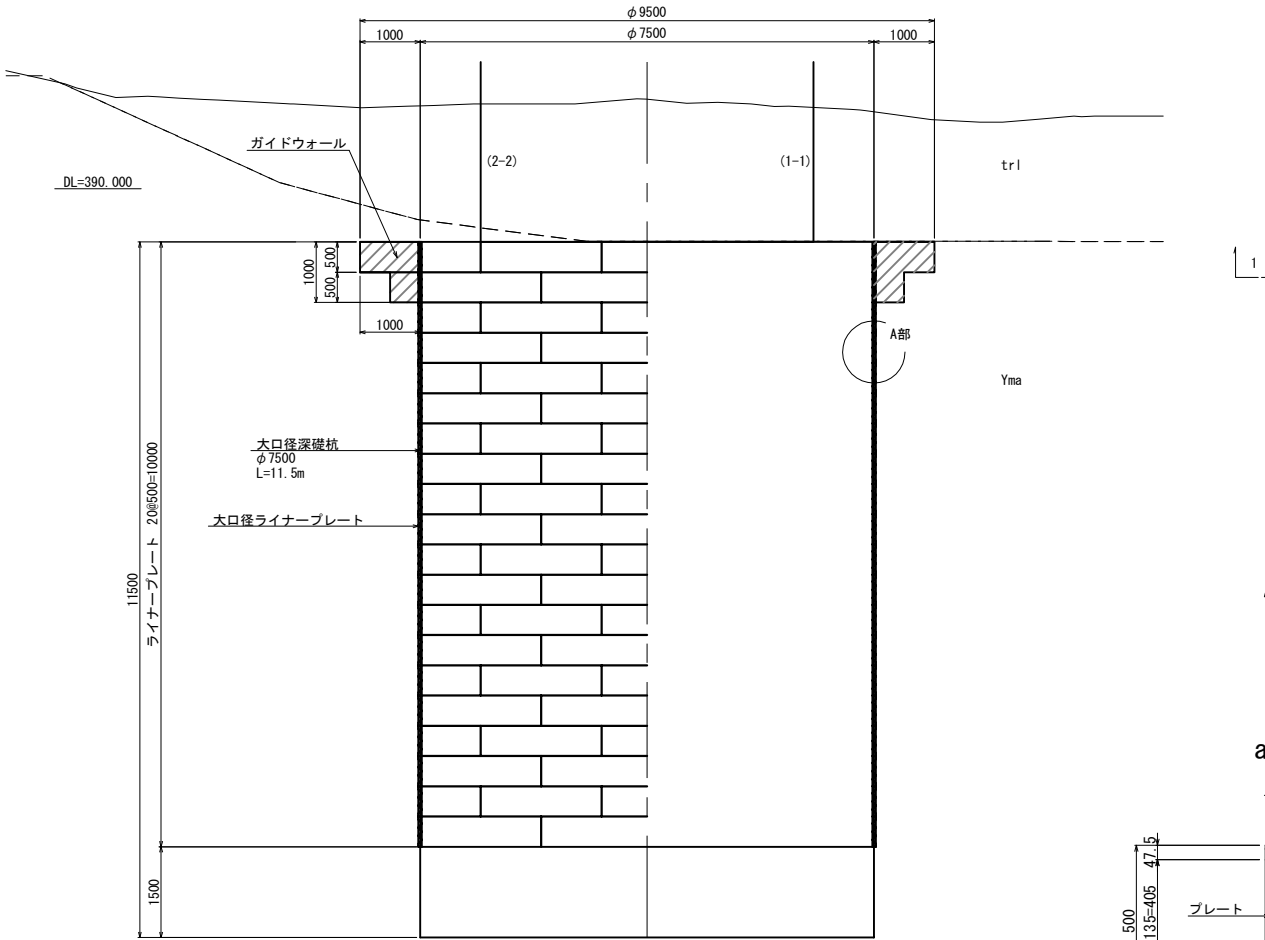
種 別	形状寸法	長さ (mm)	数量	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	材質	摘要
普通鋼矢板 (リース材)								
鋼矢板	Ⅲ型	8 000	108	60.0	480.0	51 840	SY295	
仮設材鋼矢板合計						51 840 kg		
支保工 (リース材)								
腹 起 し	H-400×400×13×21	10 310	2	200	2 062.0	4 124	SS400	
〃	〃	9 510	2	200	1 902.0	3 804	〃	
火打ち梁	H-300×300×10×15	4 657	4	100	465.7	1 863	SS400	
〃	〃	2 536	4	100	253.6	1 014	〃	
主部材合計						10 805 kg		
カバープレート	H-400用		8		40.0	320	SS400	
隅部ピース	H-400用		4		90.0	360	〃	
火打受ピース	H-300用		16		50.0	800	〃	
副部材合計						1 480 kg		
合計						12 285 kg		
鋼製山留材 主部材合計					10.805	t		
鋼製山留材 副部材合計					1.480	t		
鋼製山留材 消耗部品合計 (主部材×0.04)					0.432	t		
鋼製山留材 合計					12.717	t		
※火打長は全長より火打ちピース長 (2×0.50m) を控除した長さとする。								
※カバープレートは1腹起し当り2個を想定する。								

鋼矢板圧入数量表

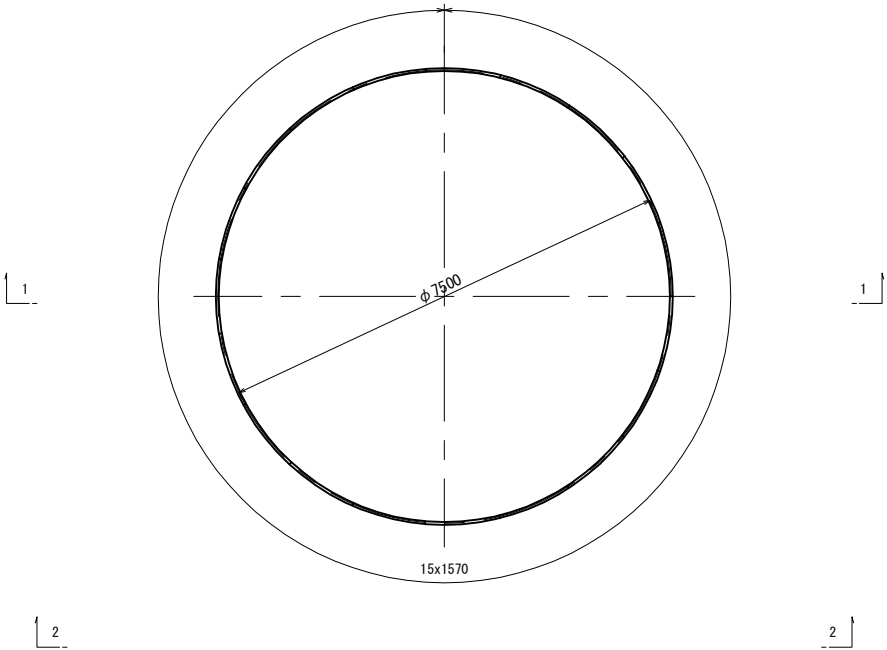
規 格	工 種	単位	数 量	摘 要
鋼矢板Ⅲ型	施工枚数	枚	108	
	1枚当たり打込み長	m	7.5	
	平均N値	-	202	
	土質区分	bk	89.1	N=25
		trl	191.7	N=12
		Yma	529.2	N=300
		合 計	810.0	

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚土留工詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

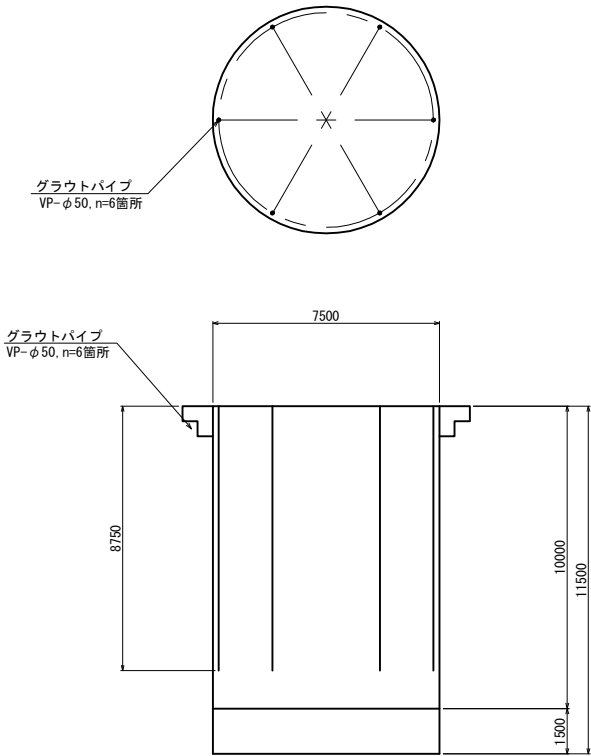
側面図



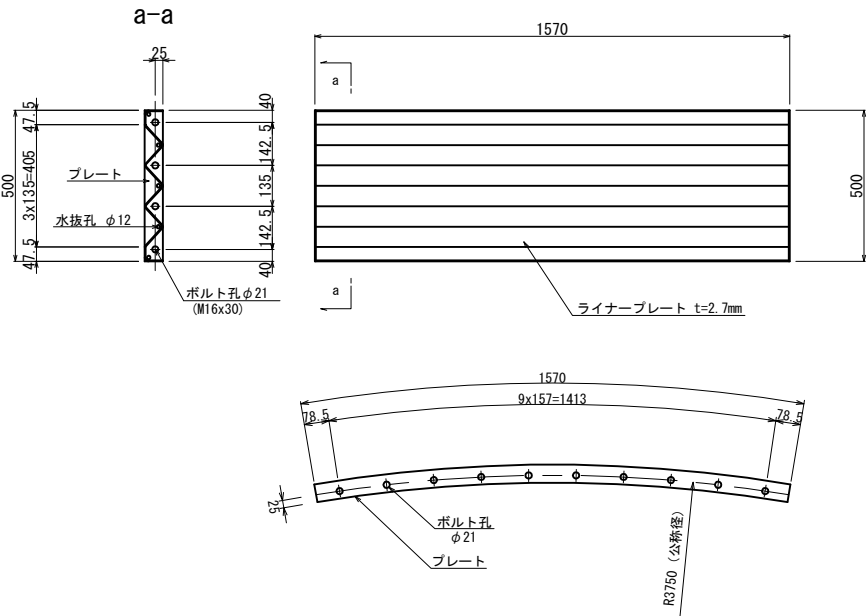
ライナープレート構成図



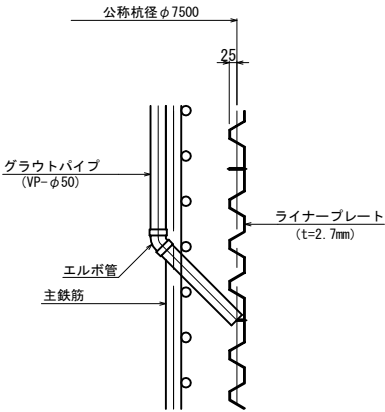
グラウトパイプ配置図 S=1:250



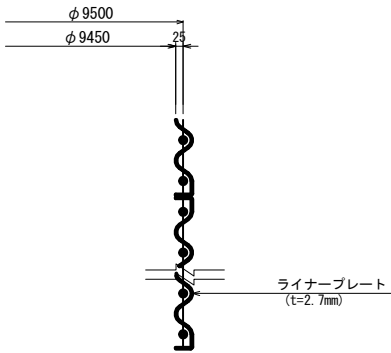
ライナープレート S=1:25



グラウトパイプ詳細図 S=1:25



A 部 詳 細 図 S=1:25

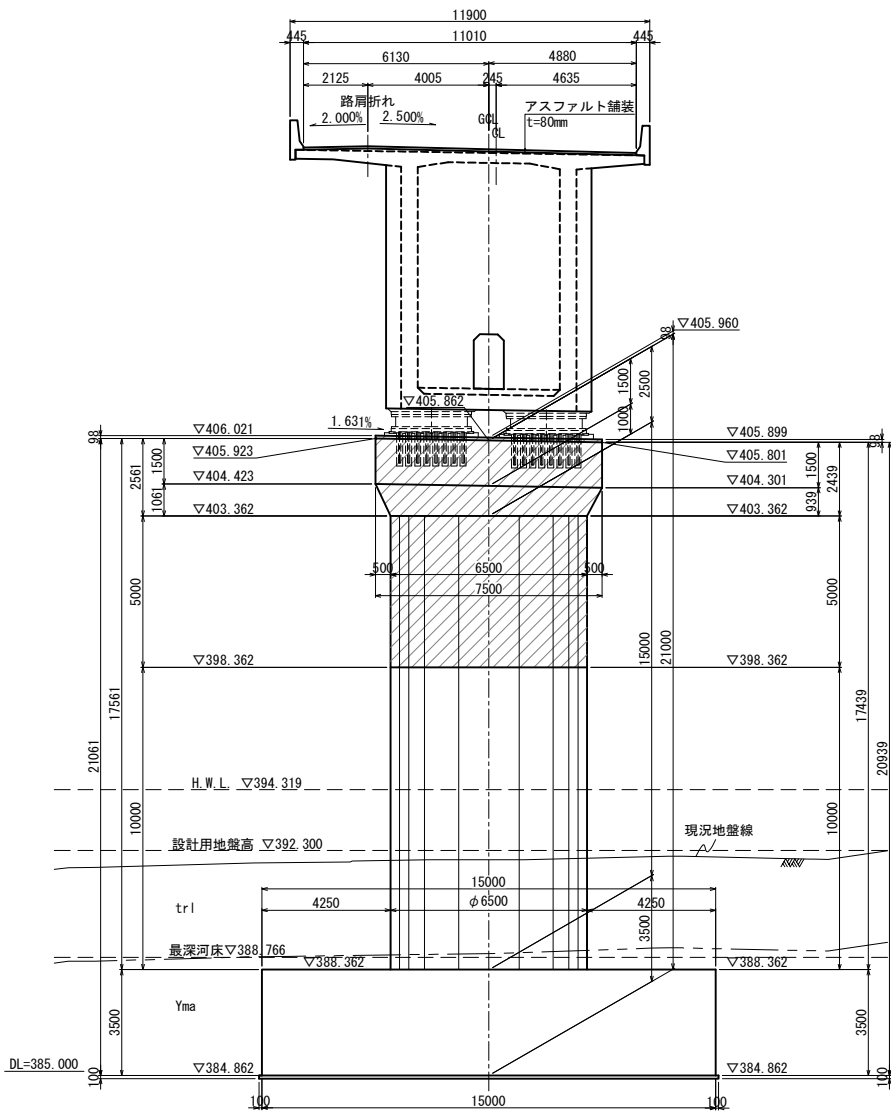


数量表				
項 目	単 位	数 量	種 別	
杭 長	m	11.5		
ライナープレート	m	10.0	t=2.7mm	
無処理	m	1.5		

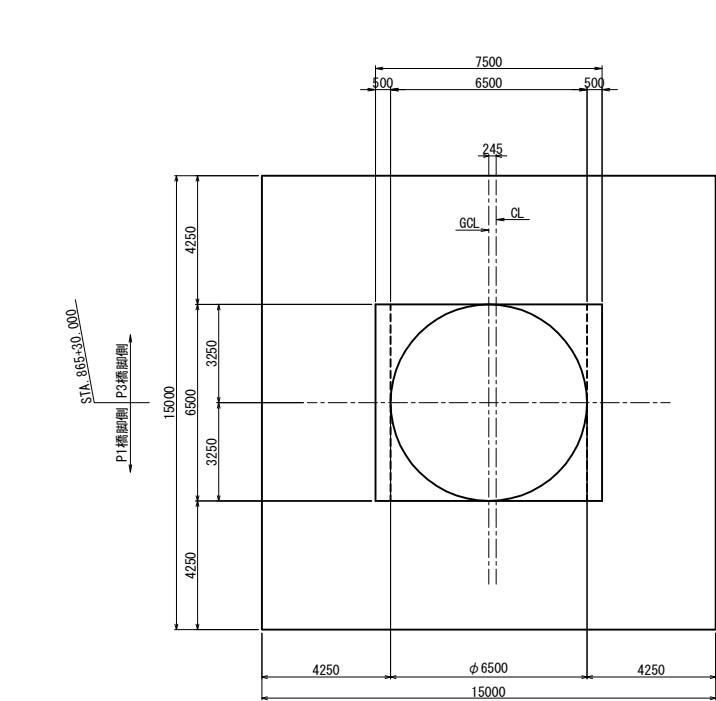
材料表					
項 目	サイズ (mm)	数量	単位質量 (kg)	質量 (kg)	種 別
ライナープレート	t=2.7mm	300	26.0	7800	SS330
組立ボルト	M16x30	4050	0.137	555	ライナープレート用
合計					8355 kg
グラウトパイプ	VP-φ50	52.5	m		
エルボ管		6	個		
裏込めグラウト		21.5	m ³		

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
滝の沢川橋（下り線） P 1 橋脚深礎土留め工詳細図			
図面の種類	図 示	図面番号	-
縮 尺			
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

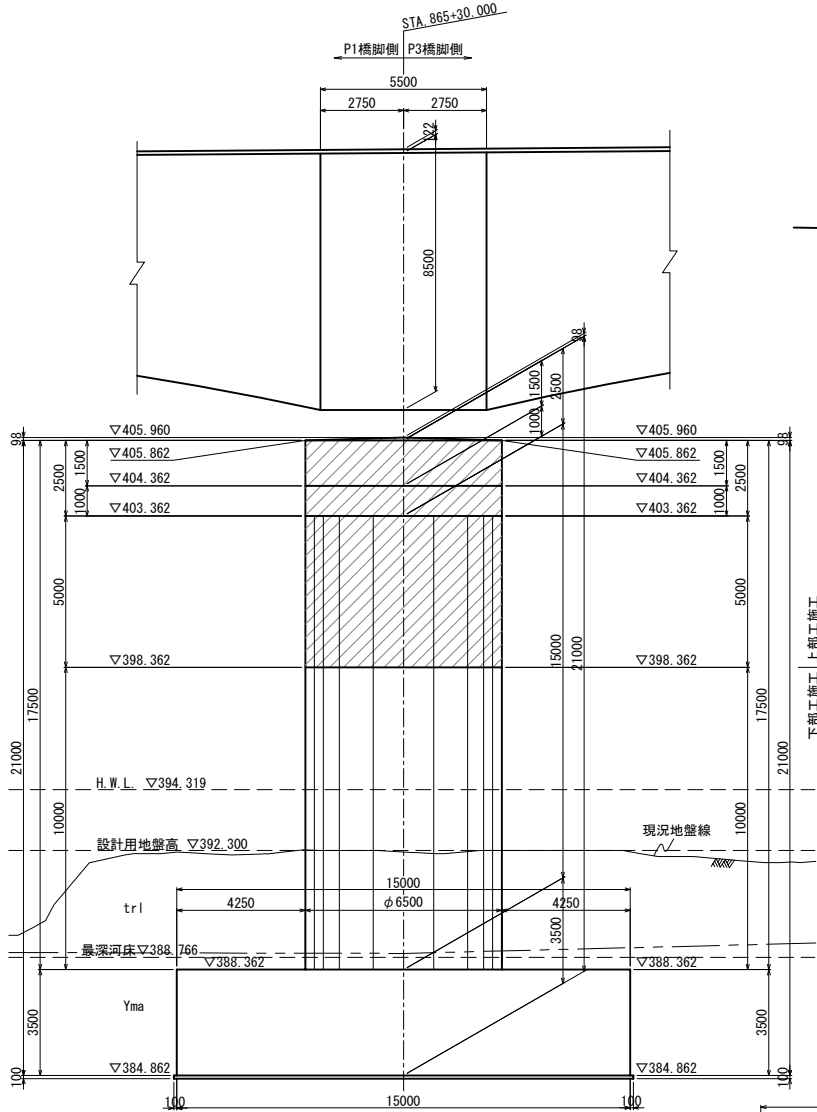
正面図



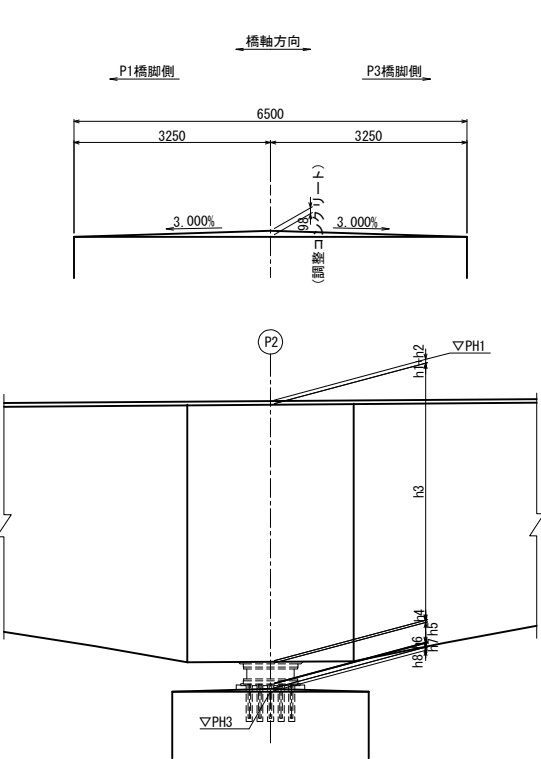
平面図



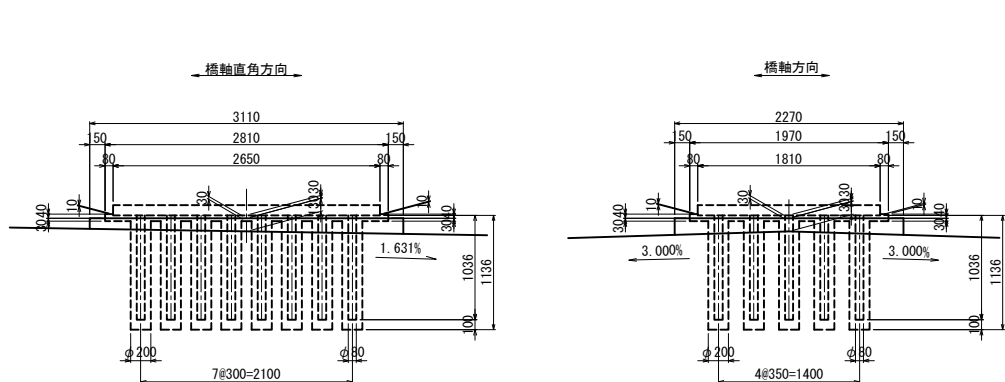
側面図



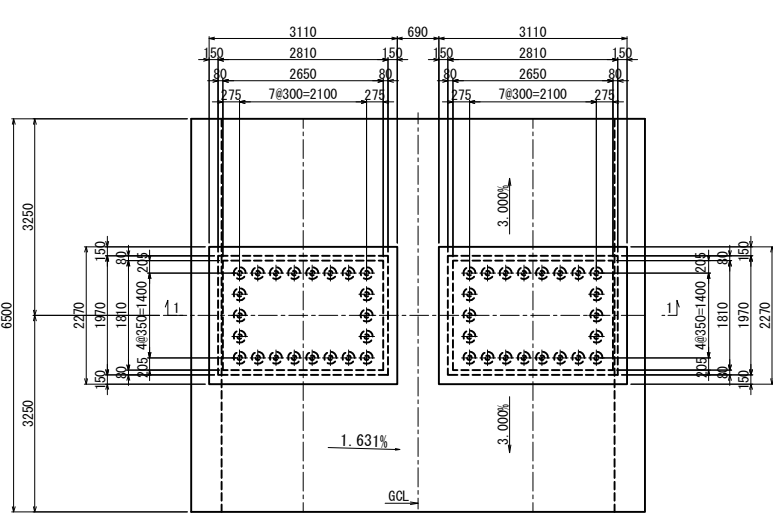
橋脚天端詳細図



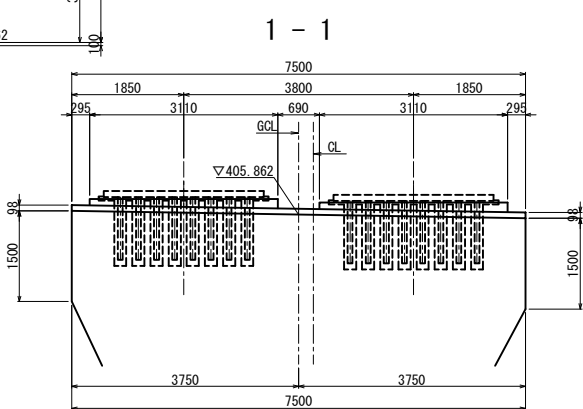
支承詳細図 S=1:75



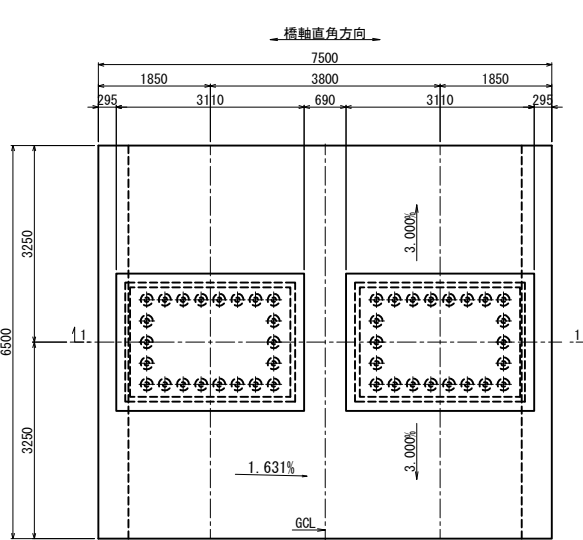
支承詳細平面図 S=1:125



橋座面断面図 S=1:125



橋座面平面図 S=1:125



構造高表（支承ライン）

		P2			
		SL	GCL	CL	SR
計画高	PH1	415.539	415.491	415.485	415.444
舗装厚	h1	0.080		0.080	
調整コンクリート	h2	0.059	0.042		0.026
桁高	h3	8.500			8.500
レアー厚	h4	0.070			0.070
支承高	h5	0.679			0.679
小計	Σ h1	9.388			9.355
モルタル天端高	PH2	406.151			406.089
容座モルタル高	h6	0.030			0.030
台座高	h7	0.130			0.130
調整コンクリート	h8	0.098			0.098
橋座高	PH3	405.893	405.862	405.858	405.831
横断勾配(%)	i	-1.631%			
構造高合計	Σ h	9.646	9.629	9.627	9.613

※調整コンクリートは主桁コンクリートと同時に打設する。

上部工施工材料基準強度

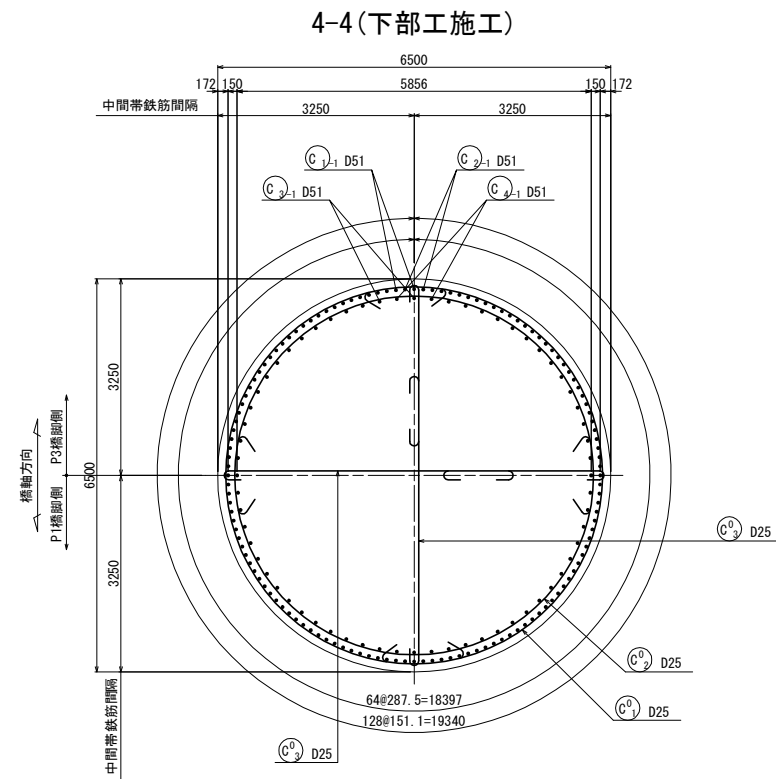
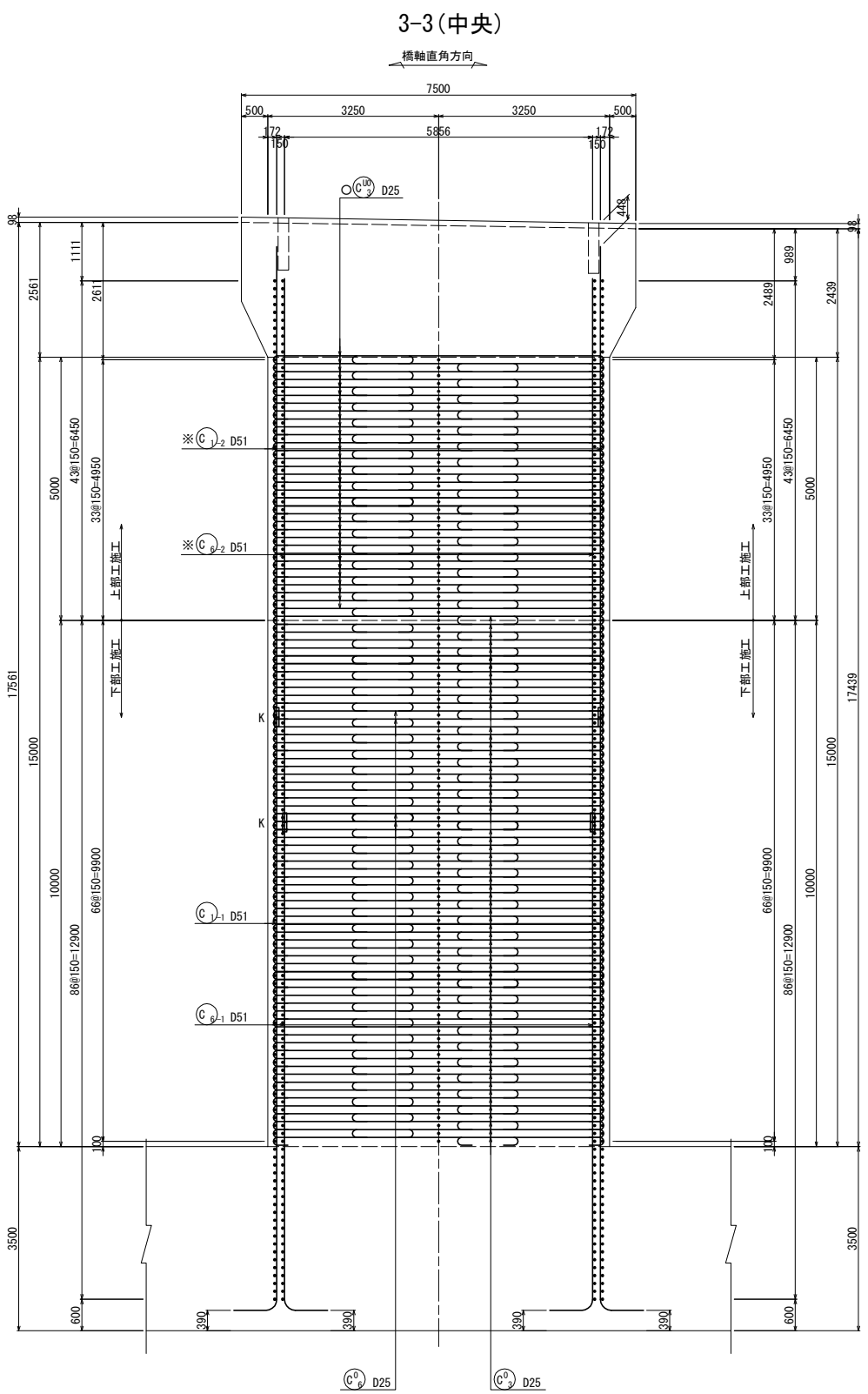
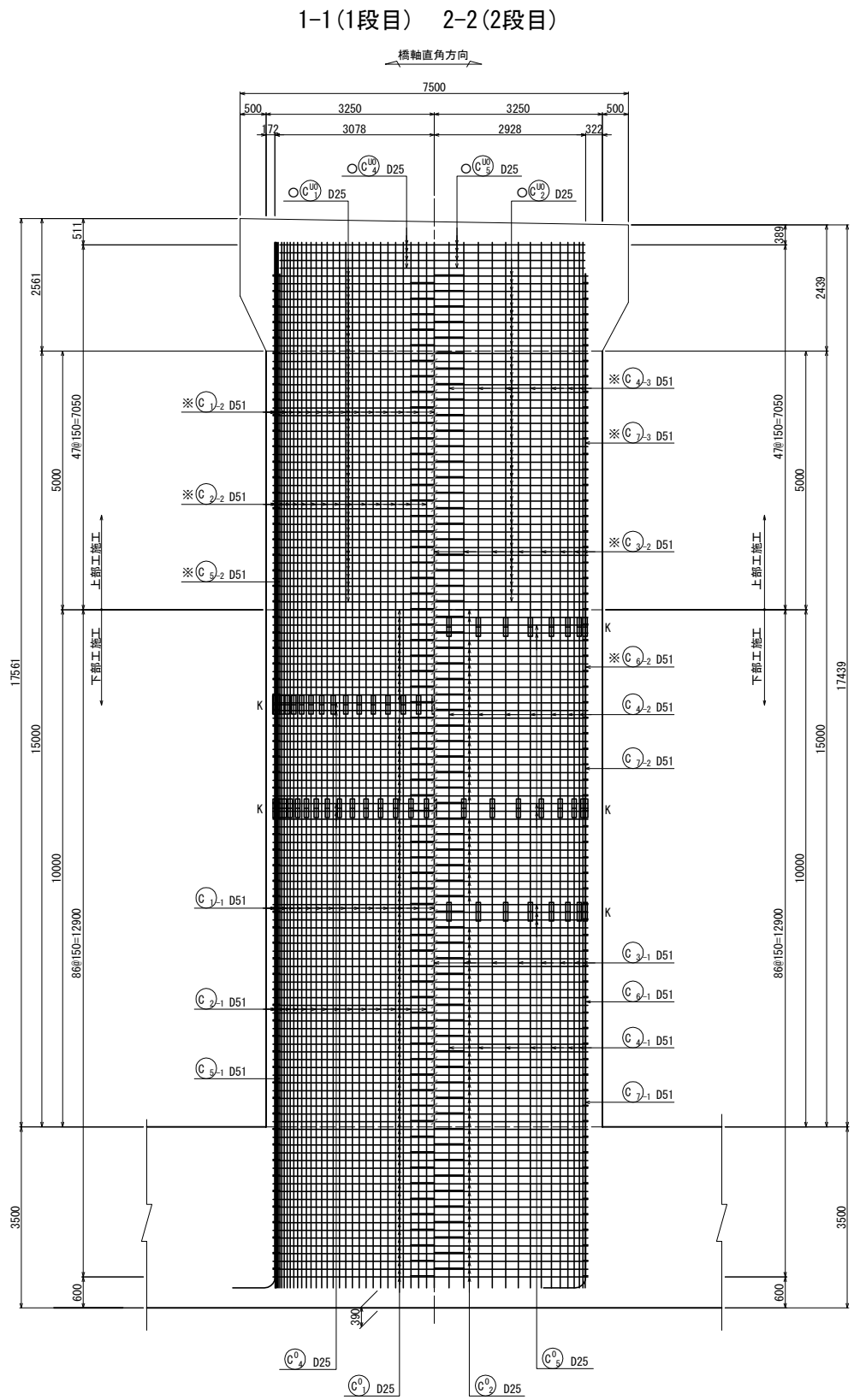
	コンクリート	鉄筋
梁	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD345
柱	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490

下部工施工材料基準強度

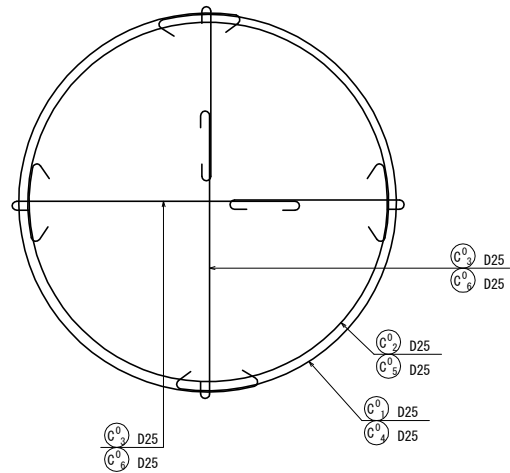
	コンクリート	鉄筋
柱	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490
底板	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	SD345

※ ハッチング部は上部工施工を示す。

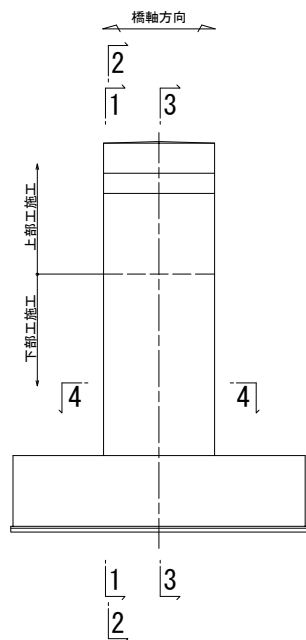
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



帯鉄筋及び中間帯鉄筋組立図



位置図



注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説 (R7. 10 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。

機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。

注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。

注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。

注7) —印は機械継手位置を表す。

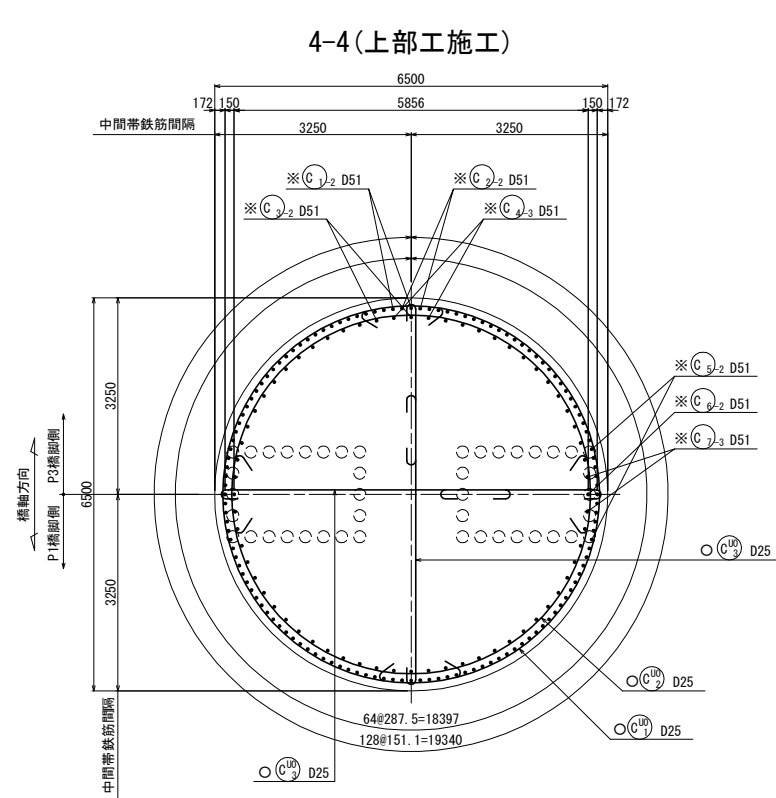
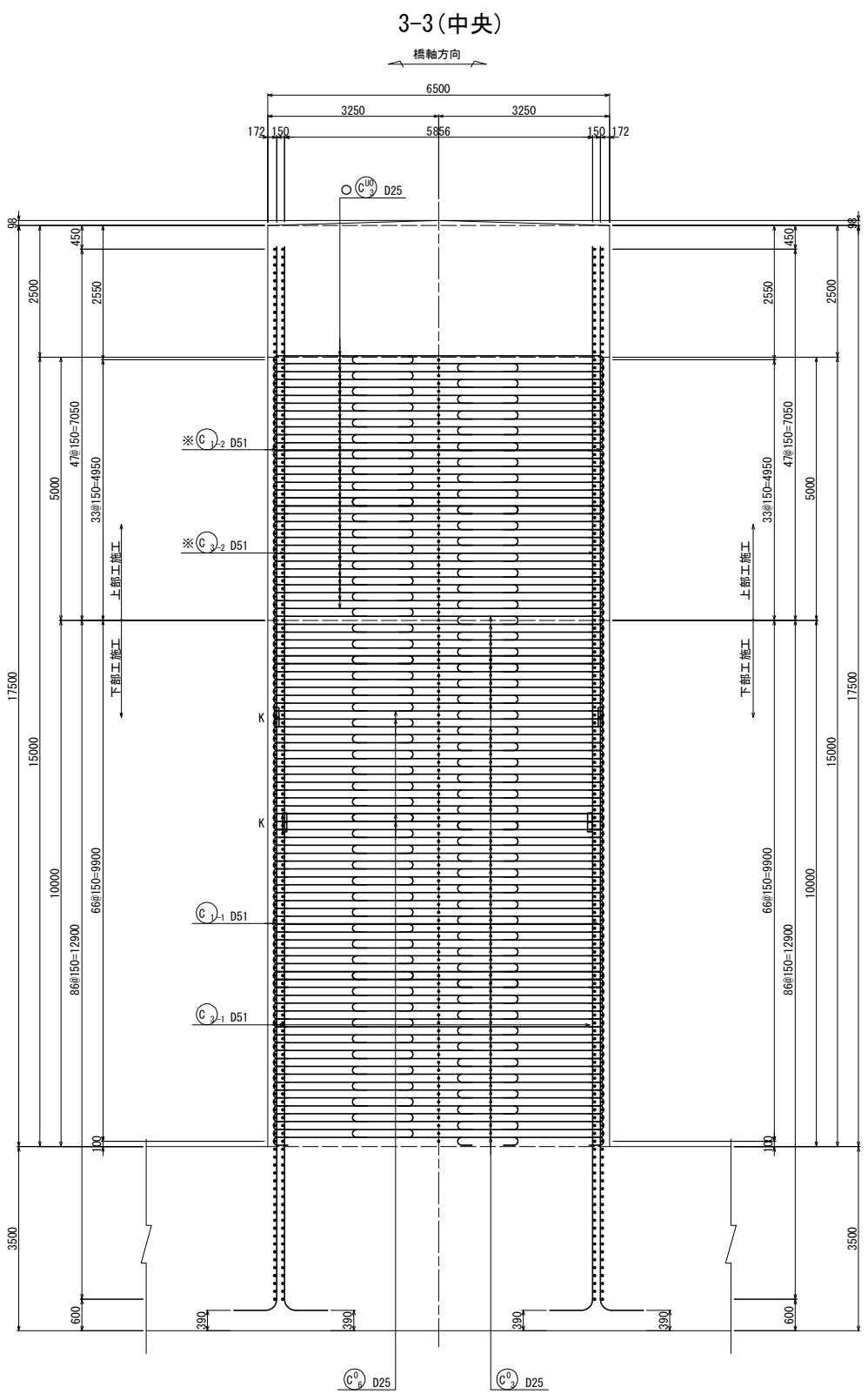
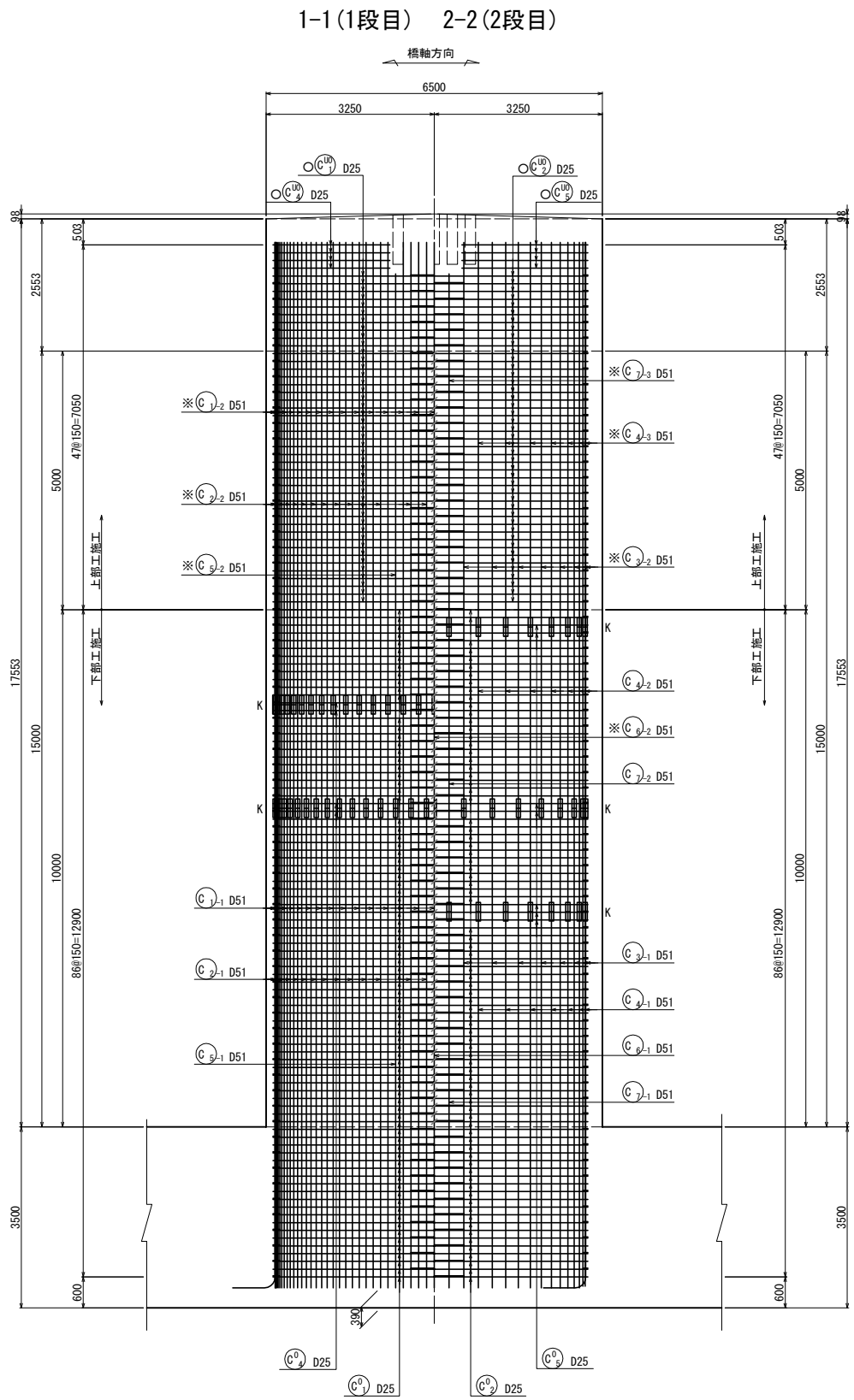
注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。

尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。

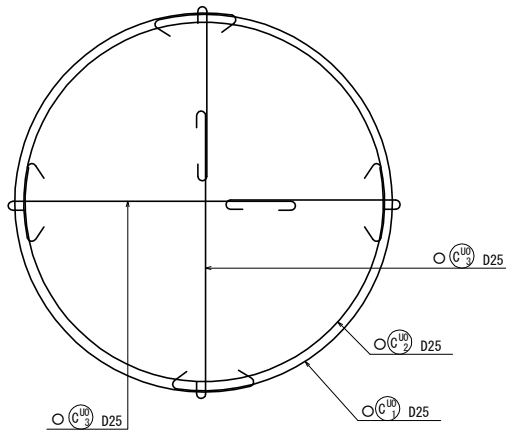
注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。

注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

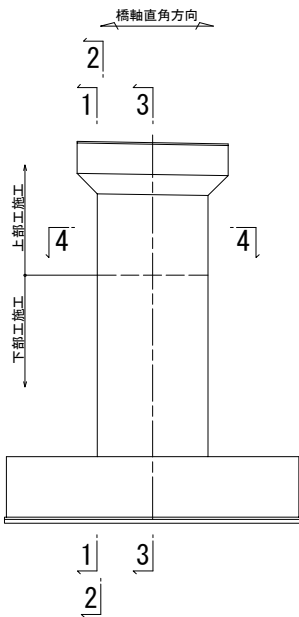
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



帯鉄筋及び中間帯鉄筋組立図



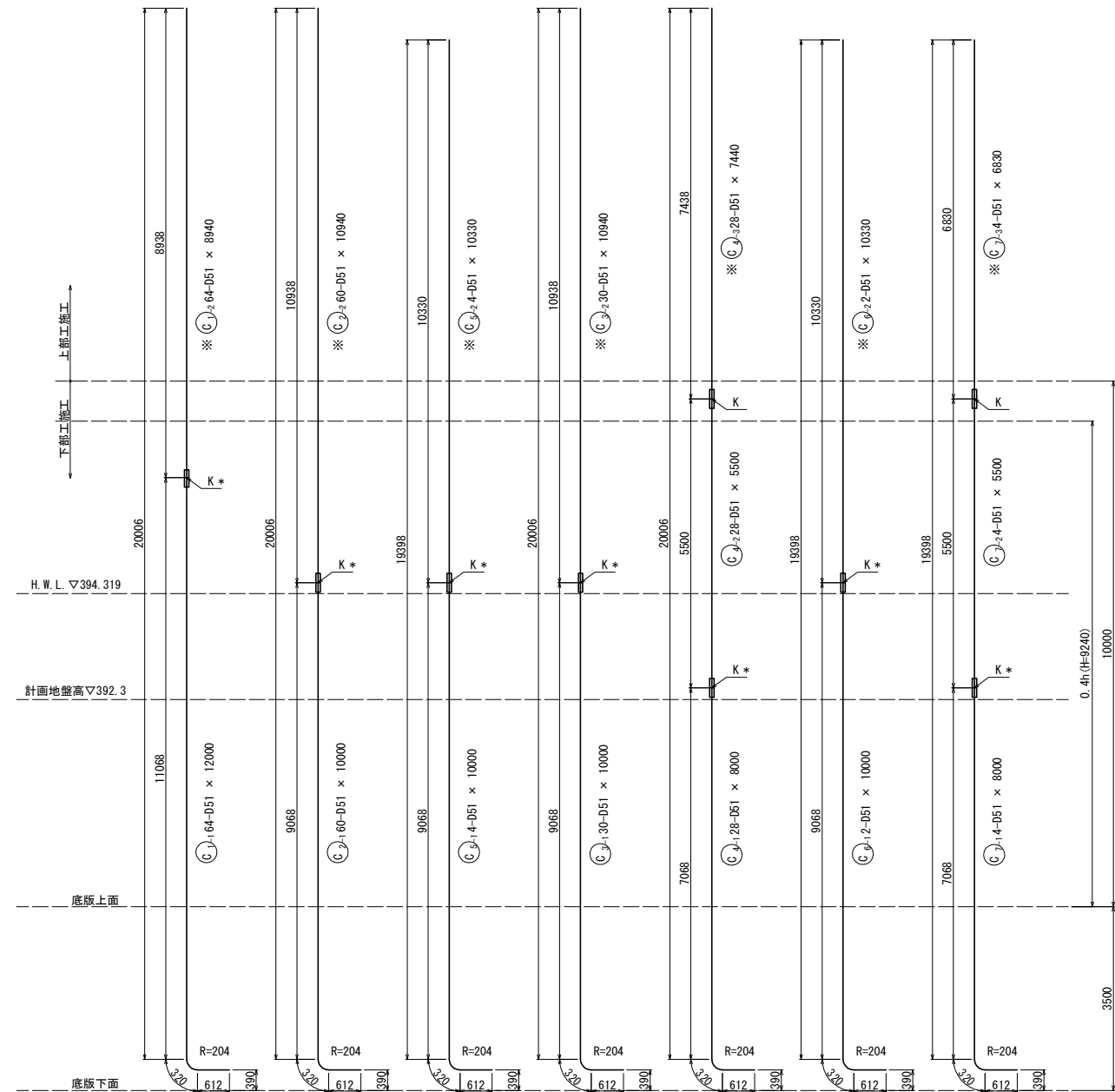
位置図



- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注7) —印は機械継手位置を表す。
- 注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
- 尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
- 注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

橋軸直角方向



注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

① 道路橋示方書・解説(Ⅱ7.10 日本道路協会)

2 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。

機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。

注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。

注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。

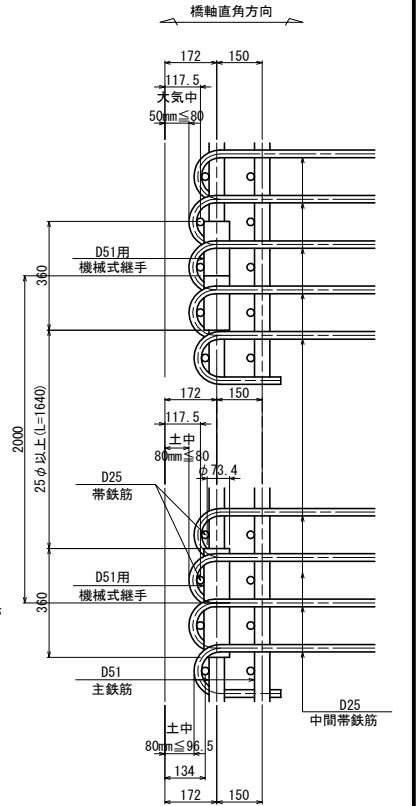
注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。

注7) $\frac{K}{\text{---}}$ 印は機械継手位置を表す。

注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。

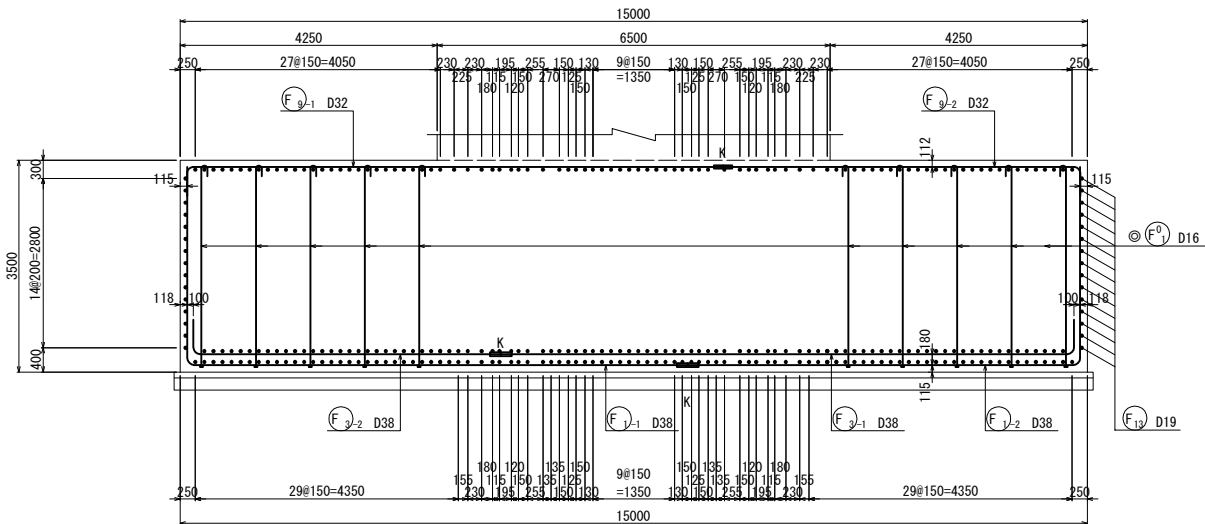
注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。

注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

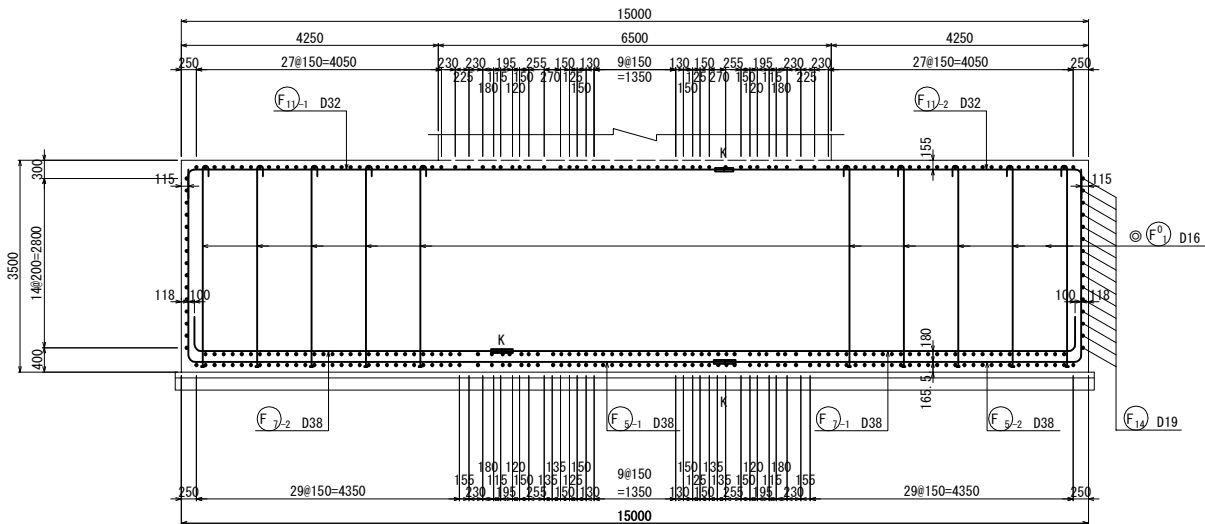


道東自動車道 下トマム地区下部土工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

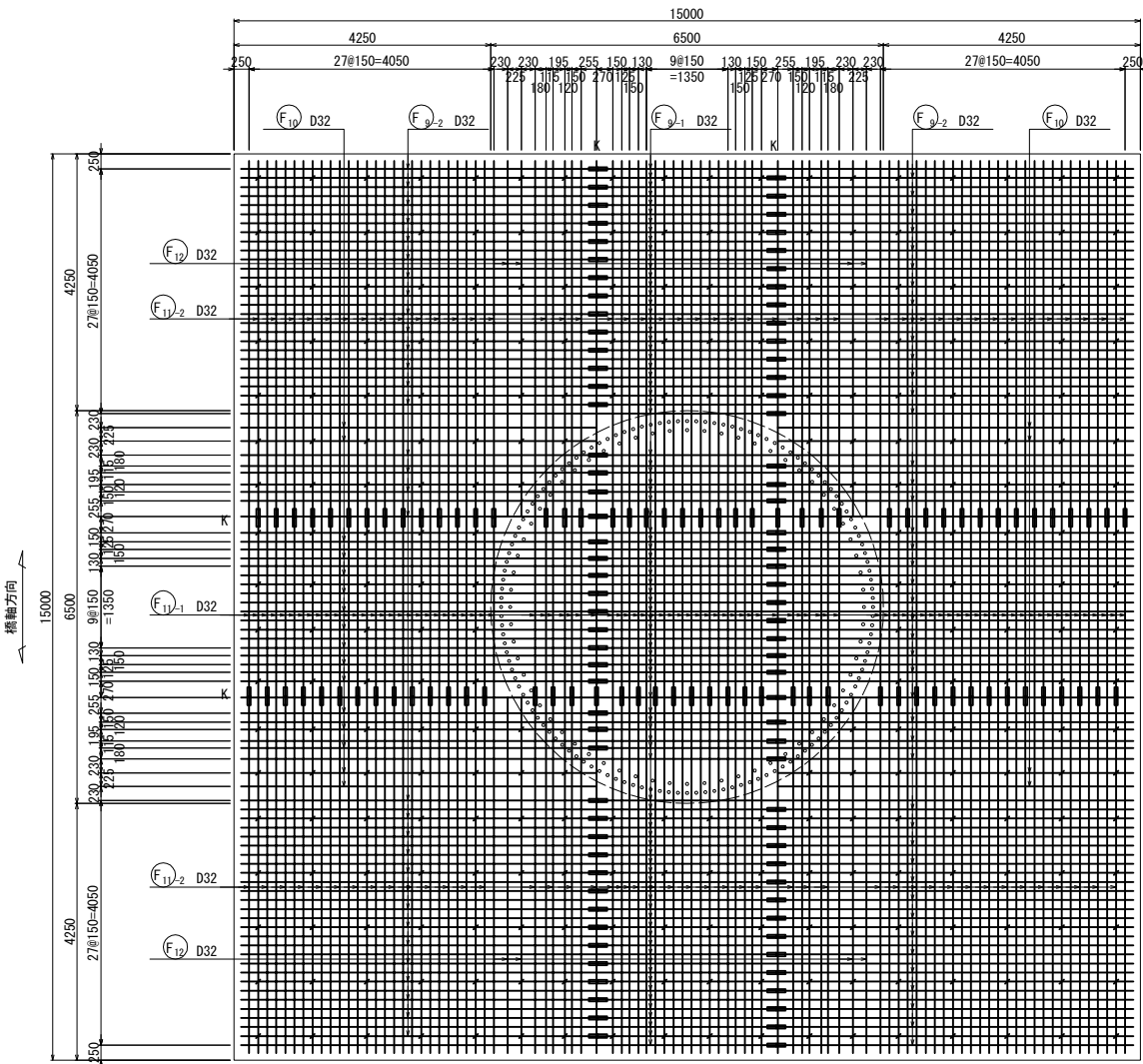
1-1 (橋軸直角方向)



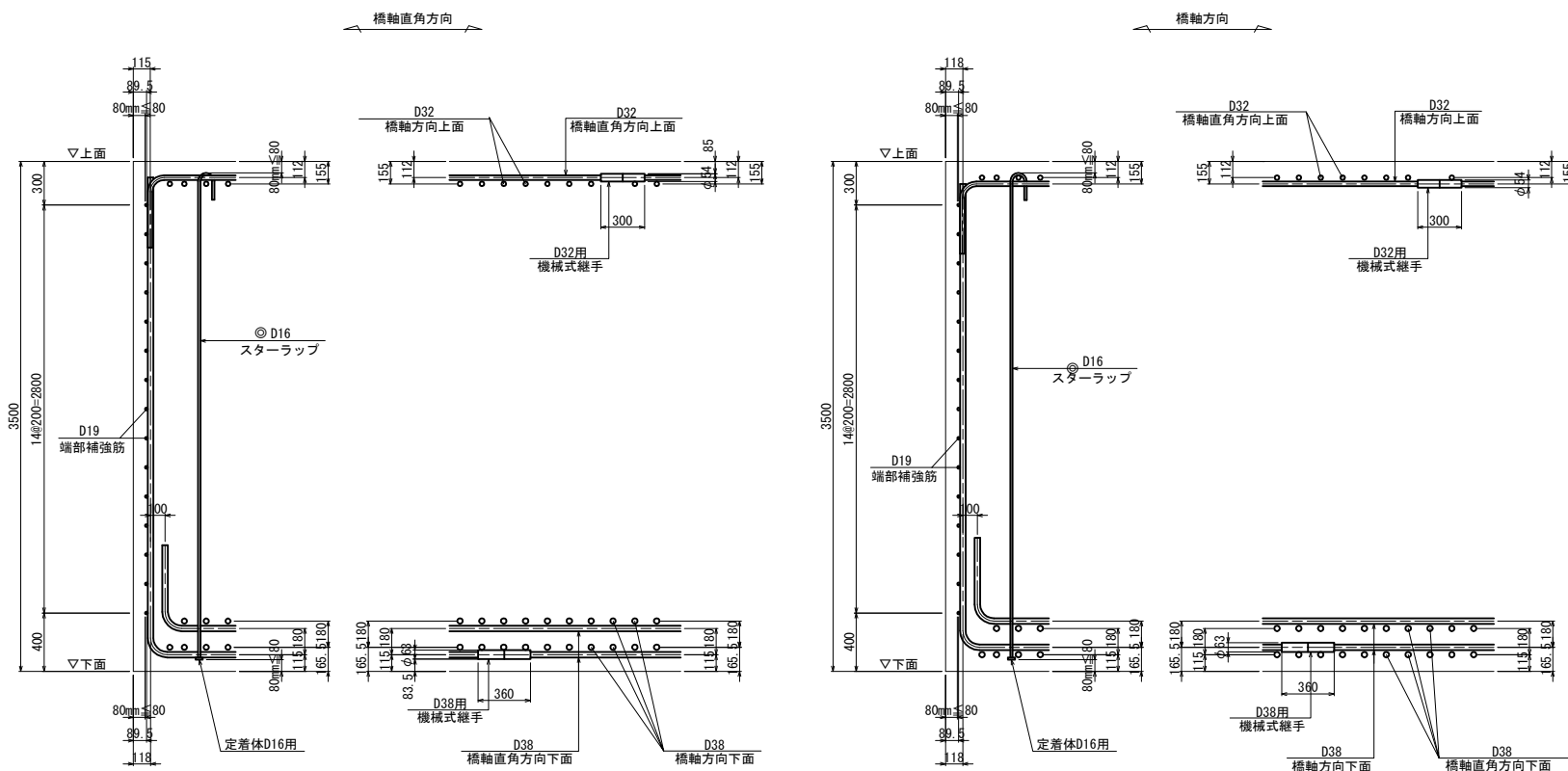
2-2 (橋軸方向)



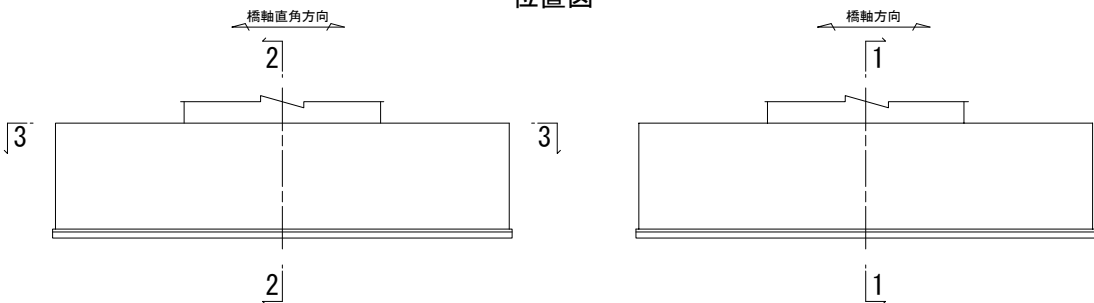
3-3 (上面)



かぶり詳細図 S=1:50



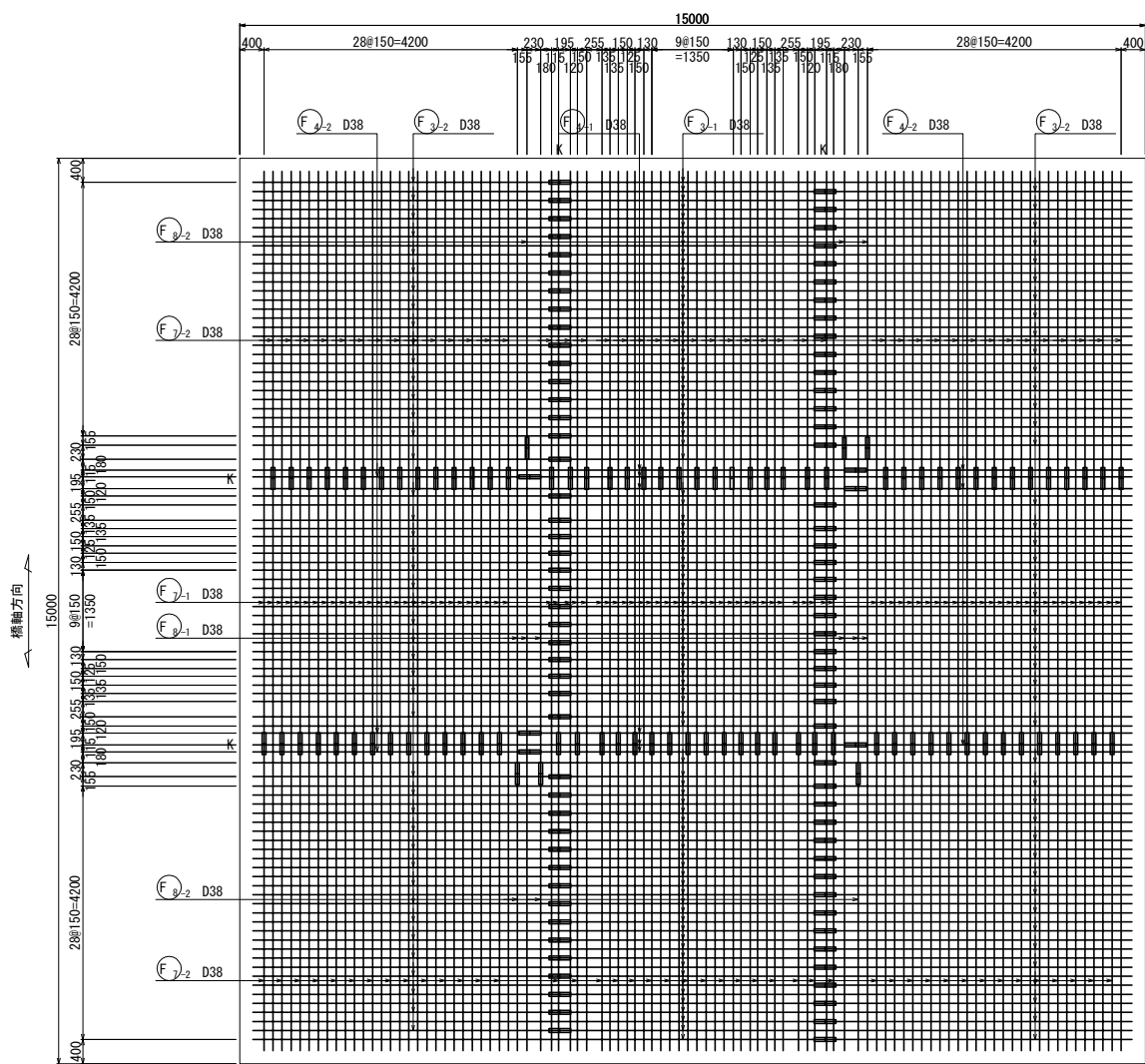
位置図



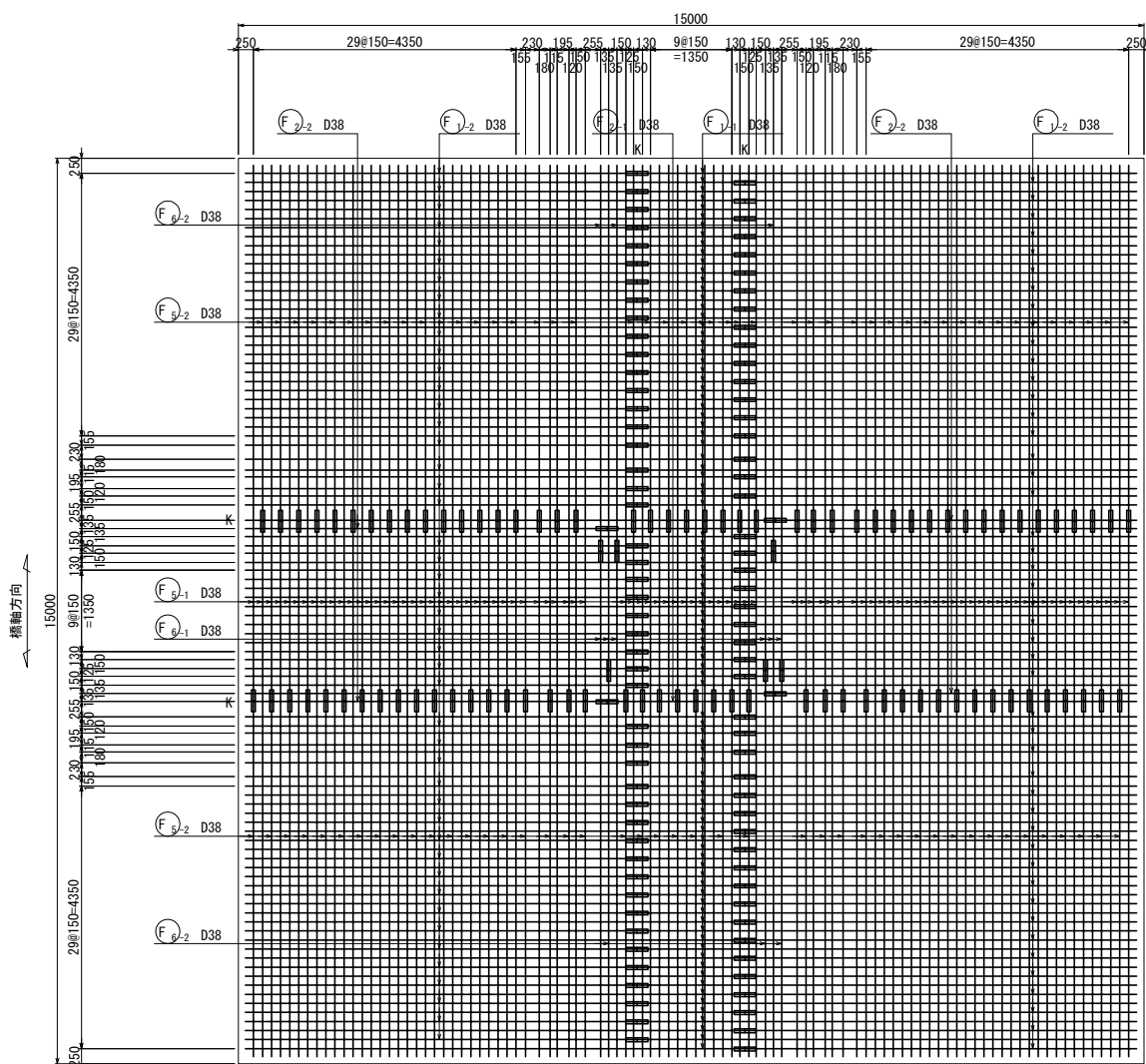
- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K印は機械継手位置を表す。
- 注8) 加工図の曲げ半径は全て表す。θ ≤ 90° の場合はR=3.0φ、θ > 90° の場合はR=5.5φとする。
- 尚、勾配により θ > 90° の場合はR=3.0φとする。
- 注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

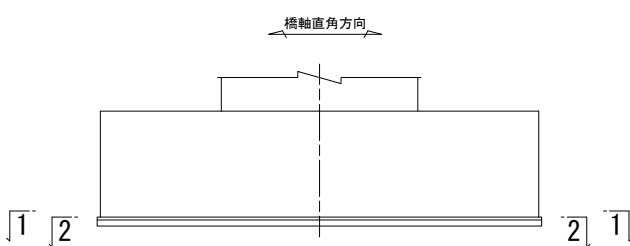
1-1 (下面2段目)



2-2 (下面1段目)

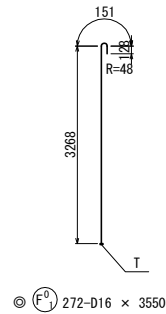
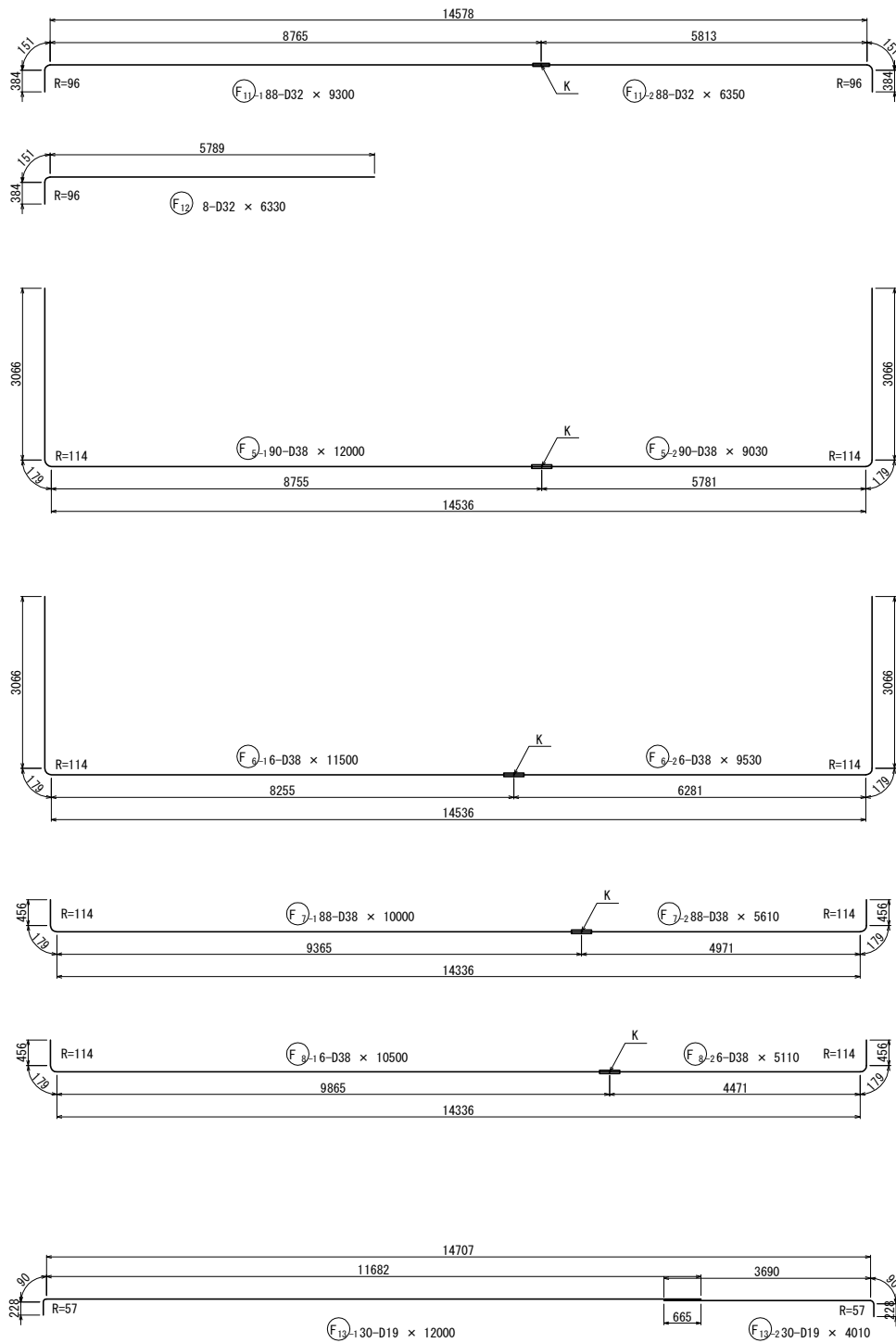
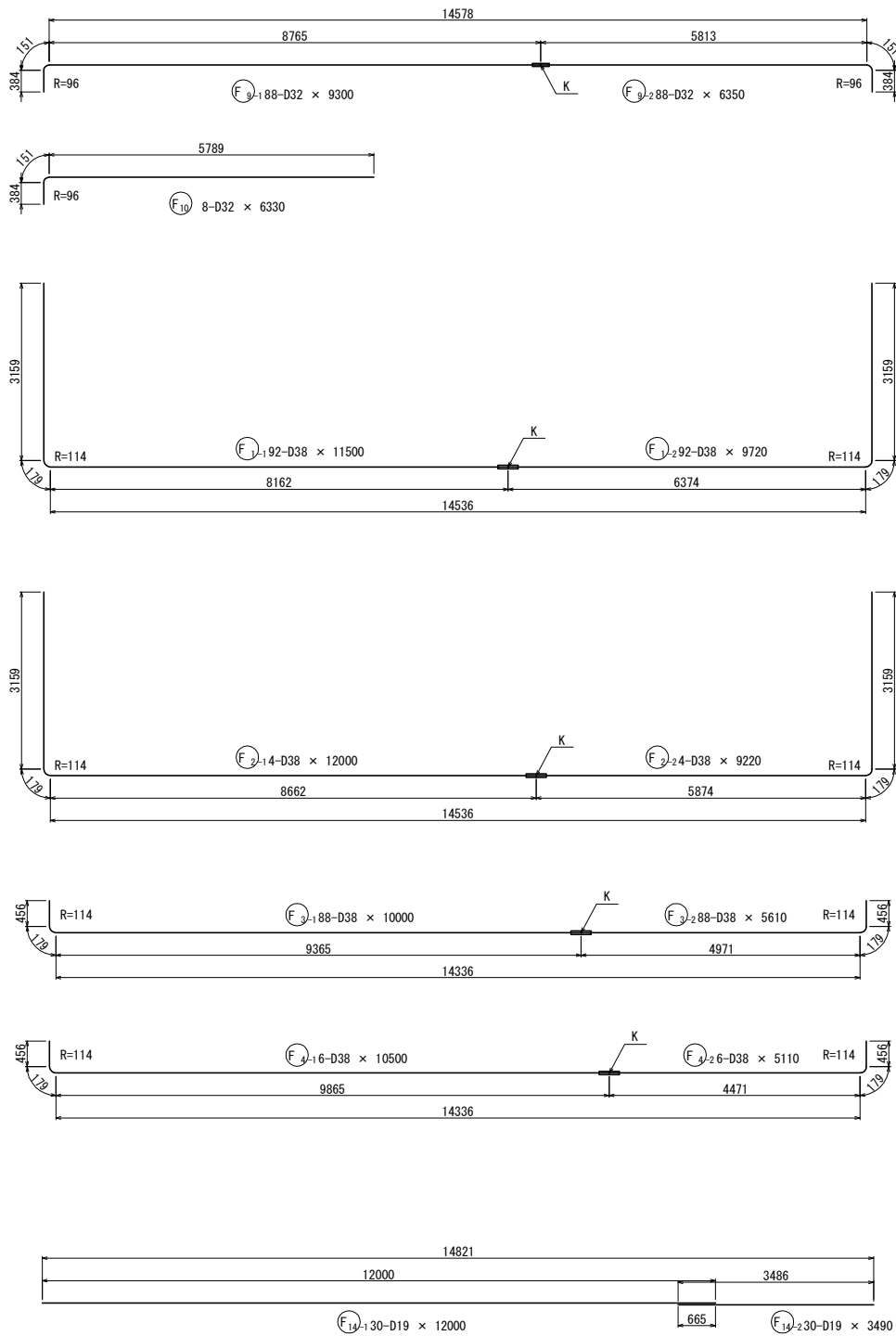



位置図



- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注7) $\overline{\text{K}}$ 印は機械継手位置を表す。
- 注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
- 尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
- 注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。


















































道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
注6) 印は機械継手位置を表す。
注7) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
注8) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
注9) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

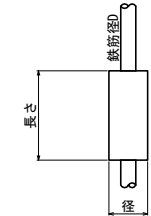
種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要	材 質
※ C 1-1	D51	12000	64	15.9	191	12224	 (-)	SD490
1-2	D51	8940	64	15.9	142	9088	 (64)	SD490
2-1	D51	10000	60	15.9	159	9540	 (-)	SD490
※ 2-2	D51	10940	60	15.9	174	10440	 (60)	SD490
3-1	D51	10000	30	15.9	159	4770	 (-)	SD490
※ 3-2	D51	10940	30	15.9	174	5220	 (30)	SD490
4-1	D51	8000	28	15.9	127	3556	 (-)	SD490
4-2	D51	5500	28	15.9	87.5	2450	 (28)	SD490
※ 4-3	D51	7440	28	15.9	118	3304	 (28)	SD490
5-1	D51	10000	4	15.9	159	636	 (-)	SD490
※ 5-2	D51	10330	4	15.9	164	656	 (4)	SD490
6-1	D51	10000	2	15.9	159	318	 (-)	SD490
※ 6-2	D51	10330	2	15.9	164	328	 (2)	SD490
7-1	D51	8000	4	15.9	127	508	 (-)	SD490
7-2	D51	5500	4	15.9	87.5	350	 (4)	SD490
※ 7-3	D51	6830	4	15.9	109	436	 (4)	SD490
小計						63824 kg		
C ⁰ 1	D25	11870	166	3.98	47.2	7835		SD345
2	D25	11340	160	3.98	45.1	7216		SD345
3-1	D25	5500	126	3.98	21.9	2759		SD345
3-2	D25	3380	126	3.98	13.5	1701		SD345
4	D25	11930	8	3.98	47.5	380		SD345
5	D25	11400	14	3.98	45.4	636		SD345
6-1	D25	5500	8	3.98	21.9	175		SD345
6-2	D25	3410	8	3.98	13.6	109		SD345
小計						20811 kg		
F 1-1	D38	11500	92	8.95	103	9476	 (-)	SD345
1-2	D38	9720	92	8.95	87.0	8004	 (92)	SD345
2-1	D38	12000	4	8.95	107	428	 (-)	SD345
2-2	D38	9220	4	8.95	82.5	330	 (4)	SD345
3-1	D38	10000	88	8.95	89.5	7876	 (-)	SD345
3-2	D38	5610	88	8.95	50.2	4418	 (88)	SD345
4-1	D38	10500	6	8.95	94.0	564	 (-)	SD345
4-2	D38	5110	6	8.95	45.7	274	 (6)	SD345
5-1	D38	12000	90	8.95	107	9630	 (-)	SD345
5-2	D38	9030	90	8.95	80.8	7272	 (90)	SD345
6-1	D38	11500	6	8.95	103	618	 (-)	SD345
6-2	D38	9530	6	8.95	85.3	512	 (6)	SD345
7-1	D38	10000	88	8.95	89.5	7876	 (-)	SD345
7-2	D38	5610	88	8.95	50.2	4418	 (88)	SD345
8-1	D38	10500	6	8.95	94.0	564	 (-)	SD345
8-2	D38	5110	6	8.95	45.7	274	 (6)	SD345
9-1	D32	9300	88	6.23	57.9	5095	 (-)	SD345
9-2	D32	6350	88	6.23	39.6	3485	 (88)	SD345
10	D32	6330	8	6.23	39.4	315		SD345
11-1	D32	9300	88	6.23	57.9	5095	 (-)	SD345
11-2	D32	6350	88	6.23	39.6	3485	 (88)	SD345
12	D32	6330	8	6.23	39.4	315		SD345
13-1	D19	12000	30	2.25	27.0	810		SD345
13-2	D19	4010	30	2.25	9.02	271		SD345
14-1	D19	12000	30	2.25	27.0	810	—	SD345
14-2	D19	3490	30	2.25	7.85	236	—	SD345
小計						82451 kg		
◎ F ⁰ 1	D16	3550	272	1.56	5.54	1507	 [272]	SD345
小計						1507 kg		

種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要	材 質
鉄筋総質量 (SD490) (防錆処理鉄筋)								
径	A	B	C	総質量	機械継手箇所数	機械式鉄筋定着体箇所数		
D51	—	kg	29472kg	—	kg	29472 kg	(192)	
合計	—	kg	29472kg	—	kg	29472 kg	(192)	
鉄筋総質量 (SD490)								
径	A	B	C	総質量	機械継手箇所数	機械式鉄筋定着体箇所数		
D51	—	kg	34352kg	—	kg	34352 kg	(32)	
合計	—	kg	34352kg	—	kg	34352 kg	(32)	
鉄筋総質量 (SD345)								
径	A	B	C	総質量	機械継手箇所数	機械式鉄筋定着体箇所数		
D38	—	kg	62534kg	—	kg	62534 kg	(380)	
D32	630kg	17160kg	—	kg	17790kg	(176)		
D25	20811kg	—	kg	—	kg	20811kg		
D19	2127kg	—	kg	—	kg	2127kg		
D16	—	kg	—	kg	1507 kg	1507kg	[272]	
合計	23568kg	79694kg	1507 kg	104769kg	(556)	[272]		
注1) () 内数値は機械継手箇所数を示す。								
2) [] 内数値は機械式鉄筋定着体箇所数を示す。								

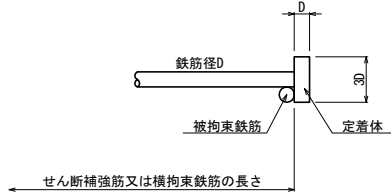
鉄筋集計表（下部工施工）

単価項目	径	一般用鉄筋			合 計
		SD345	SD490	SD490	
		H≦25m	H≦25m	H≦25m	
A 鉄筋	D13	—	—	—	—
	D16	—	—	—	—
	D19	2127	—	—	2127
	~	D22	—	—	—
	D25	20811	—	—	20811
	計	22938	—	—	22938
	D29	—	—	—	—
	~	D32	630	—	630
	D32	計	630	—	630
	D35	—	—	—	—
	D38	—	—	—	—
	D41	—	—	—	—
	D51	—	—	—	—
	合 計	23568	—	—	23568
B 鉄筋	D16	—	—	—	—
	~	D19	—	—	—
	D25	—	—	—	—
	計	—	—	—	—
	D29	—	—	—	—
	~	D32	17160	—	17160
	D32	計	17160	—	17160
	D35	—	—	—	—
	D38	62534	—	—	62534
	D41	—	—	—	—
	D51	—	34352	29472	63824
	合 計	79694	34352	29472	143518
C 鉄筋	D16	1507	—	—	1507
	~	D19	—	—	—
	D25	—	—	—	—
	計	1507	—	—	1507
	D29	—	—	—	—
	~	D32	—	—	—
	D32	計	—	—	—
	合 計	1507	—	—	1507
鉄 筋 総 質 量		104769	34352	29472	168593

機械継手寸法 (参考)



機械式鉄筋定着工法 (参考)



機械継手寸法

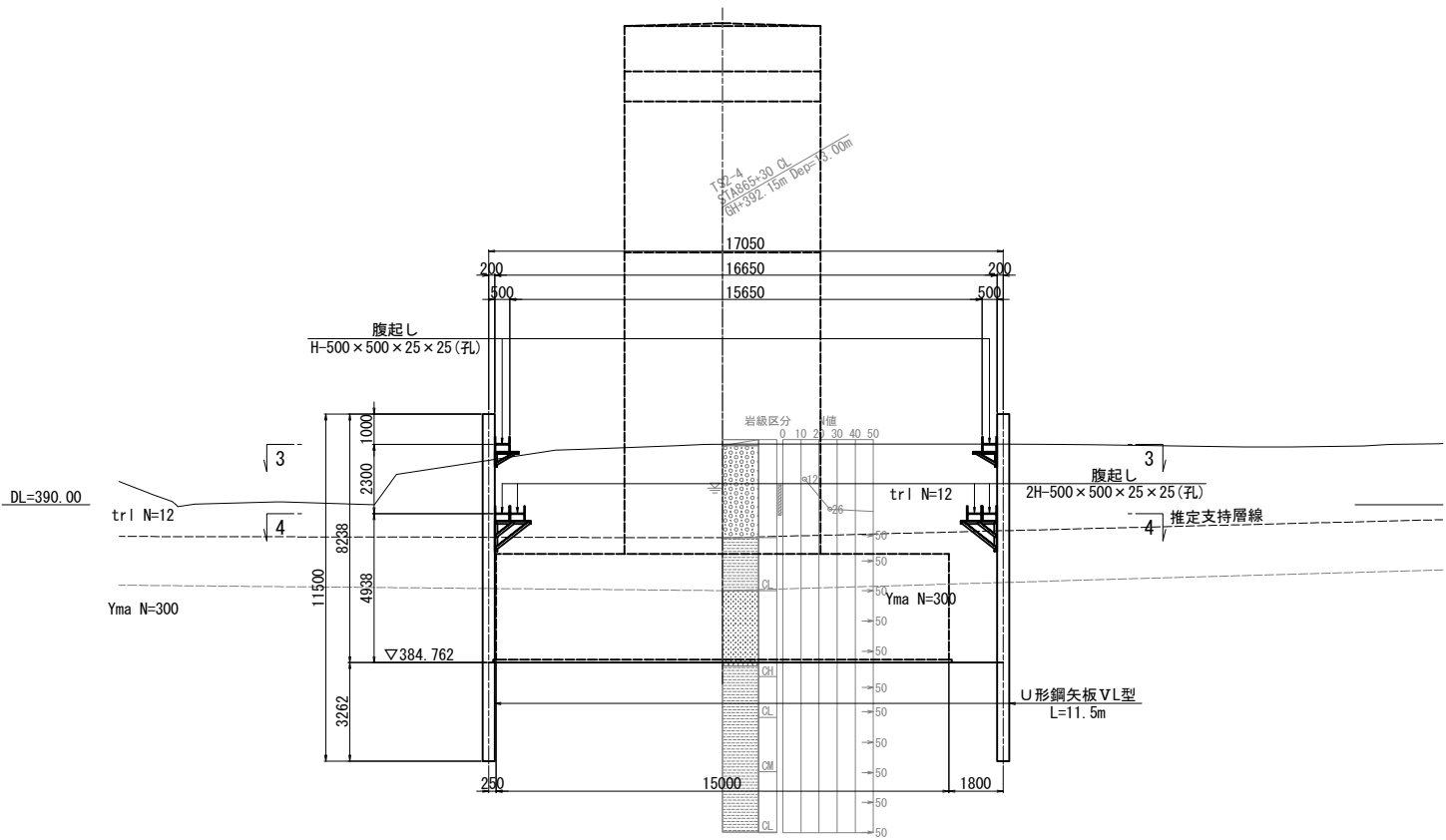
鉄筋径	径	長さ
D29	50.0mm	270mm
D32	54.0mm	300mm
D35	58.0mm	330mm
D38	63.0mm	360mm
D41	67.0mm	370mm
D51	84.0mm	360mm

- 注) 1. 定着体は、その長辺方向が、それを掛けられる鉄筋 (被拘束鉄筋) と直交するように配置する。
2. 定着体は、被拘束鉄筋に接触するように配置する。
3. 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置する。
4. 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近付けろ。

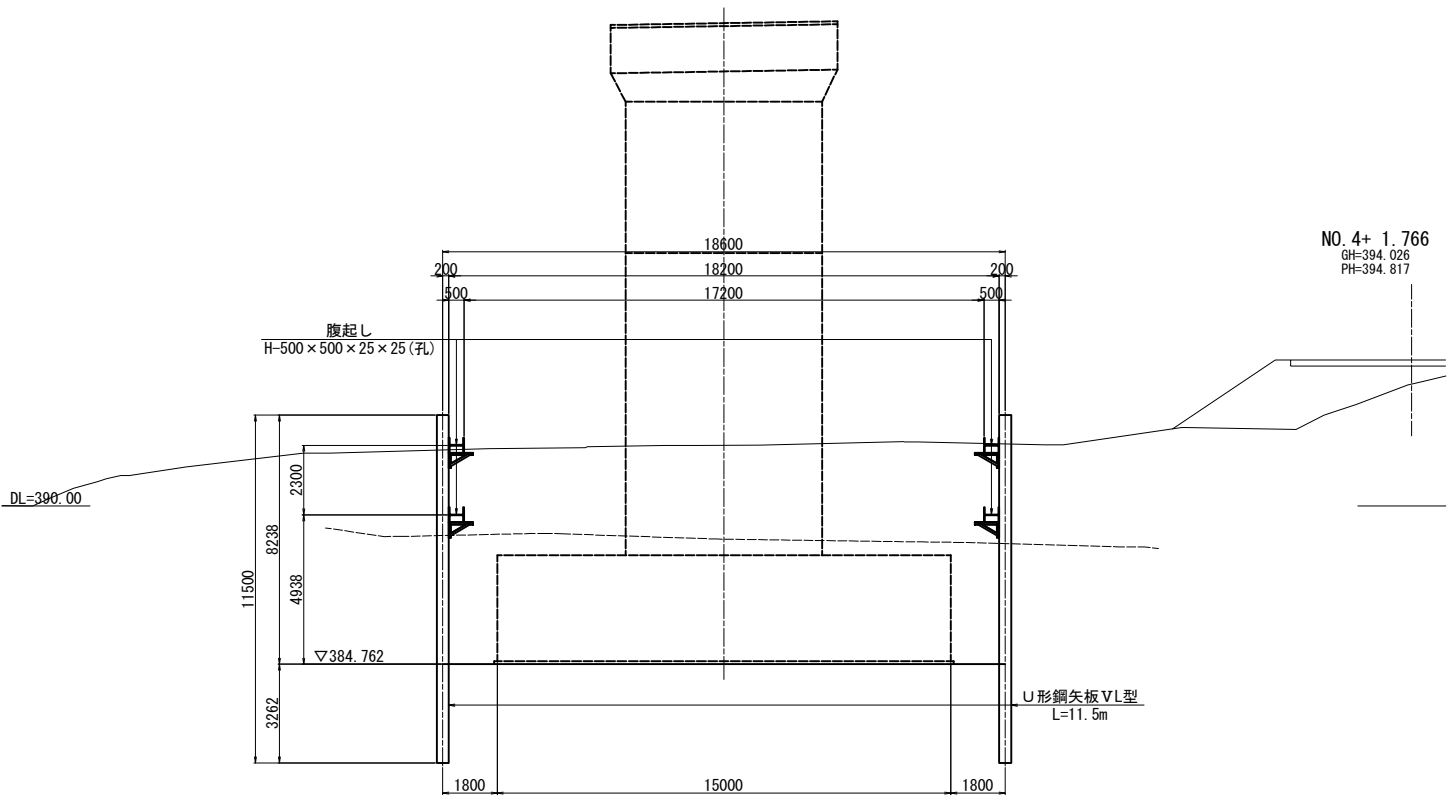
鉄筋曲げ加工表

--

断面図(1-1)

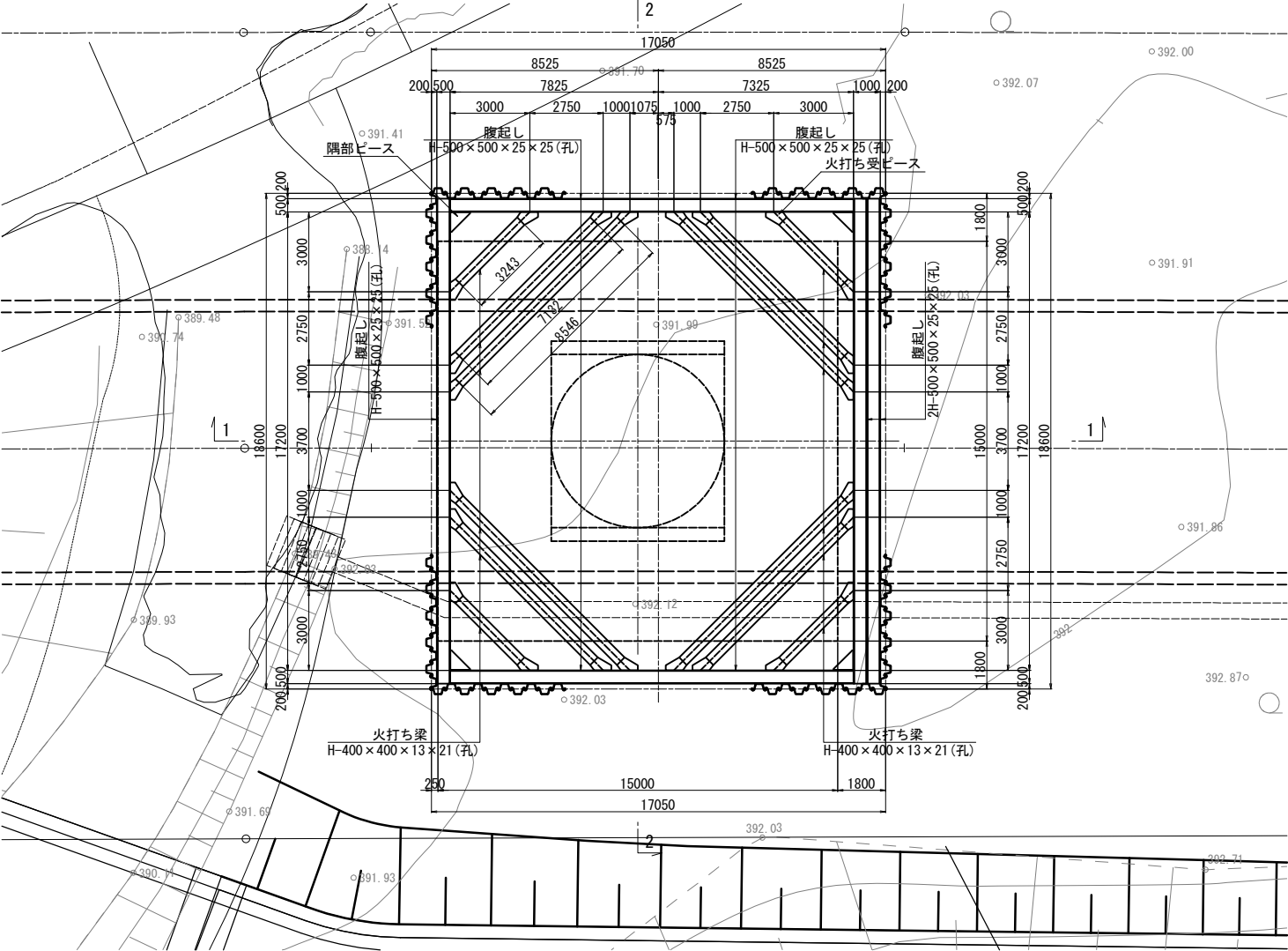


断面図(2-2)



平面図(3-3)

平面図(4-4)



材料表

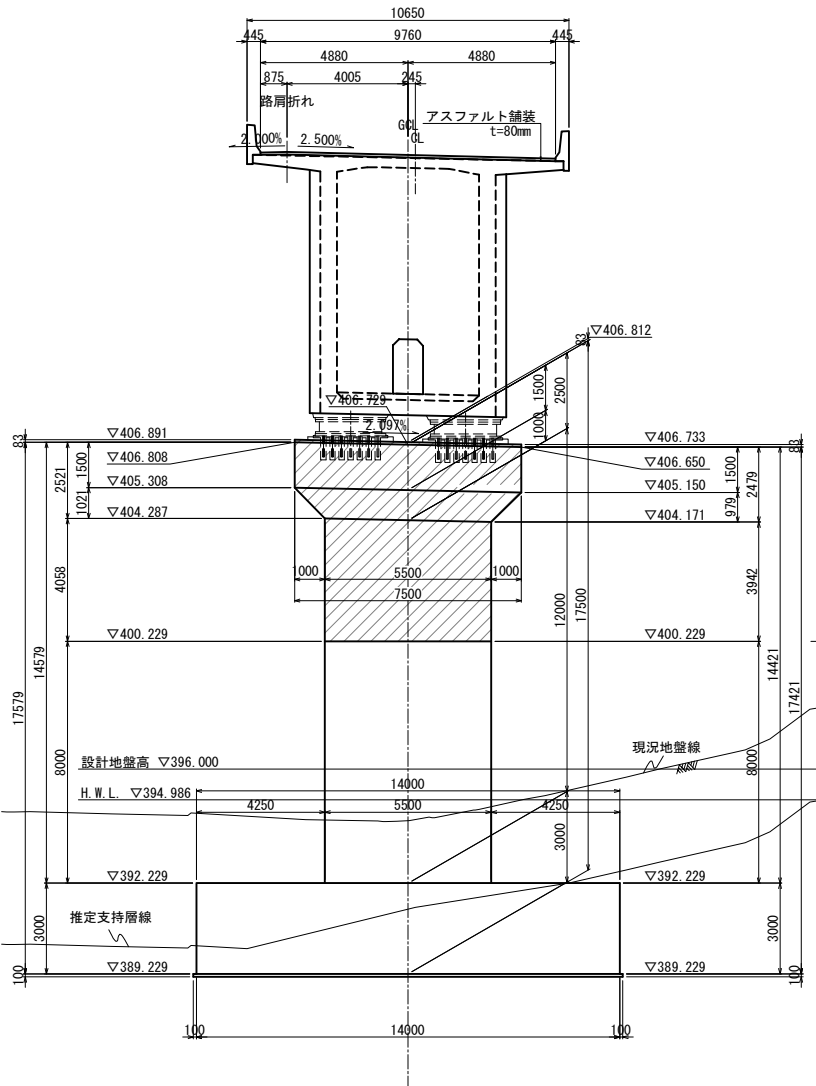
種 別	形状寸法	長さ (mm)	数量	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	材質	摘要
普通鋼矢板 (リース材)								
鋼矢板	VL型	11 500	146	105.0	1 207.5	176 295	SY295	
仮設材鋼矢板合計						176 295 kg		
支保工 (リース材)								
腹 起 し	H-500×500×25×25	18 200	6	300	5 460.0	32 760	SS400	
”	”	15 650	2	300	4 695.0	9 390	”	
”	”	14 650	2	300	4 395.0	8 790	”	
火打ち梁	H-400×400×13×21	8 546	8	200	1 709.2	13 674	SS400	
”	”	7 132	8	200	1 426.4	11 411	”	
”	”	3 243	8	200	648.6	5 189	”	
主部材合計						81 214 kg		
カバプレート								
カバプレート	H-500用		20		104.0	2 080	SS400	
隅部ピース	H-500用		8		171.0	1 368	”	
火打受ピース	H-400用		48		110.0	5 280	”	
副部材合計						8 728 kg		
合計						89 942 kg		
鋼製山留材 主部材合計						81.214 t		
鋼製山留材 副部材合計						8.728 t		
鋼製山留材 消耗部品合計 (主部材×0.04)						3.249 t		
鋼製山留材 合計						93.191 t		
※火打長は全長より火打ちピース長 (2×0.50m) を控除した長さとする。								
※カバプレートは1腹起し当り2個を想定する。								

鋼矢板圧入数量表

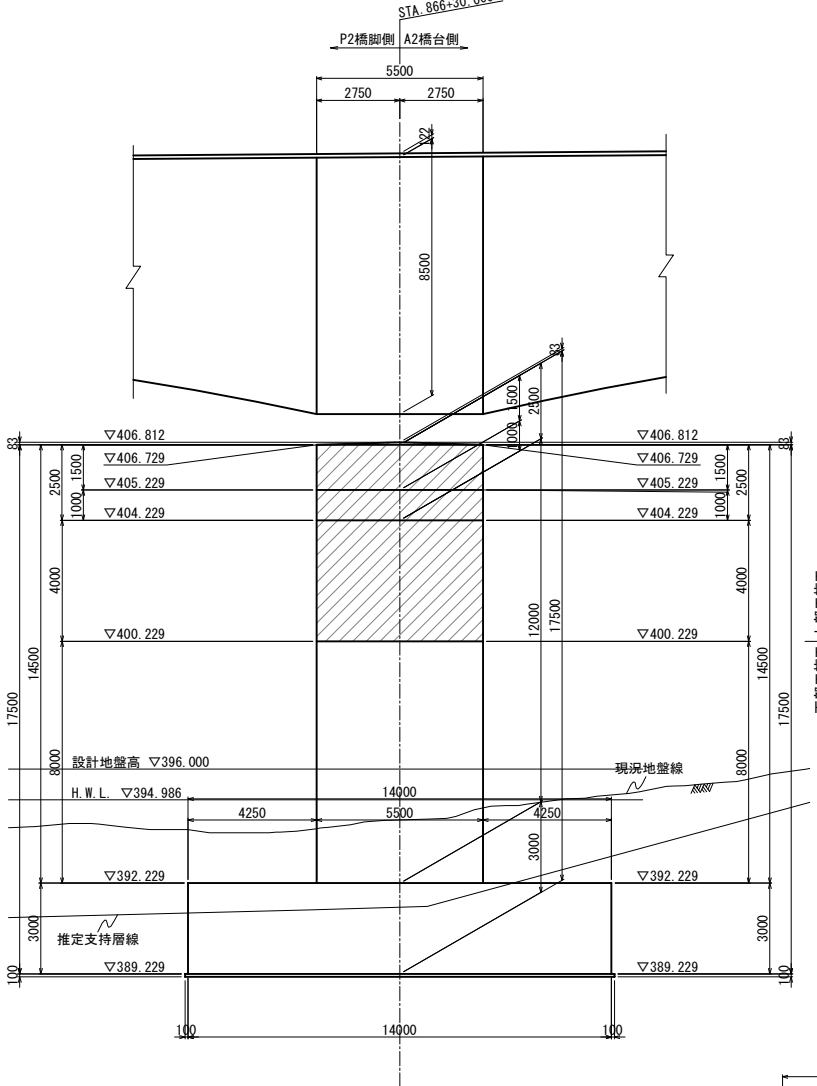
規 格	工 種	単位	数 量	摘 要	
鋼矢板 VL型	施工枚数	枚	146		
	1枚当たり打込み長	m	11.0		
	平均N値	-	207		
	土質区分	bk	m	99.0	N=25
		trl	m	422.5	N=12
		Yma	m	1084.5	N=300
		合 計	m	1606.0	

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 2 橋脚土留工詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

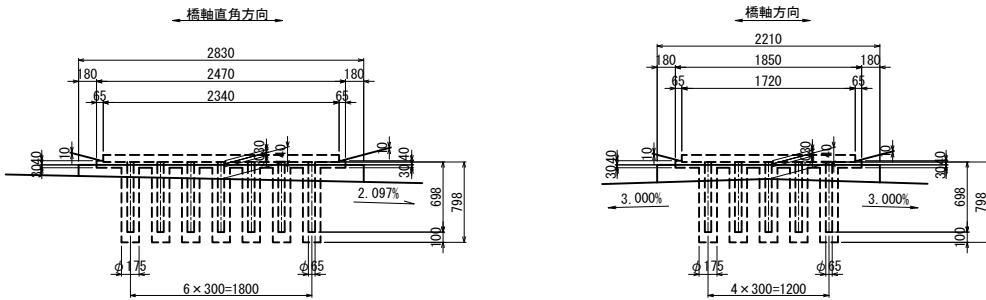
正面図



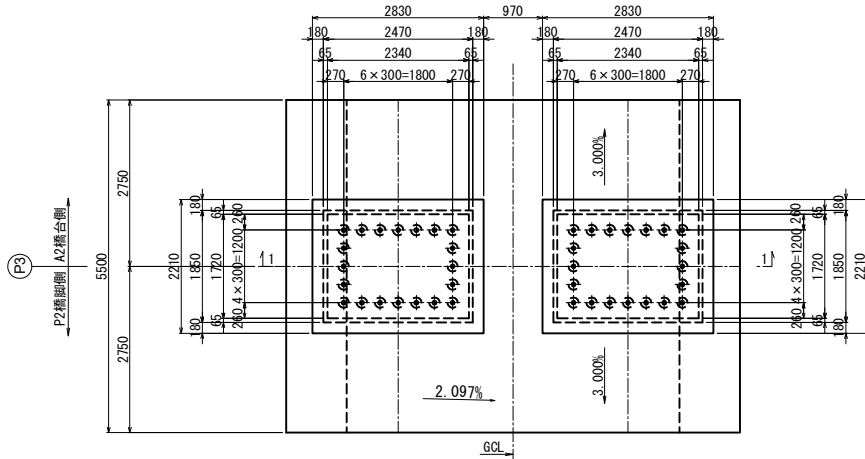
側面図



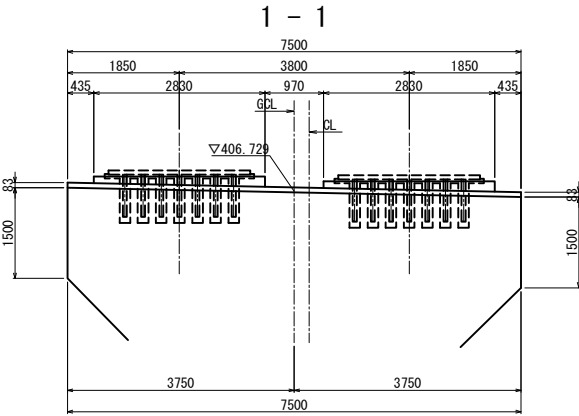
支承詳細図 S=1:75



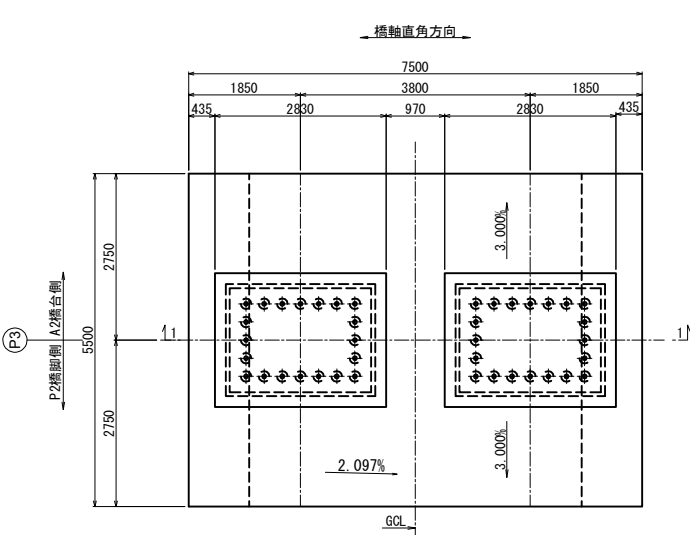
支承詳細平面図 S=1:125



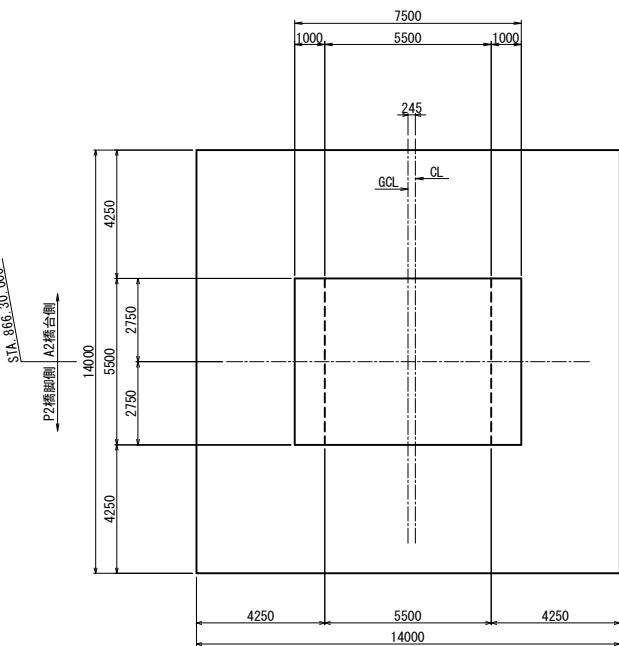
橋座面断面図 S=1:125



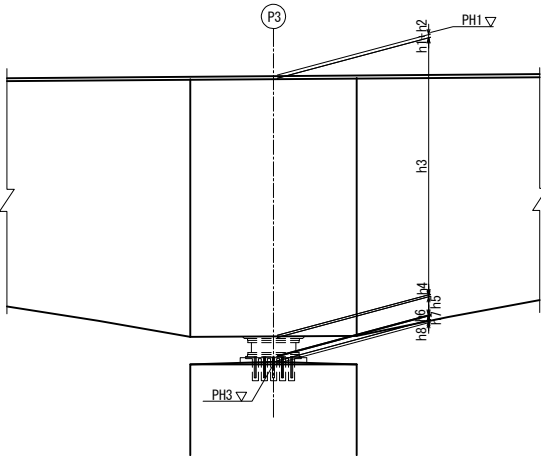
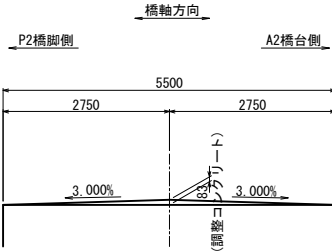
橋座面平面図 S=1:125



平面図



橋脚天端詳細図 S=1:125



構造高表（支承ライン）

		P3			
		SL	GCL	CL	SR
計画高	PH1	416.303	416.255	416.249	416.208
舗装厚	h1	0.080	0.080		0.080
調整コンクリート	h2	0.027	0.020		0.012
桁高	h3	8.500			8.500
レアー厚	h4	0.070			0.070
支承高	h5	0.604			0.604
小計	Σh1	9.281			9.266
モルタル天端高	PH2	407.021			406.942
容座モルタル高	h6	0.030			0.030
台座高	h7	0.140			0.140
調整コンクリート	h8	0.083			0.083
橋座高	PH3	406.768	406.729	406.723	406.689
横断勾配(%)	i	-2.097%			
構造高合計	Σh	9.535	9.526	9.526	9.519

※調整コンクリートは主桁コンクリートと同時に打設する。

上部工施工材料基準強度

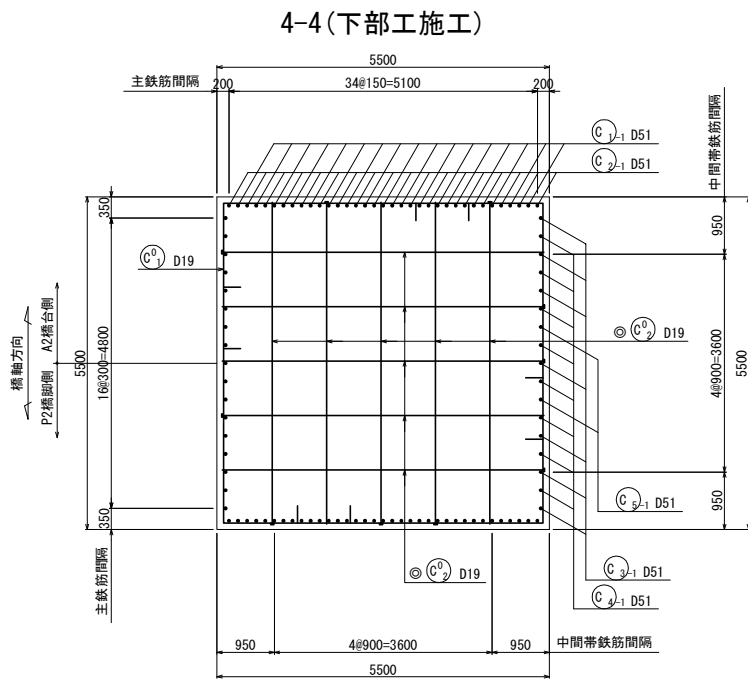
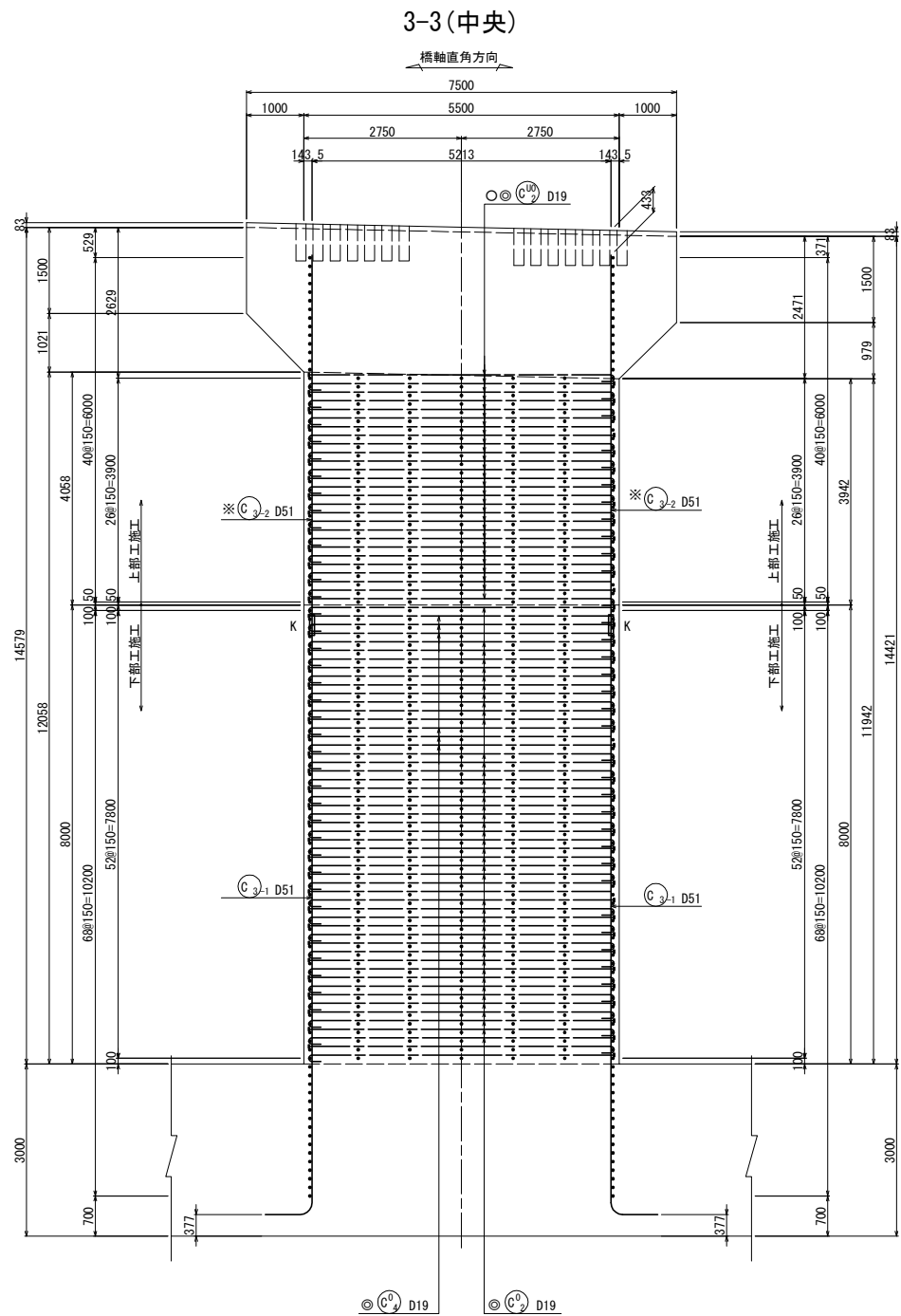
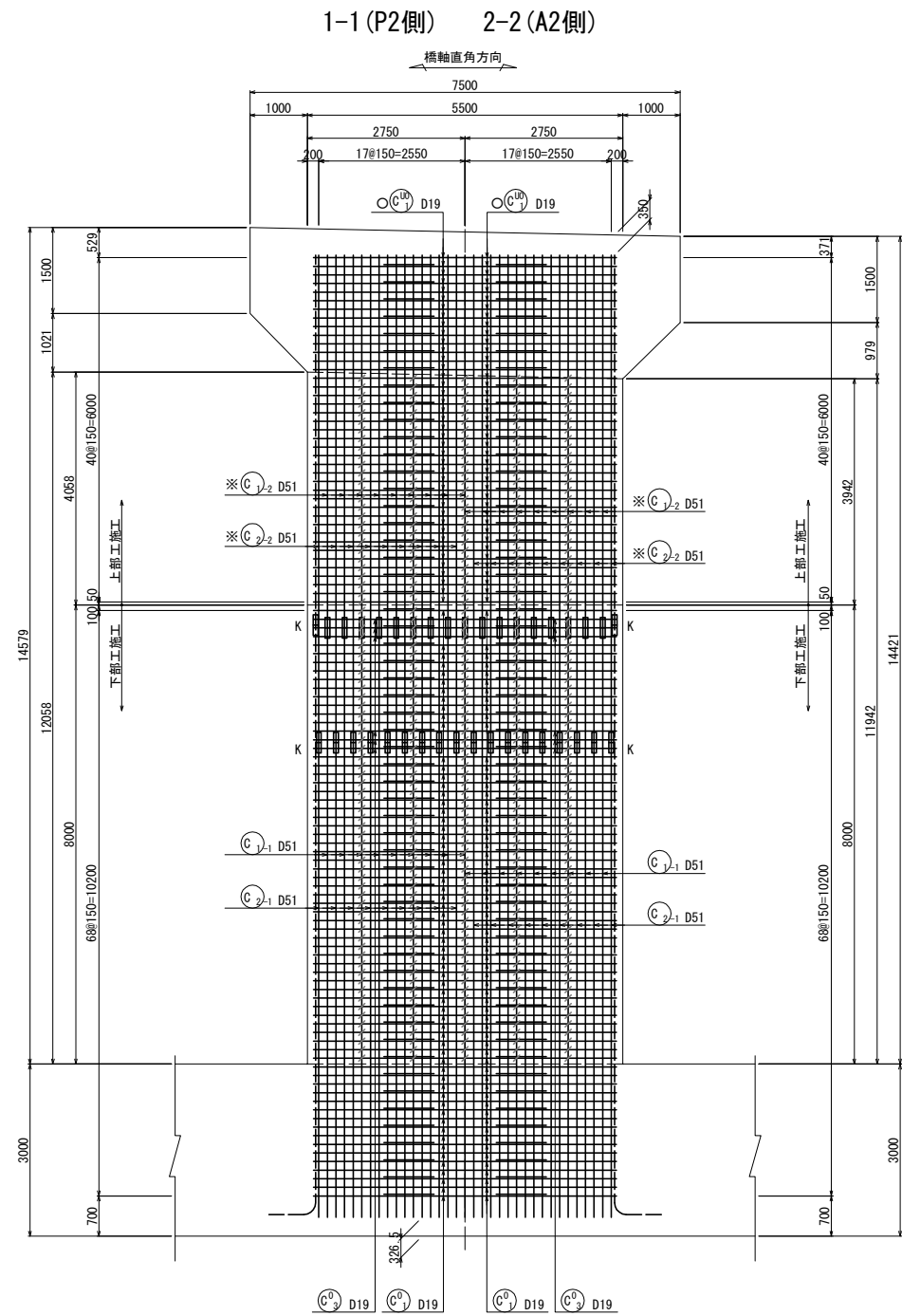
	コンクリート	鉄筋
梁	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD345
柱	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490

下部工施工材料基準強度

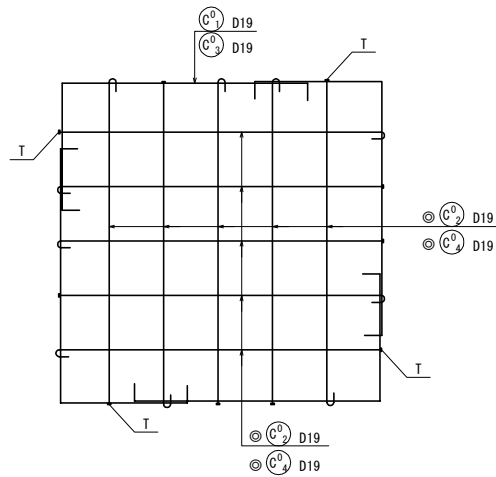
	コンクリート	鉄筋
柱	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490
底板	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	SD345

※ ハッチング部は上部工施工を示す。

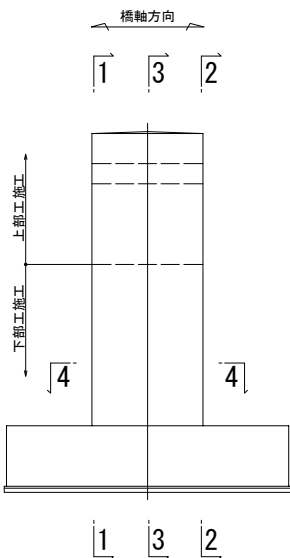
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		



帯鉄筋及び中間帯鉄筋組立図



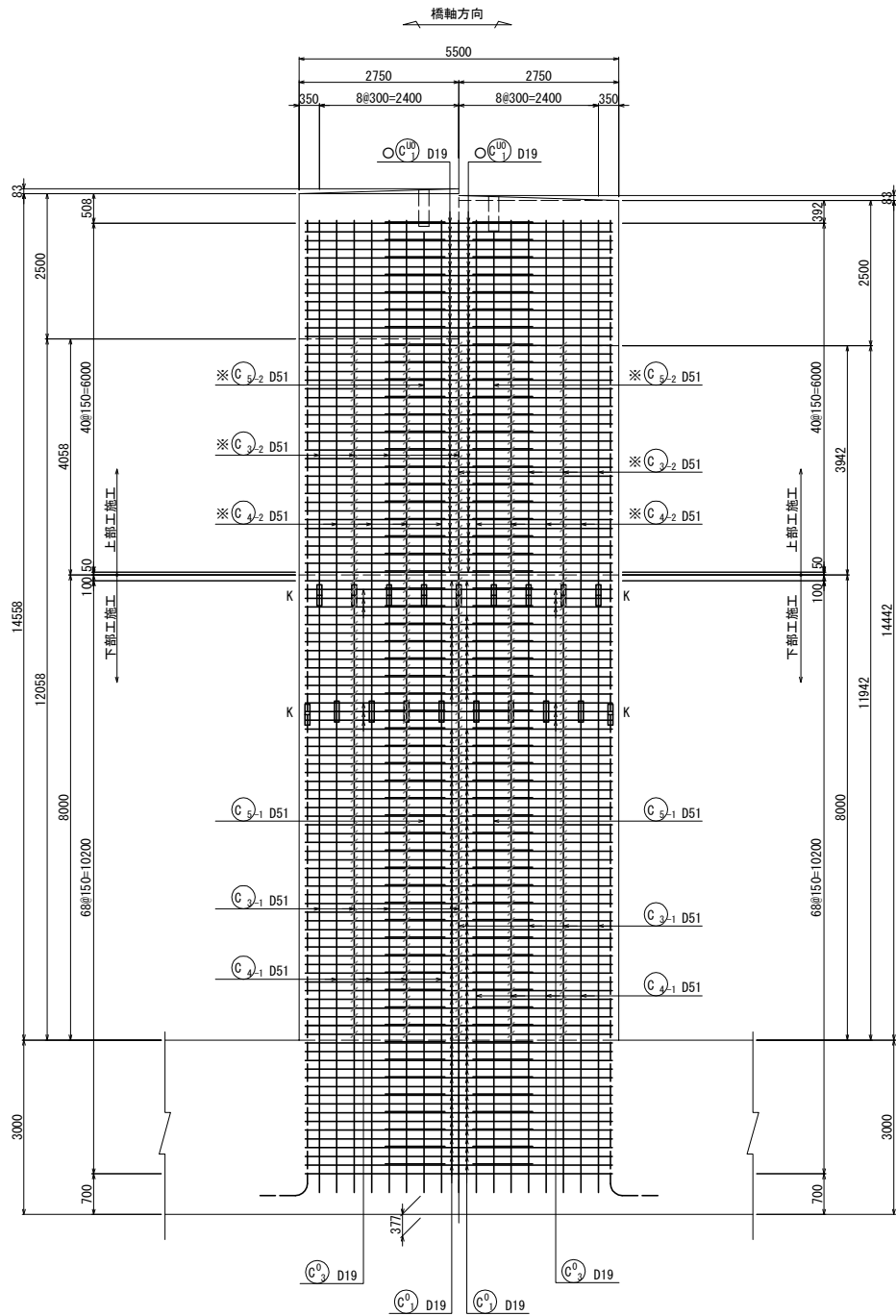
位置図



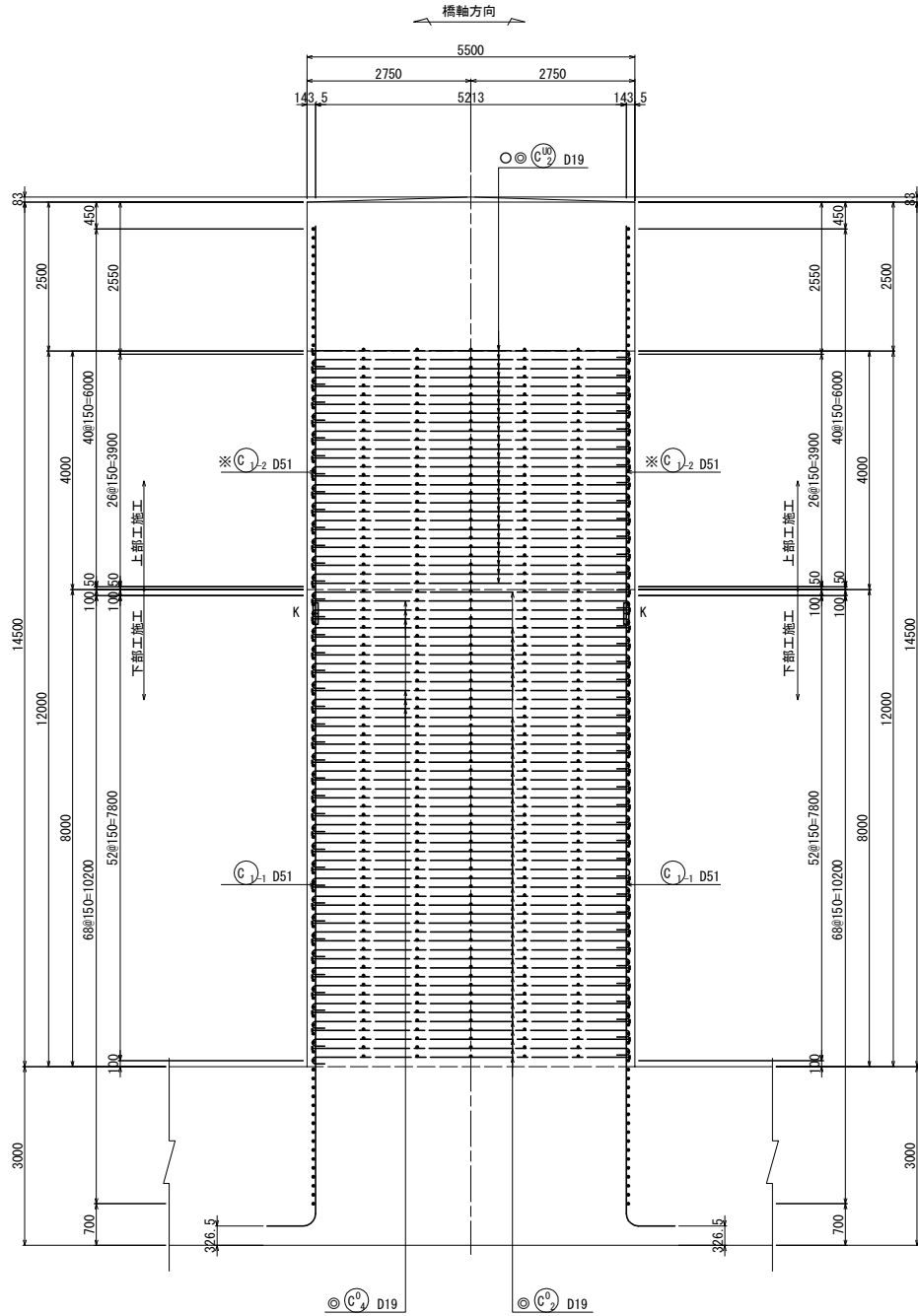
- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注7) $\overline{\text{K}}$ 印は機械継手位置を表す。
- 注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
- 尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
- 注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

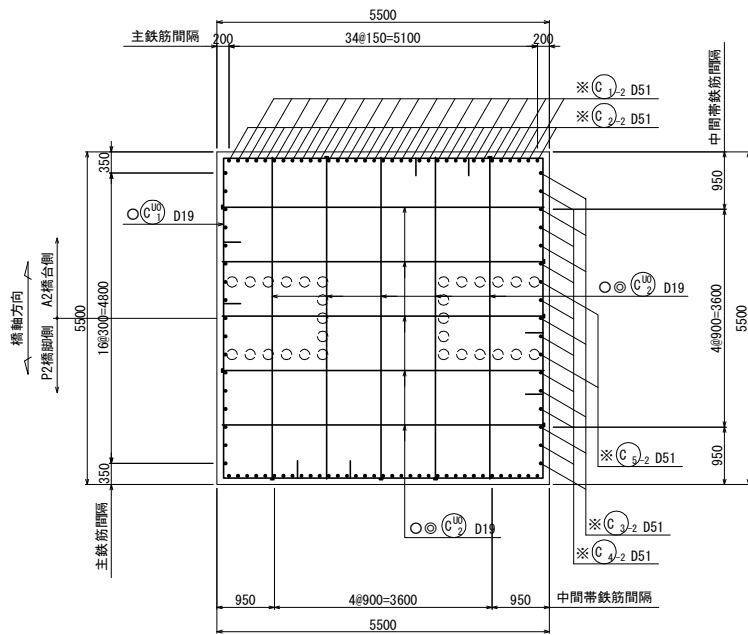
1-1 (左側) 2-2 (右側)



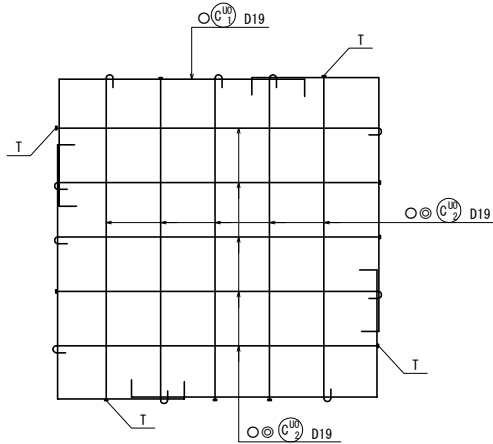
3-3 (中央)



4-4 (上部工施工)

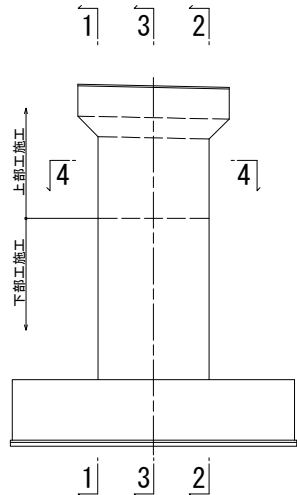


帯鉄筋及び中間帯鉄筋組立図



位置図

橋軸直角方向



注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書・同解説 (R7. 10 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。

機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。

注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。

注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。

注7) K印は機械継手位置を表す。

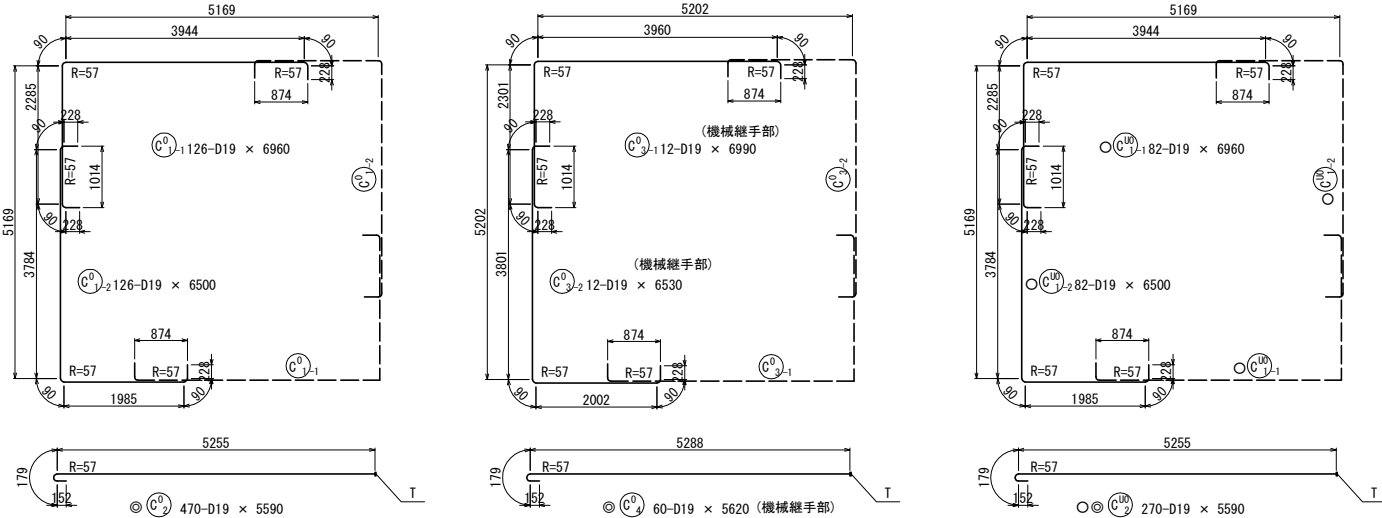
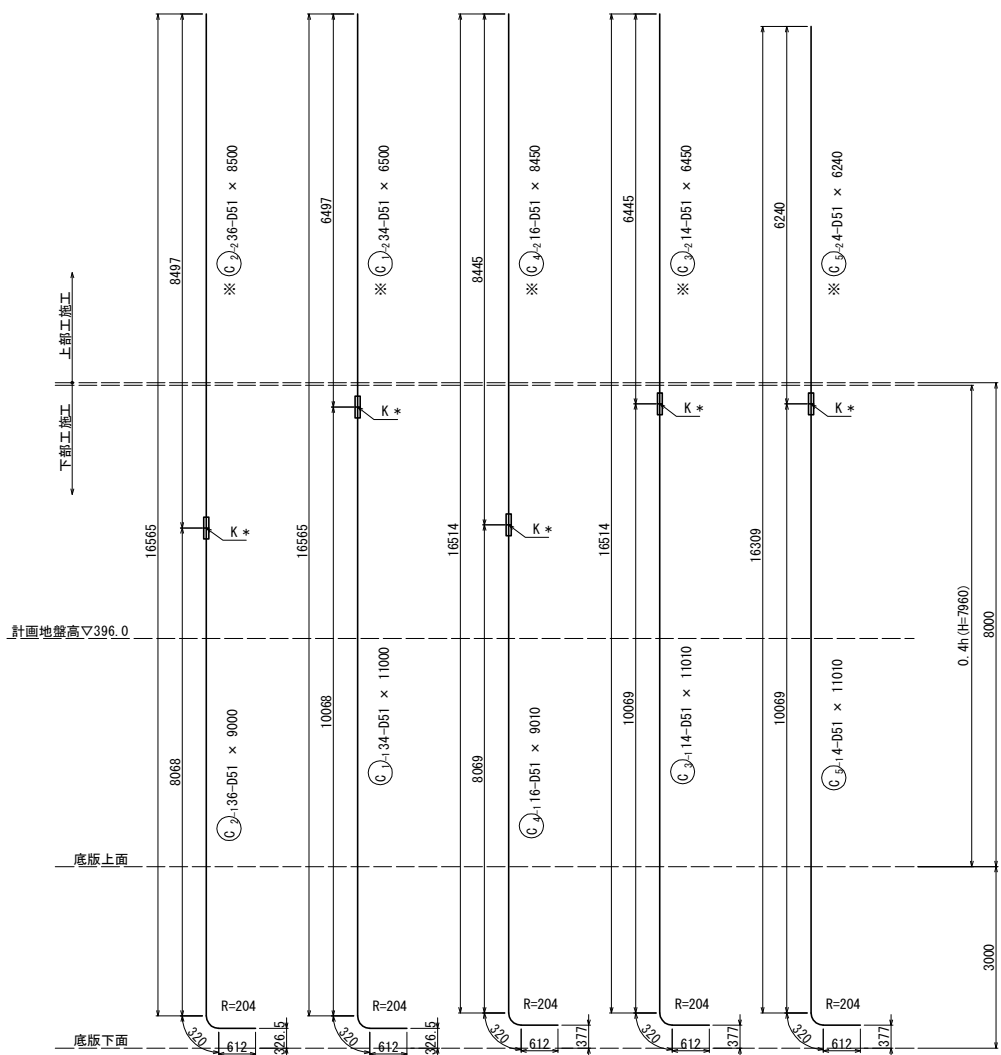
注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。

尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。

注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。

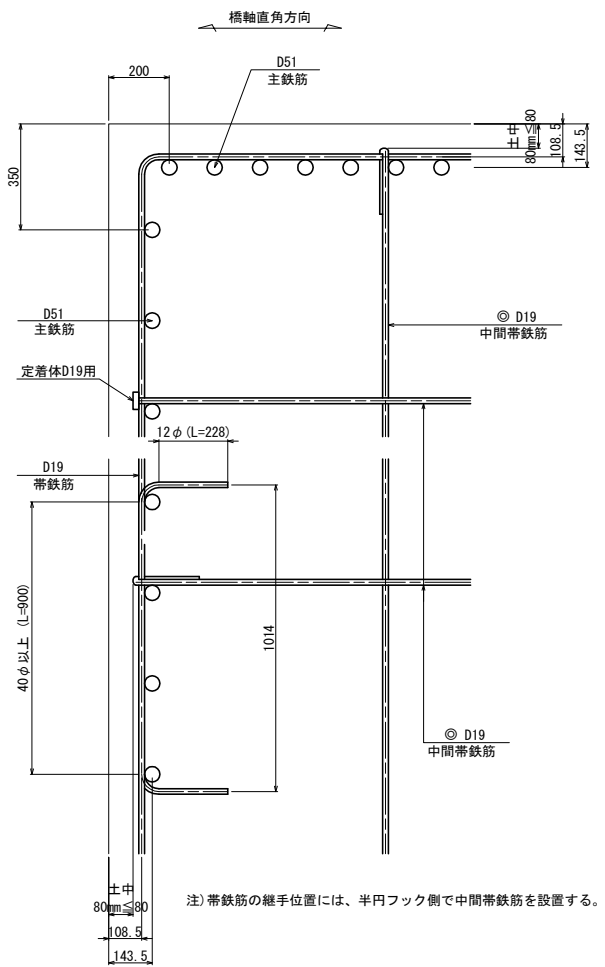
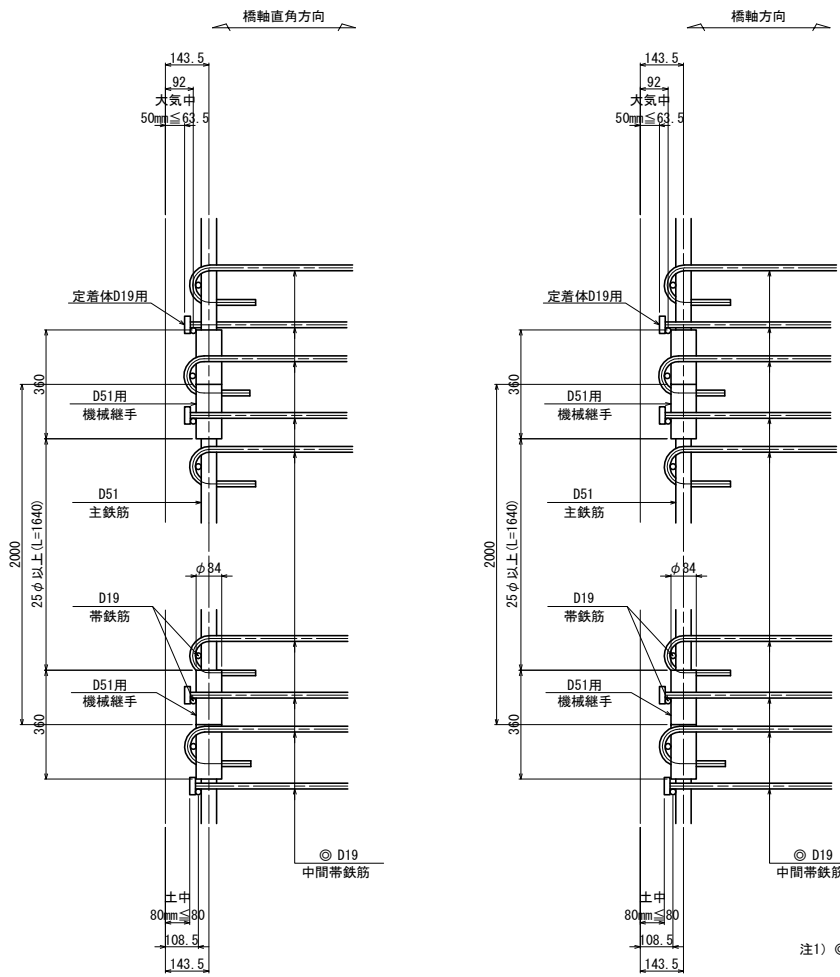
注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



端部詳細図 S=1:25

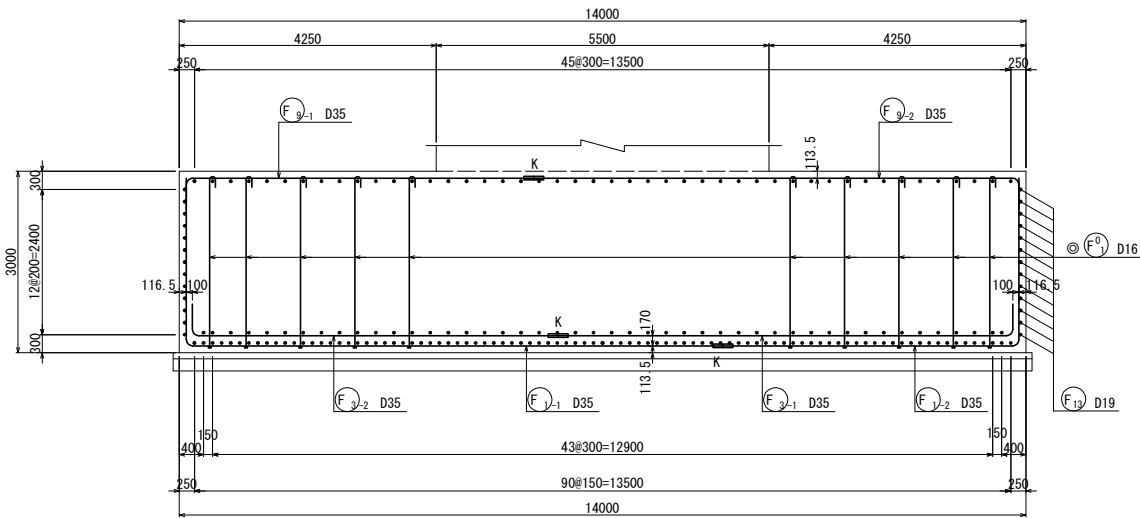
かぶり詳細図 S=1:25



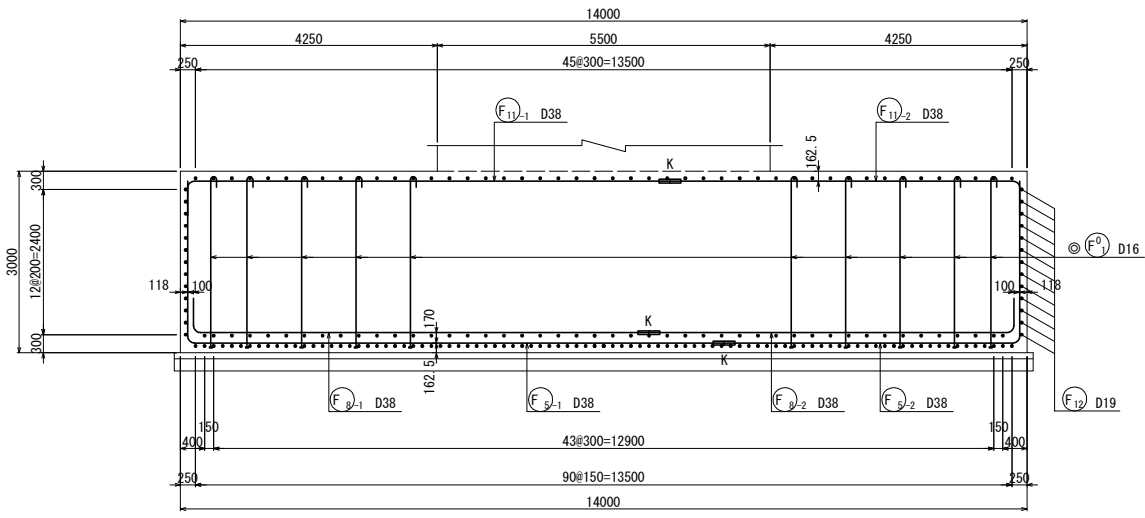
注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
注7) $\frac{K}{\text{---}}$ 印は機械継手位置を表す。
注8) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
注9) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
注10) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

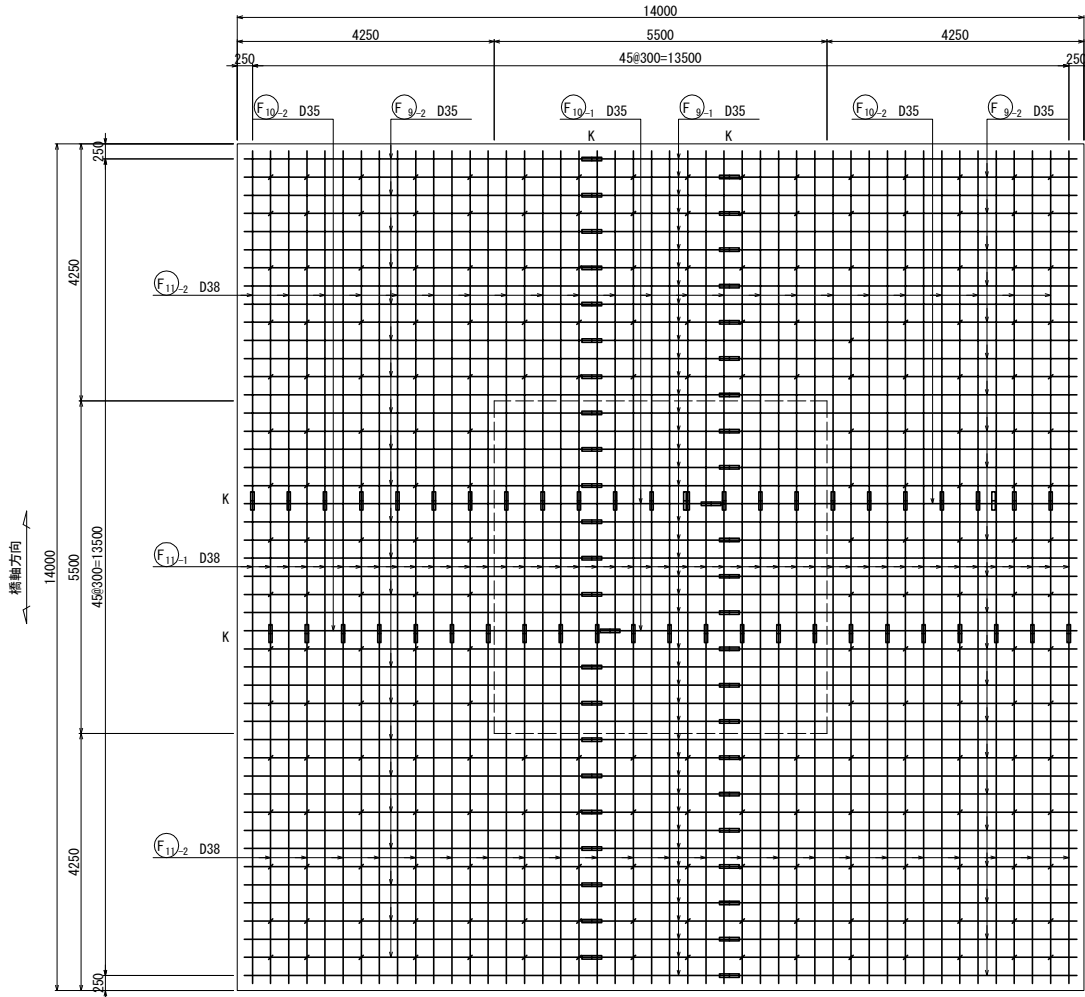
1-1 (橋軸直角方向)



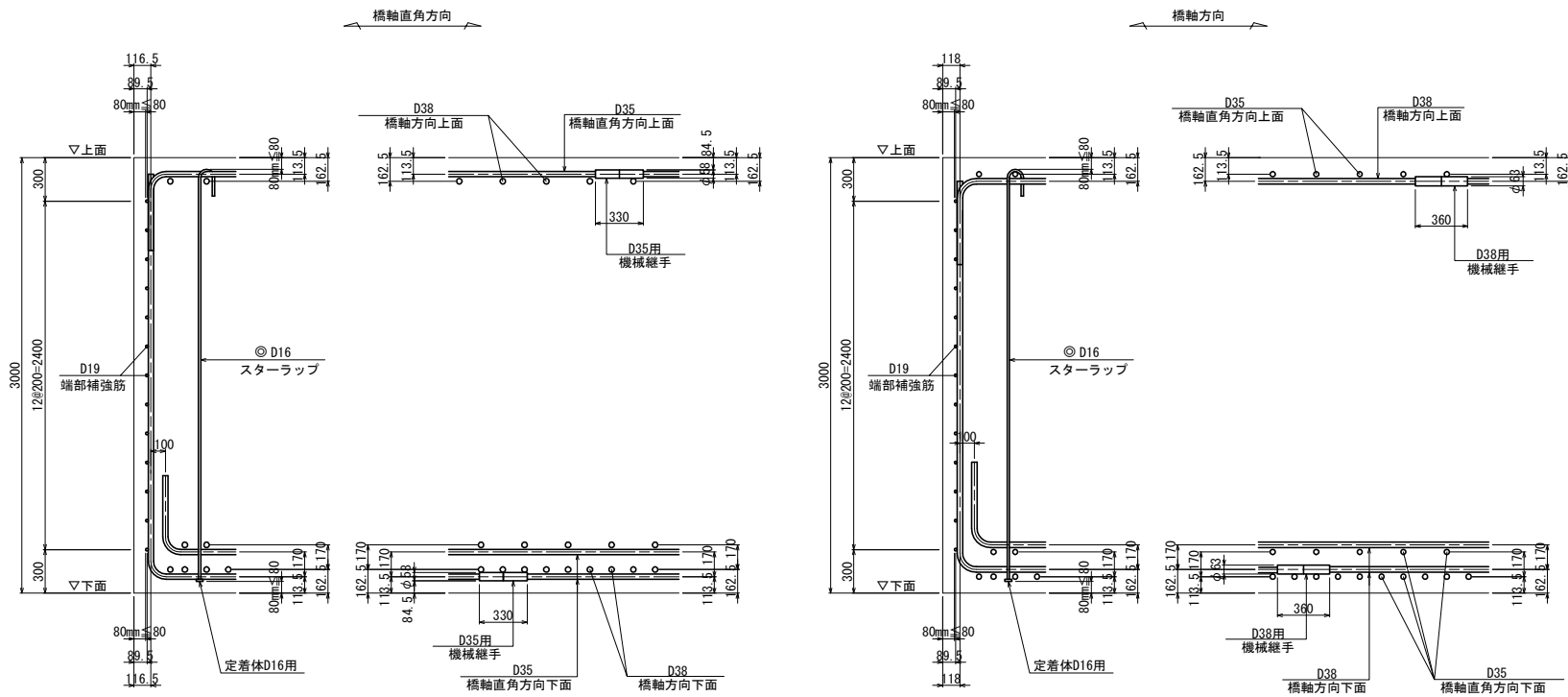
2-2 (橋軸方向)



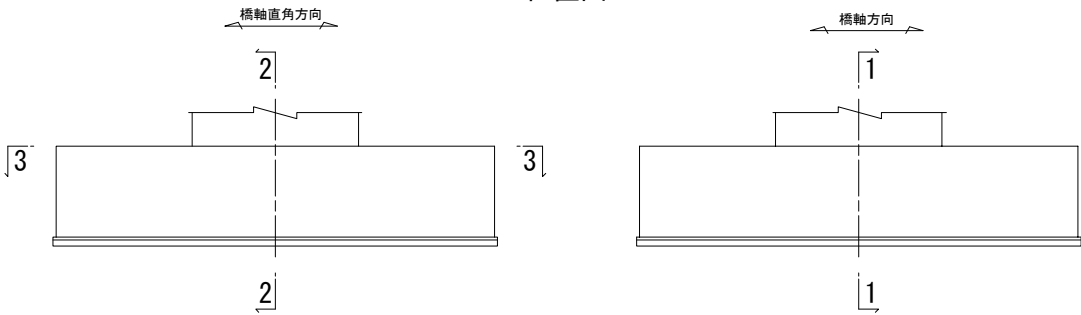
3-3 (上面)



かぶり詳細図 S=1:50

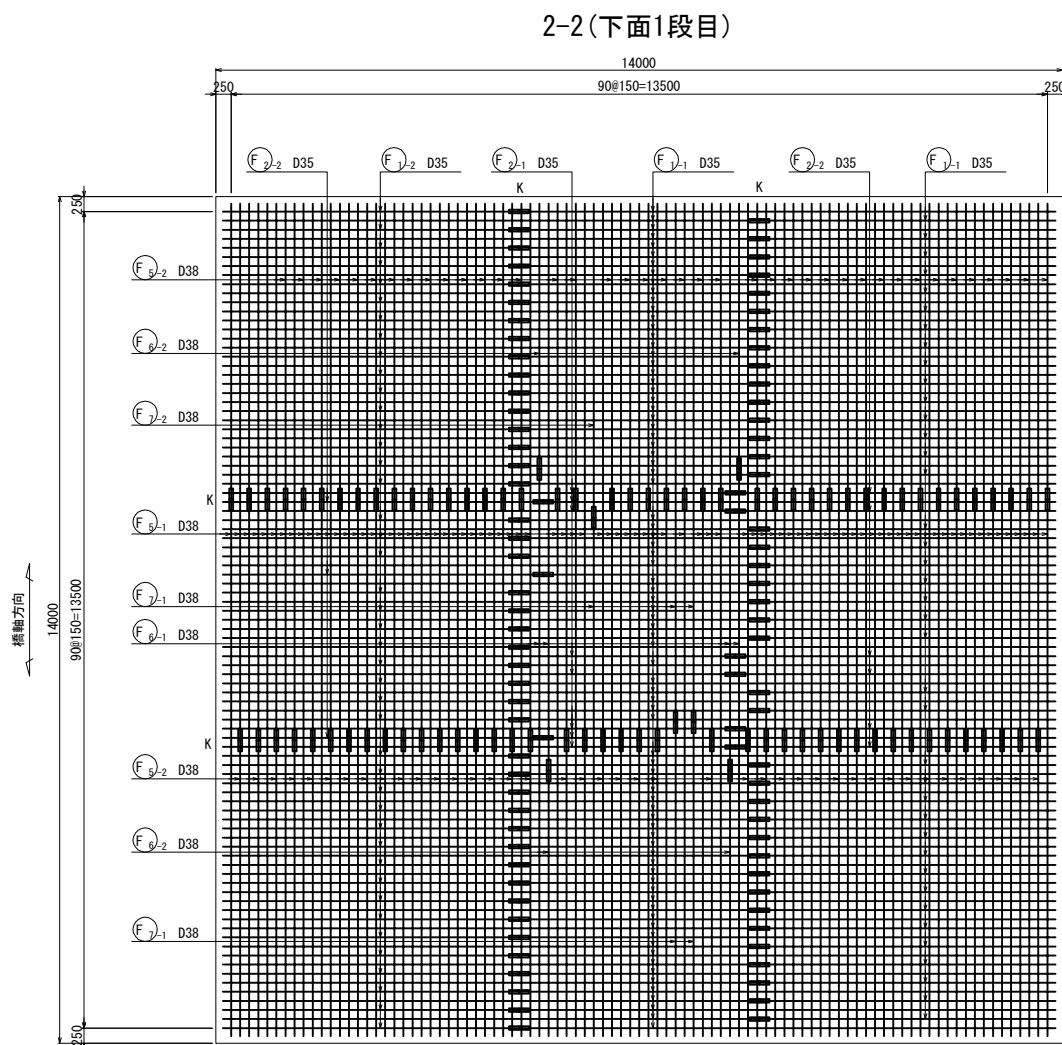
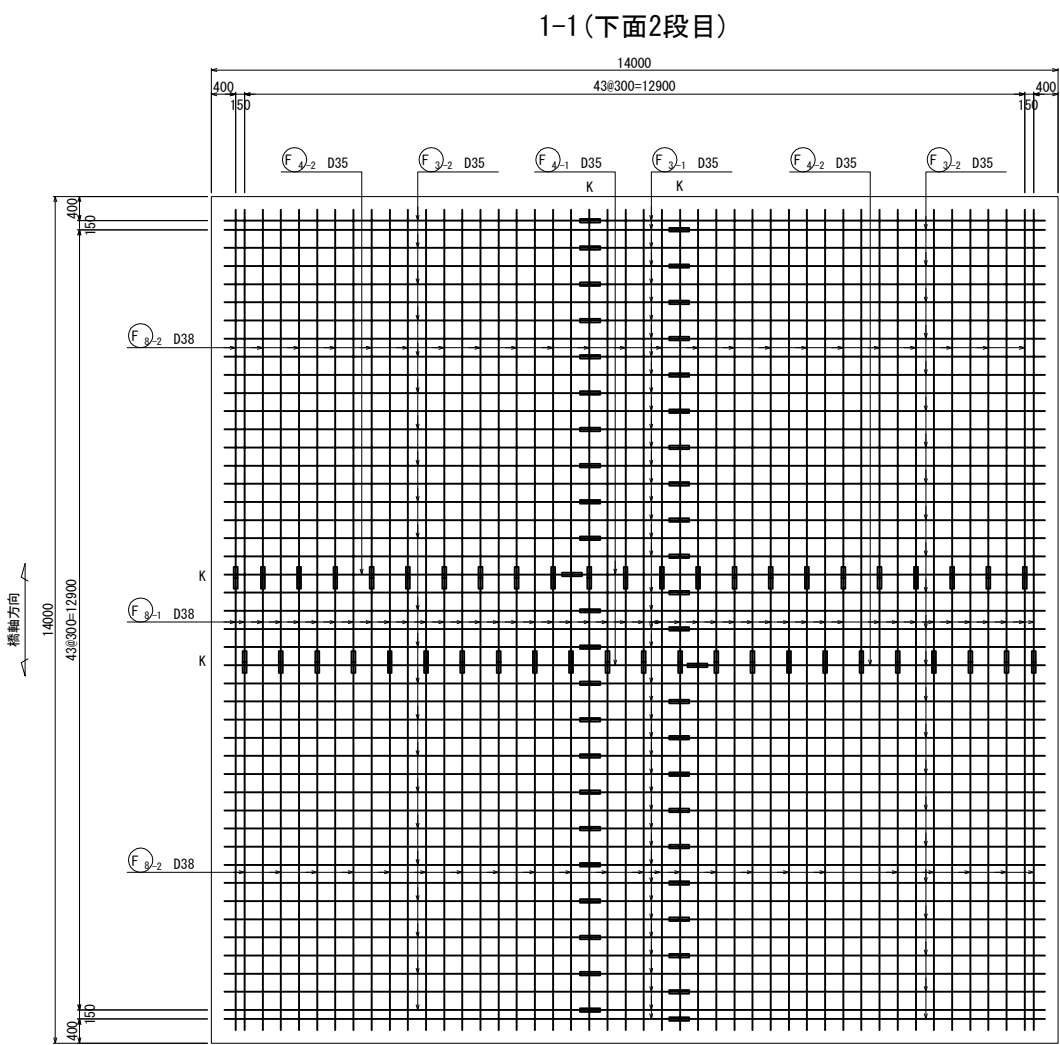


位置図



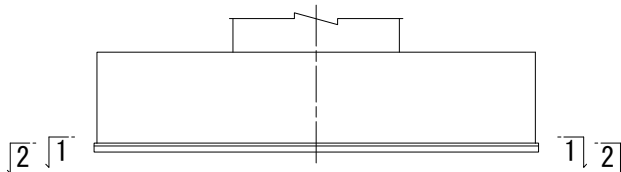
- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注6) $\frac{K}{\ominus}$ 印は機械継手位置を表す。
- 注7) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
- 尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
- 注8) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注9) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



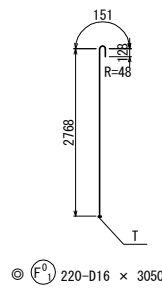
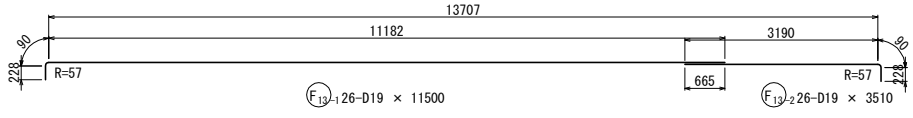
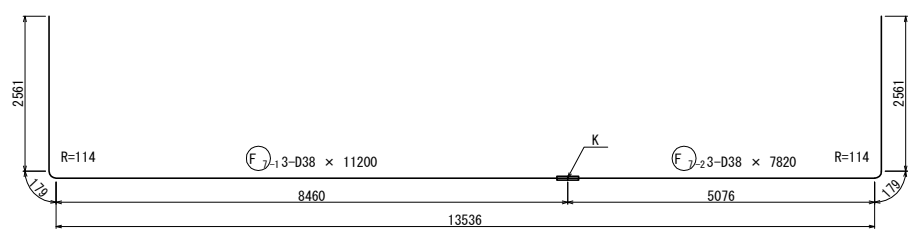
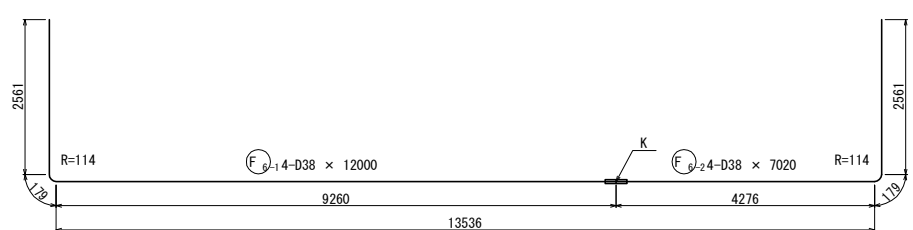
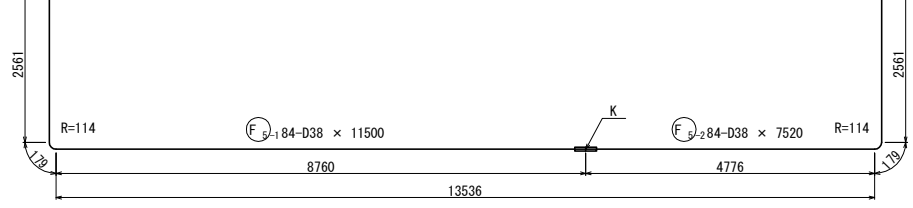
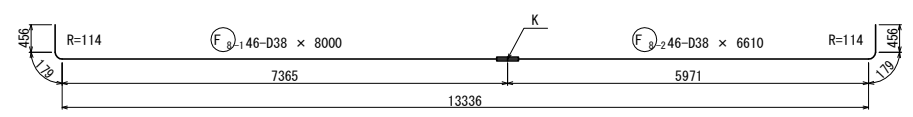
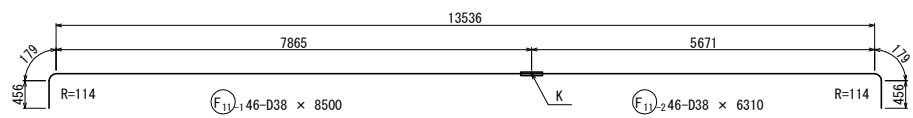
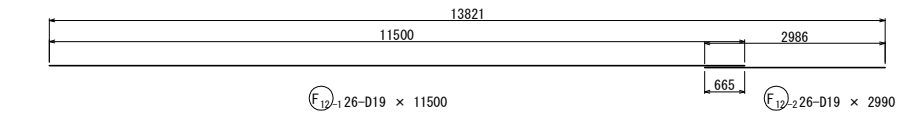
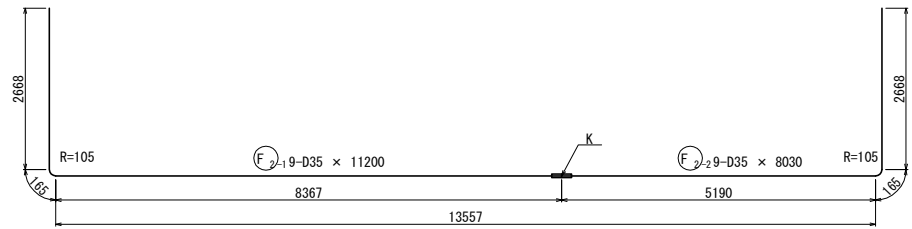
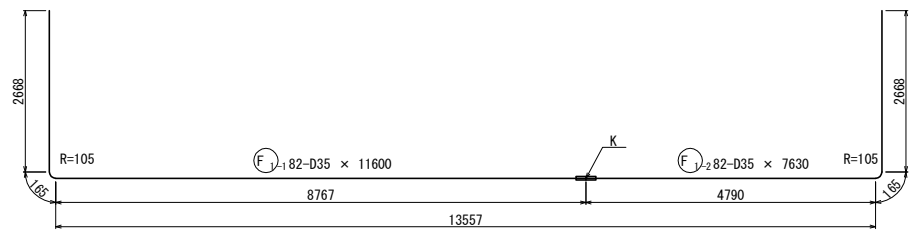
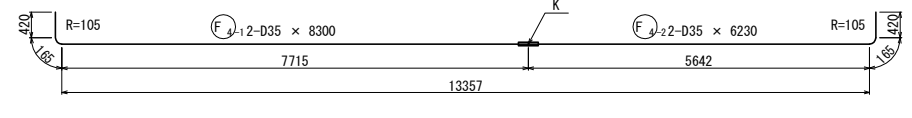
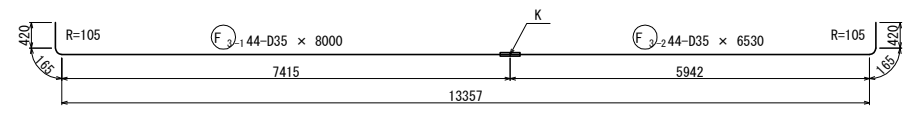
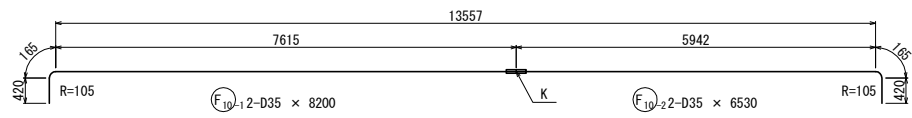
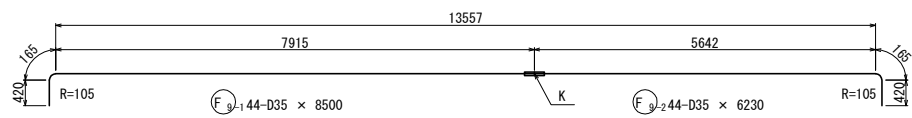
位置図


橋軸直角方向



- 注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
- 注6) $\overset{K}{\text{---}}$ 印は機械継手位置を表す。
- 注7) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
- 尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
- 注8) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
- 注9) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		










































注1) ◎印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ※鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は、切上げの10mm丸めとする。
注6) 印は機械継手位置を表す。
注7) 加工図の曲げ半径は全て表示する。 $\theta \leq 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ 、 $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=5.5\phi$ とする。
尚、勾配により $\theta > 90^\circ$ の場合は $R=3.0\phi$ とする。
注8) 鉄筋径D51の鉄筋材質はSD490とする。それ以外の材質は全てSD345とする。
注9) *印表記の機械継手はSA級を、それ以外の機械継手はA級とする。

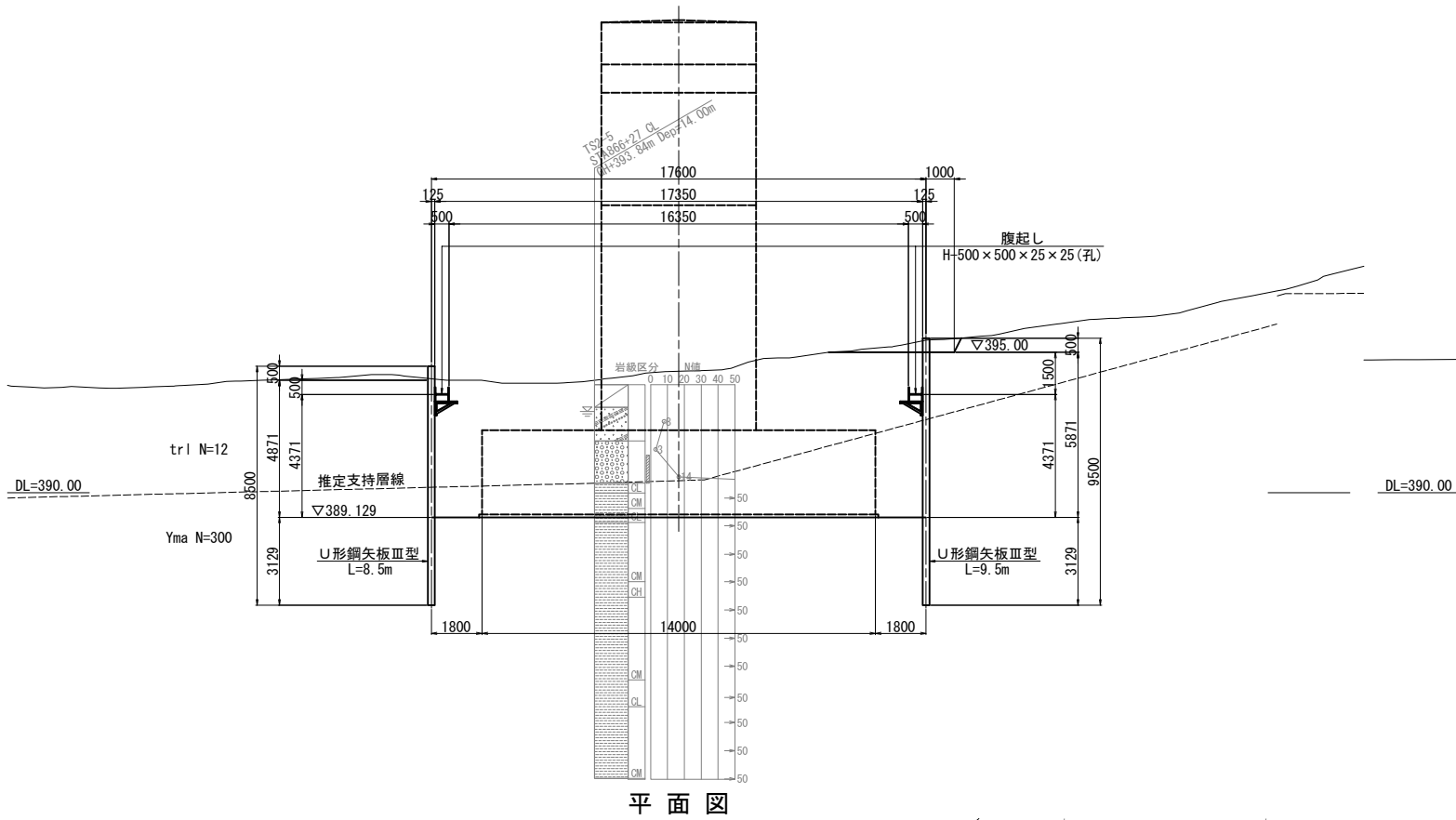
道東自動車道			
下トムム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その 7）

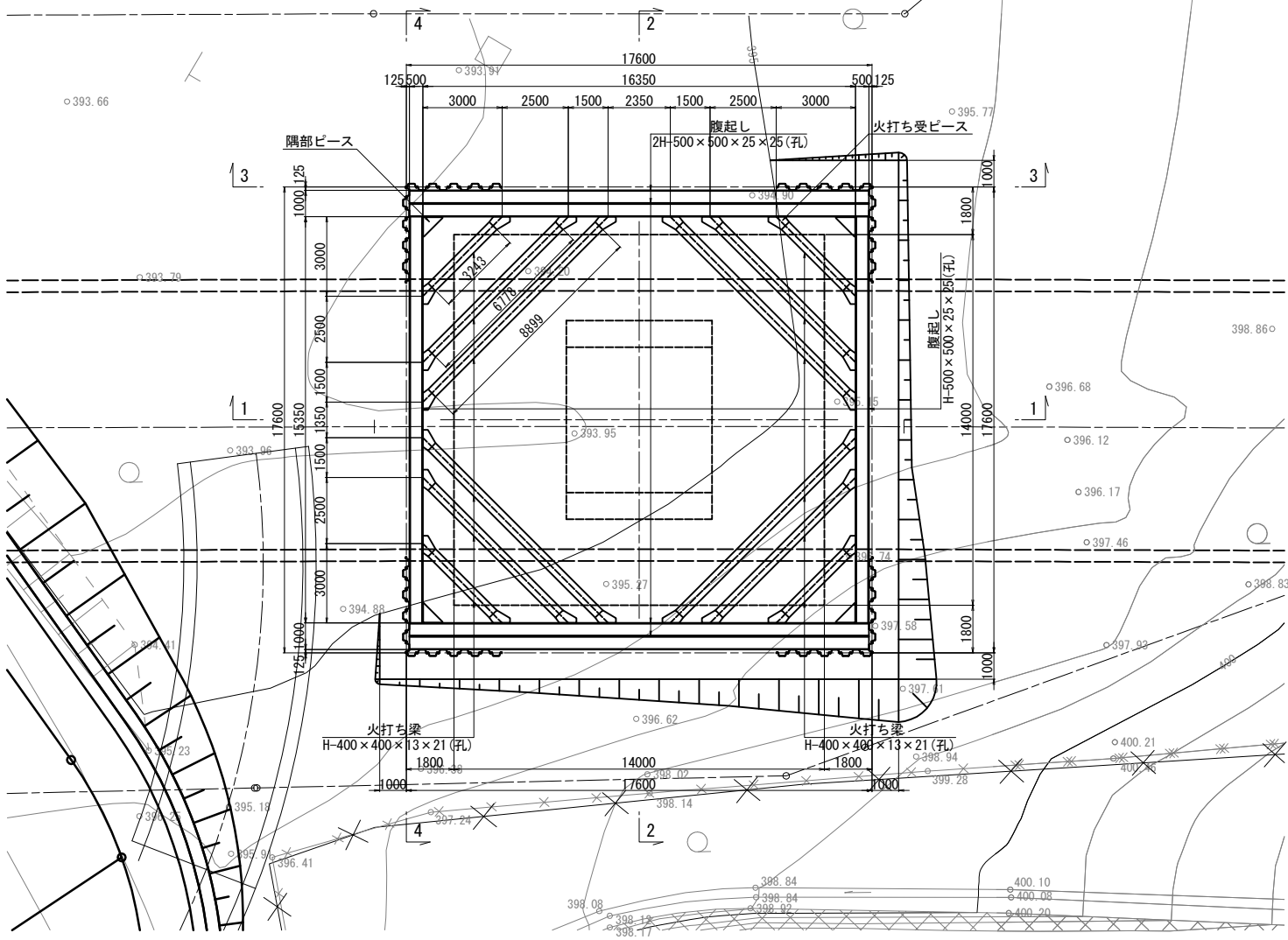
鉄筋表（下部工施工）

種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要	材 質								
※ C 1-1	D51	11000	34	15.9	175	5950	 (34)	SD490								
	1-2	D51	6500	34	15.9	103	 (34)	SD490								
	2-1	D51	9000	36	15.9	143	 (36)	SD490								
※ 2-2	D51	8500	36	15.9	135	4860	 (36)	SD490								
	3-1	D51	11010	14	15.9	175	 (14)	SD490								
	3-2	D51	6450	14	15.9	103	 (14)	SD490								
※ 4-1	D51	9010	16	15.9	143	2288	 (16)	SD490								
	4-2	D51	8450	16	15.9	134	2144	 (16)	SD490							
	5-1	D51	11010	4	15.9	175	700	 (4)	SD490							
※ 5-2	D51	6240	4	15.9	99.2	397	 (4)	SD490								
	小計					28881 kg										
◎ C 0 1-1	D19	6960	126	2.25	15.7	1978	 [470]	SD345								
	1-2	D19	6500	126	2.25	14.6	1840	 [470]	SD345							
	2	D19	5590	470	2.25	12.6	5922	 [60]	SD345							
◎ 3-1	D19	6990	12	2.25	15.7	188	 [60]	SD345								
	3-2	D19	6530	12	2.25	14.7	176	 [60]	SD345							
	4	D19	5620	60	2.25	12.6	756	 [60]	SD345							
小計					10860 kg											
F 1-1	D35	11600	82	7.51	87.1	7142	 (82)	SD345								
	1-2	D35	7630	82	7.51	57.3	4699	 (82)	SD345							
	2-1	D35	11200	9	7.51	84.1	757	 (9)	SD345							
2-2	D35	8030	9	7.51	60.3	543	 (9)	SD345								
	3-1	D35	8000	44	7.51	60.1	2644	 (44)	SD345							
	3-2	D35	6530	44	7.51	49.0	2156	 (44)	SD345							
4-1	D35	8300	2	7.51	62.3	125	 (2)	SD345								
	4-2	D35	6230	2	7.51	46.8	94	 (2)	SD345							
	5-1	D38	11500	84	8.95	103	8652	 (84)	SD345							
5-2	D38	7520	84	8.95	67.3	5653	 (84)	SD345								
	6-1	D38	12000	4	8.95	107	428	 (4)	SD345							
	6-2	D38	7020	4	8.95	62.8	251	 (4)	SD345							
7-1	D38	11200	3	8.95	100	300	 (3)	SD345								
	7-2	D38	7820	3	8.95	70.0	210	 (3)	SD345							
	8-1	D38	8000	46	8.95	71.6	3294	 (46)	SD345							
8-2	D38	6610	46	8.95	59.2	2723	 (46)	SD345								
	9-1	D35	8500	44	7.51	63.8	2807	 (44)	SD345							
	9-2	D35	6230	44	7.51	46.8	2059	 (44)	SD345							
10-1	D35	8200	2	7.51	61.6	123	 (2)	SD345								
	10-2	D35	6530	2	7.51	49.0	98	 (2)	SD345							
	11-1	D38	8500	46	8.95	76.1	3501	 (46)	SD345							
11-2	D38	6310	46	8.95	56.5	2599	 (46)	SD345								
	12-1	D19	11500	26	2.25	25.9	673	—	SD345							
	12-2	D19	2990	26	2.25	6.73	175	—	SD345							
13-1	D19	11500	26	2.25	25.9	673	 (26)	SD345								
	13-2	D19	3510	26	2.25	7.90	205	—	SD345							
小計					52584 kg											
◎ F 0 1	D16	3050	220	1.56	4.76	1047	[220]	SD345								
	小計					1047 kg										

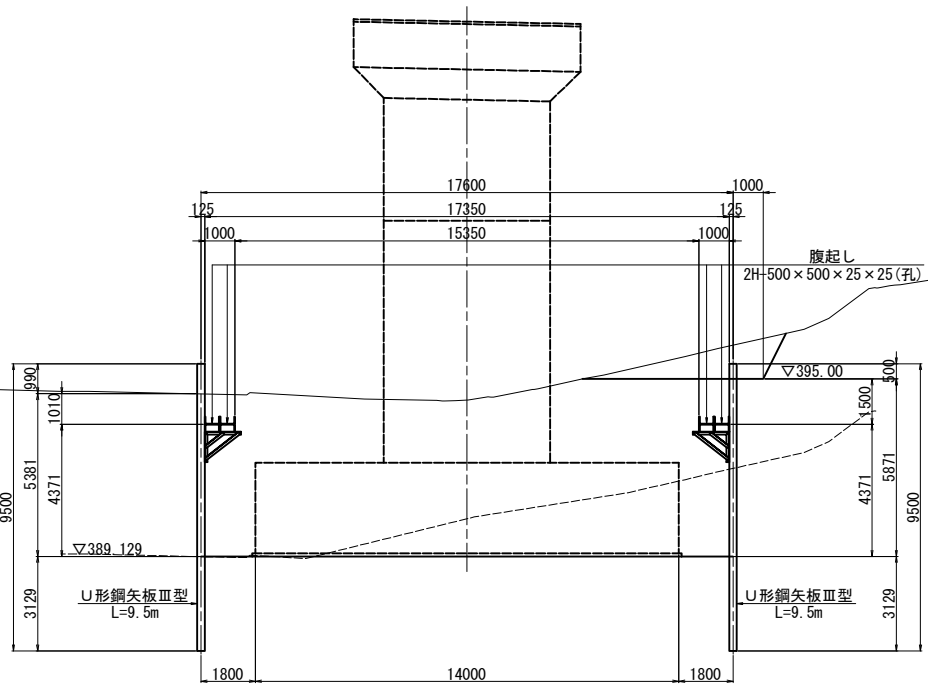
断面図(1-1)



平面図

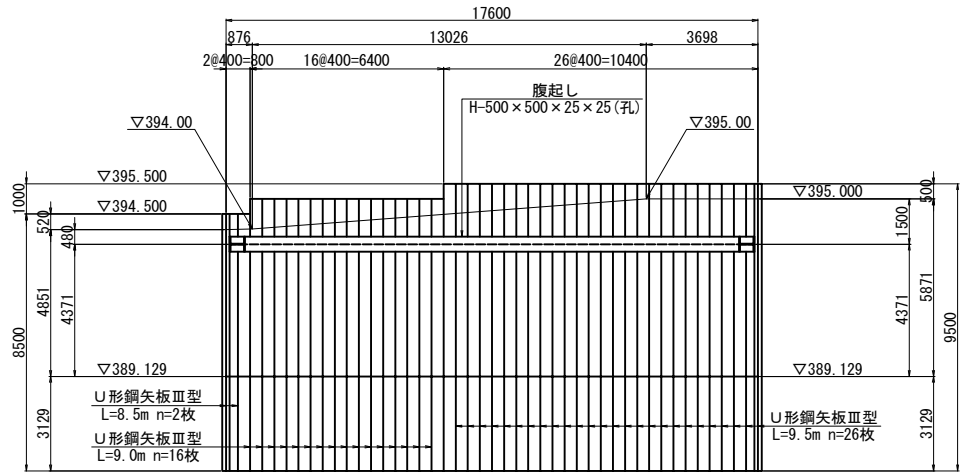


断面図(2-2)



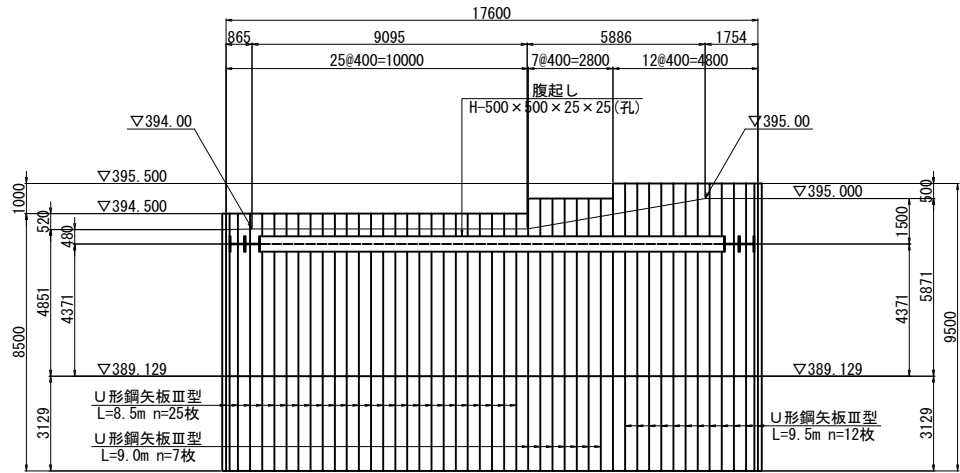
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚土留工詳細図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

断面図 (3-3)



DL=390.00

断面図 (4-4)



DL=390.00

材料表

種 別	形状寸法	長さ (mm)	数量	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	材質	摘要
普通鋼矢板 (リース材)								
鋼矢板	Ⅲ型	9 500	126	60.0	570.0	71 820	SY295	
〃	〃	9 000	23	60.0	540.0	12 420	〃	
〃	〃	8 500	27	60.0	510.0	13 770	〃	
仮設材鋼矢板合計						98 010 kg		
支保工 (リース材)								
腹 起 し	H-500×500×25×25	17 350	4	300	5 205.0	20 820	SS400	
〃	〃	15 350	2	300	4 605.0	9 210	〃	
火打ち梁	H-400×400×13×21	8 899	4	200	1 779.8	7 119	SS400	
〃	〃	6 778	4	200	1 355.6	5 422	〃	
〃	〃	3 243	4	200	648.6	2 594	〃	
主部材合計						45 165 kg		
カバープレート								
	H-500用		12		104.0	1 248	SS400	
隅部ピース	H-500用		4		171.0	684	〃	
火打受ピース	H-400用		24		110.0	2 640	〃	
副部材合計						4 572 kg		
合 計						49 737 kg		
鋼製山留材 主部材合計					45.165 t			
鋼製山留材 副部材合計					4.572 t			
鋼製山留材 消耗部品合計 (主部材×0.04)					1.807 t			
鋼製山留材 合計					51.544 t			
※火打長は全長より火打ちピース長 (2×0.50m) を控除した長さとする。								
※カバープレートは1腹起し当り2個を想定する。								

鋼矢板圧入数量表

規 格	工 種	単位	数 量	摘 要
鋼矢板Ⅲ型	施工枚数	枚	176	
	1枚当たり打込み長	m	8.7	
	平均N値	-	178	
	土質区分	bk	-	N=25
		trl	663.0	N=12
		Yma	875.6	N=300
		合 計	1538.6	

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	滝の沢川橋（下り線） P 3 橋脚土留工詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		